

なか の さこ
中ノ迫第3遺跡

Nakanosako 3 Site

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書41

2007

宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第144集

『中ノ迫第3遺跡』正誤表

ページ・図番号	誤	正
P5 右37行目	接合を行った。	接合を行った。また、築石遺構・炉穴の埋土の一部はセンター内にてフローテーション作業を行った。
p7 第6図	G~H 灰線	G~H 黒線
p8 第7図	2段目 F	2段目 E
p10 第10図		3.3cmが10m
p12 左38行目	VI層からは遺物集中部3箇所を	VI層からは遺物集中部4箇所を
p13 土坑注記	SC3 1~2程度の橙色粒子を含む~	SC3 1~2cm程度の橙色粒子を含む~
p17 右12行目	B区に1群と2基が~	B区に1基と2群が~
p24 第20図	S	K
p24 第20図	M-M' M'側の14a	14b
P27 築石遺構土層注記	SI10-1 2.暗褐色土(Hue10YR3/3)しまりや粘性弱い。炭化物を微量含む。	2層目 無し
p28 L-L' 7		褐色土(Hue7.5YR4/4)粘性やや強く軟らかい。10層直上。炭化物を多量に含む。1~2cmの褐灰色ブロックを含む。
p30		SC13 1.暗褐色土10YR3/3 やや粘性あり、硬くしまる。1cm大の黒褐色土10YR2/2のブロックや炭化物が混じる。
p31 SI12	同グリッド内に密集する3築石の内、	同グリッド内に密集する4基の築石遺構の内、
p31 SI22	比較的、SI42に近い箇所で検出した。	比較的、SI32に近い箇所で検出した。
p31 SI23	SI27・28に隣接してアカホヤ火山灰残存下にて検出された。	SI30・8に隣接してアカホヤ火山灰残存下にて検出された。
p31 SI33と34 備考		SI33の備考とSI34の備考が逆
p32 SP1-4 備考	床面はⅧ層上位であり、	床面はⅨ層上位であり
p32 SP2-4 備考	台石(103)	台石(104)
p32 第6表	SC12 H13bグリッド	H13cグリッド
p57~59 分類	番号36・70・87~91のⅡ2類	全てⅢ類
p77 図版10	(6)40	(6)30
p78 図版11	(22)99	(22)32

なか の さこ
中ノ迫第3遺跡

Nakanosako 3 Site

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書41

2007

宮崎県埋蔵文化財センター

序

宮崎県教育委員会では、東九州自動車道（都農～西都間）建設予定地にかかる埋蔵文化財発掘調査を平成11年度から実施しております。本書は、その中の中ノ迫第3遺跡の調査成果を記載したものです。

中ノ迫第3遺跡の調査では、おもに縄文時代早期前半の集石遺構32基、炉穴21基が発見され、当時の生活の在り方をよく示す貴重な資料を得ることができました。このほか、近年、類例が増加している後期旧石器時代初頭の局部磨製石斧も出土し、こちらも大いに注目されます。また、台地北部に中ノ迫第1遺跡・中ノ迫第2遺跡が隣接しており、1つの遺跡群として当地域の歴史を解明する上で貴重な資料になると考えられます。

このように、本遺跡からは多くの貴重な成果を得ることができ、本書が学術資料としてのみでなく、学校教育や生涯学習の場などで大いに活用されると幸いです。

なお、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関や地元の方々、並びにご指導・ご助言を賜った先生方に対して、厚くお礼申し上げます。

平成19年3月

宮崎県埋蔵文化財センター
所長 清野 勉

例 言

- 1 本書は、東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴い、宮崎県埋蔵文化財センターが平成16～17年度に実施した宮崎県児湯郡川南町大字川南字中の迫に所在する、中ノ迫第3遺跡の発掘調査報告書である。
（詳細番地は、宮崎県児湯郡川南町大字川南字中の迫1170-242、1170-241-1・2、1170-232-2・3、1170-709、1170-711である。）
- 2 発掘調査は、日本道路公団九州支社から委託を受けて宮崎県教育委員会が調査主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。なお、日本道路公団は平成17年10月1日より分割民営化され、西日本高速道路株式会社九州支社となったが、本報告書中では日本道路公団として記載する。
- 3 現地での実測及び写真等の記録は、渡辺美幸・堀田孝博・天野玄普・石津晴菜が行ったほか、発掘作業員が補助した。
- 4 本書の執筆・編集は渡辺美幸が担当し、藤木聡が補助した。本書使用の遺物実測図の作成は渡辺美幸が行ったほか、整理作業員が補助した。出土遺物写真は、当センターの竹田享志の協力を得て渡辺美幸が撮影した。
- 5 測量・空中写真・自然科学分析等は次の機関に委託した。
地形測量・グリッド杭設定 : (有) 川南技術コンサルタント
空中写真撮影 : (株) 九州航空
自然科学分析 : (株) 古環境研究所
- 6 本書で使用した周辺遺跡分布図は、国土地理院発行25,000分の1地形図をもとに、遺跡周辺地形図は、日本道路公団九州支社宮崎工事事務所提供1,000分の1測量図をもとに作成した。
- 7 本書で使用した方位は座標北 (G.N.) を基本とするが、遺構実測図などの一部に磁北 (M.N.) を用いた。標高は海拔絶対高である。なお、国土座標は旧平面直角座標系Ⅱに基づく。
- 8 土層断面・石材・土器の色調については農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』に準拠した。
- 9 本報告書では遺構を下記の略号を用いている。
SI=礫群・集石遺構 SC=土坑 SP=炉穴
- 10 挿図の縮尺は各図に示している。
- 11 東九州自動車道関連遺跡の発掘調査では、基本的に認められるテフラやローム層、黒色土帯については共通の略称を用いている。
テフラ：K-Ah=鬼界アカホヤ、Kr-Kb=霧島小林軽石、AT=始良Tn
土層：ローム層は上層から順にML 1・ML 2…、黒色帯はNB0・MB 1・MB 2…
- 12 出土遺物その他の諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。

本文目次

第I章	はじめに	
第1節	発掘調査に至る経緯	1
第2節	調査の組織	1
第II章	遺跡の位置と環境	
第1節	地理的環境	2
第2節	歴史的環境	2
第III章	調査の方法と経過・概要	
第1節	確認調査の概要	5
第2節	発掘調査の方法と経過	5
第3節	整理作業及び報告書作成	5
第IV章	調査の記録	
第1節	基本土層と土層堆積	6
第2節	後期旧石器時代の遺構と遺物	
1	旧石器時代I期	9
2	旧石器時代II期	11
3	旧石器時代III期	11
4	旧石器時代IV期	12
第3節	縄文時代早期の遺構と遺物	
1	集石遺構	17
2	炉 穴	17
3	出土土器	22
4	出土石器	22
5	遺構出土の遺物	22
第V章	自然科学分析	
第1節	中ノ迫第3遺跡における放射性炭素年代測定	62
第2節	中ノ迫第3遺跡における炭化種実同定	64
第VI章	まとめ	66

挿 図 目 次

第1図	遺跡位置・周辺遺跡分布図	3
第2図	周辺地形と調査グリッド配置図	4
第3図	確認調査トレンチ配置図	4
第4図	土層柱状図	6
第5図	土層断面図(1)	7
第6図	グリッド配置図・土層断面位置図	7
第7図	土層断面図(2)	8
第8図	旧石器時代I期遺物実測図	9
第9図	旧石器時代I期遺物出土位置図	9
第10図	旧石器時代II~IV期調査範囲・遺構遺物分布図	10
第11図	旧石器時代II期遺構実測図	11
第12図	旧石器時代III・IV期遺構実測図	13
第13図	旧石器時代II~IV期遺物実測図	14
第14図	縄文時代早期遺構遺物分布図	18
第15図	集石遺構実測図(1)	19
第16図	集石遺構実測図(2)	20
第17図	集石遺構実測図(3)	21
第18図	集石遺構実測図(4)	22
第19図	炉穴実測図(1)	23
第20図	炉穴実測図(2)	24
第21図	炉穴実測図(3)	25
第22図	土坑実測図	26
第23図	縄文時代早期土器実測図(1)	33
第24図	縄文時代早期土器実測図(2)	34
第25図	縄文時代早期土器実測図(3)	35
第26図	縄文時代早期土器実測図(4)	36
第27図	縄文時代早期土器実測図(5)	37
第28図	縄文時代早期土器実測図(1)	38
第29図	縄文時代早期土器実測図(2)	39
第30図	縄文時代早期土器実測図(3)	40
第31図	縄文時代早期土器実測図(4)	41
第32図	縄文時代早期土器実測図(5)	42
第33図	縄文時代早期土器実測図(6)	43
第34図	縄文時代早期土器実測図(7)	44
第35図	縄文時代早期土器実測図(8)	45
第36図	縄文時代早期土器実測図(9)	46
第37図	縄文時代早期土器実測図(10)	47
第38図	縄文時代早期土器実測図(11)	48
第39図	縄文時代早期土器実測図(12)	49
第40図	縄文時代早期土器実測図(13)	50
第41図	縄文時代早期土器実測図(14)	51
第42図	縄文時代早期土器実測図(15)	52
第43図	縄文時代早期土器実測図(16)	53
第44図	縄文時代早期土器実測図(17)	54
第45図	縄文時代早期土器実測図(18)	55
第46図	縄文時代早期土器実測図(19)	56

表 目 次

第1表	礫群観察表(1)	15
第2表	礫群観察表(2)	16
第3表	集石遺構観察表(1)	31
第4表	集石遺構観察表(2)	32
第5表	炉穴観察表	32
第6表	土坑観察表	32
第7表	縄文時代早期土器観察表(1)	57
第8表	縄文時代早期土器観察表(2)	58
第9表	縄文時代早期土器観察表(3)	59
第10表	縄文時代早期土器観察表(1)	60
第11表	縄文時代早期土器観察表(2)	61

図 版 目 次

図版1	遺跡俯瞰(垂直方向より)	68
図版2	遺跡遠景(1)	69

日向灘をのぞむ(中央・道路左側が中ノ迫第3遺跡)
遺跡遠景(2)

舌状台地の縁辺に立地する中ノ迫第3遺跡(遠くは尾鈴山系)

図版3		70
-----	--	----

A区 K-Ah残存状況(南より)

B区 K-Ah残存状況(南より)

作業風景

基本土層

B区 旧石器時代I期(Xa層検出)遺物出土状況

B区 旧石器時代II期(IX層検出)SI1検出状況

A区 旧石器時代III期(VI層検出)SI2検出状況

図版4		71
-----	--	----

B区 旧石器時代III期(VI層検出)SI7検出状況

B区 旧石器時代IV期(V層検出)SC3半載状況

B区 旧石器時代IV期(V層検出)SC3土層堆積状況

A区 縄文時代早期(IV層検出)SI38検出状況

A区 縄文時代早期(V層検出)SI33検出状況

A区 縄文時代早期(V層検出)SI12検出状況

A区 縄文時代早期(V層検出)SI11配石検出状況

A区 縄文時代早期(V層検出)SI19半載状況

図版5		72
-----	--	----

A区 縄文時代早期(V層検出)SI19完掘状況

B区 縄文時代早期(V層検出)SI29半載状況

B区 縄文時代早期(V層検出)SI8半載状況

A区 縄文時代早期(VII層検出)SP1焼土面検出状況

A区 縄文時代早期(VI層検出)SP2焼土面検出状況

B区 縄文時代早期(VI層検出)SP3焼土面検出状況

B区 縄文時代早期(VI層検出)SP4検出面状況

B区 縄文時代早期(VII層検出)SP5検出面状況

図版6		73
-----	--	----

B区 縄文時代早期(VI層検出)SP5ブリッジ検出状況

B区 縄文時代早期(VI層検出)SP5ブリッジ半載状況

B区 縄文時代早期(VII層検出)SP5焼土面状況

A区 縄文時代早期(V層検出)SC5検出状況

A区 縄文時代早期(V層検出)SC5半載状況

A区 縄文時代早期(V層検出)SC4半載状況

B区 縄文時代早期(V層検出)SC14半載状況

B区 縄文時代早期(V層検出)SC13半載状況

図版7		74
-----	--	----

旧石器時代I期 出土遺物

旧石器時代III~IV期 出土石器(1)

旧石器時代III~IV期 出土石器(2)

縄文時代早期 SP5埋土中出土遺物(1) 磨石・敲石・台石

縄文時代早期 SP5埋土中出土遺物(2) 台石

縄文時代早期 SP2埋土中出土遺物 台石

縄文時代早期 SP2出土遺物・SI27・SI8・包含層中出土遺物

縄文時代早期 出土石器(1) 石鏃・スクレイパー

図版8		75
-----	--	----

縄文時代早期 出土石器(2) 二次加工剥片・スクレイパー

縄文時代早期 出土石器(3) スクレイパー

縄文時代早期 出土石器(4) 石斧

縄文時代早期 出土石器(5) 石斧

縄文時代早期 出土石器(6) 石斧・礫器

縄文時代早期 出土石器(7) 礫器

縄文時代早期 出土石器(8) 礫器

縄文時代早期 出土石器(9) 礫器

図版9		76
-----	--	----

縄文時代早期 出土石器(10) 石核

縄文時代早期 出土石器(11) 石核

縄文時代早期 出土石器(12) 石核

縄文時代早期 出土石器(13) 石核

縄文時代早期 出土石器(14) 石核

縄文時代早期 出土石器(15) 石核

縄文時代早期 出土石器(16) 敲石・磨石

縄文時代早期 出土石器(17) 敲石・磨石・凹石

図版10	縄文時代早期 出土石器(1)~(12)	77
------	---------------------	----

図版11	縄文時代早期 出土石器(13)~(24)	78
------	----------------------	----

第 I 章 はじめに

第 1 節 発掘調査に至る経緯

宮崎県は、平成元年に東九州自動車道(延岡～清武間)の基本計画が設けられ、平成8年12月には門川～西都間59kmが、国土開発幹線自動車道建設審議会にて、整備計画区に決定された。宮崎県教育委員会では、平成6年度に延岡～西都間の分布調査を実施した。さらに整備区間決定後、都農～西都間の分布調査を実施し、79遺跡896,000m²の埋蔵文化財包蔵地を確認した。平成11年度から用地買収に合わせ日本道路公団九州支社から宮崎県が委託を受け、宮崎県埋蔵文化財センターにより東九州自動車道(都農～西都間)建設工事に伴う発掘調査が行われた。

本遺跡は、平成16年5月24日から7月7日まで本調査に先立ち、10,200m²を対象に中ノ迫第3遺跡の確認調査を実施した。また、同時に隣接する中ノ迫第4遺跡の確認の調査も行った。その結果、中ノ迫第3遺跡の対象範囲南側は大幅な削平により包含層を確認出来なかったが、北側2,560m²では縄文時代早期の集石遺構や石斧・石鏃・剥片等の遺物を確認した。よって、北側2,560m²について本調査が必要となった。公団との協議の結果、記録保存のため本調査を平成16年11月26日から平成17年8月4日まで実施した。

中ノ迫第4遺跡では、包含層が残存していないことから確認調査にて調査終了となった。

第 2 節 調査の組織

中ノ迫第3遺跡の調査組織は次のとおりである。

(調査主体) 宮崎県教育委員会

宮崎県埋蔵文化財センター

所 長

宮園 淳一 (平成16・17年度)

清野 勉 (平成18年度)

副所長兼調査第二課長

岩永 哲夫 (平成16～18年度)

副所長兼総務課長

大藪 和博 (平成16年度)

副所長

加藤 悟郎 (平成18年度)

総務課長

宮越 尊 (平成17・18年度)

主幹兼総務係長

石川 恵史 (平成16・17年度)

主幹兼総務担当リーダー

高山 正信 (平成18年度)

(調査第一課)

調査第一課長

高山 富雄 (平成16～18年度)

調査第一係長

谷口 武範 (平成16年度)

主幹兼調査第一係長

長津 宗重 (平成17年度)

主幹兼調査第一担当リーダー

長津 宗重 (平成18年度)

調査第二係長

長津 宗重 (平成16年度)

主幹兼調査第二係長

菅付 和樹 (平成17年度)

主幹兼調査第二担当リーダー

菅付 和樹 (平成18年度)

調査担当

主 事 渡辺 美幸 (平成16・17年度)

主 事 堀田 孝博 (平成16年度)

主 事 天野 玄普 (平成17年度)

調 査 員 石津 晴菜 (平成17年度)

整理・報告担当

主 事 渡辺 美幸 (平成17～18年度)

調査指導委員 (所属は調査当時・五十音順)

泉 拓良 (京都大学)・小畑弘己 (熊本大学)

田崎博之 (愛媛大学)

広瀬和雄 (国立歴史民俗博物館)

本田道輝 (鹿児島大学)・柳沢一男 (宮崎大学)

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

川南町は、日向灘を望む宮崎県北東部に位置し北は都農町、西は木城町、南は高鍋町に接している。町北東部には1,040mを誇る上面木山を中心とする尾鈴山系が連なり、その東麓から海岸にかけては小丸川や平田川、名貴川によって形成された平坦な14面の段丘が広がり、北から大きく唐瀬原・国光原・川南・高城の4面に分かれる。中ノ迫第3遺跡は、唐瀬原段丘の内、大内・大内原・須田久保に広がる舌状台地の縁辺部標高90m前後に立地し、南方には小丸川支流の切原川が流れ、十文字扇状地Ⅱ面が広がる。

遺跡周囲には同台地上に、北から中ノ迫第1遺跡と第2遺跡、北東側に中の迫A遺跡、南の扇状地に前ノ田村上第1遺跡と第2遺跡が分布する。

第2節 歴史的環境

川南町は、北西から南東にかけ山地・段丘と扇状地からなり、多くが山地・段丘である。昭和前半には国営開田事業が行われ、その多くが田畑に利用されている。本遺跡も畑地利用のため範囲の大半が大幅な削平により旧地形を残していない。また地域住民の聞き取りを行った結果、畑地利用後は隣接する人家の産廃場も兼ねていたことから多数の攪乱が見られた。

本遺跡の調査では、後期旧石器時代の文化層4枚(AT下2枚・AT上2枚)と縄文時代の文化層1枚(早期1枚)の計5枚を確認した。これらの時代について、中ノ迫第3遺跡周囲の遺跡を中心に特筆すべき点を述べる。後期旧石器時代AT上の文化層確認の遺跡については、分布のみ記す。

(後期旧石器時代AT下：ML3～MB3下部)

川南段丘面に後牟田遺跡がある。礫群と斜軸尖頭器・鋸歯縁石器などが第Ⅲ文化層で確認されている。また、同じ頃の遺物として都農町朝倉遺跡、新富町音明寺第2遺跡出土の局部磨製石斧がある。

(後期旧石器時代AT下・高位段丘面上の遺跡：MB2・3上部)

北から中ノ迫第1遺跡(ナイフ形石器・剥片・台石)、中ノ迫第2遺跡(剥片)、国光原遺跡(MB2：台形石器・

礫器・石核、MB3：敲石・石斧)、後牟田遺跡第Ⅱ文化層(ナイフ形石器・削器・斧形石器・台形様石器)がある。

(後期旧石器時代AT下・低位段丘面上の遺跡：MB2・3)

赤石・天神本遺跡(スクレイパー)、銀座第2遺跡(礫群1基、ナイフ形石器、剥片)、登り口第1遺跡(剥片)、市納上第2遺跡(剥片)がある。

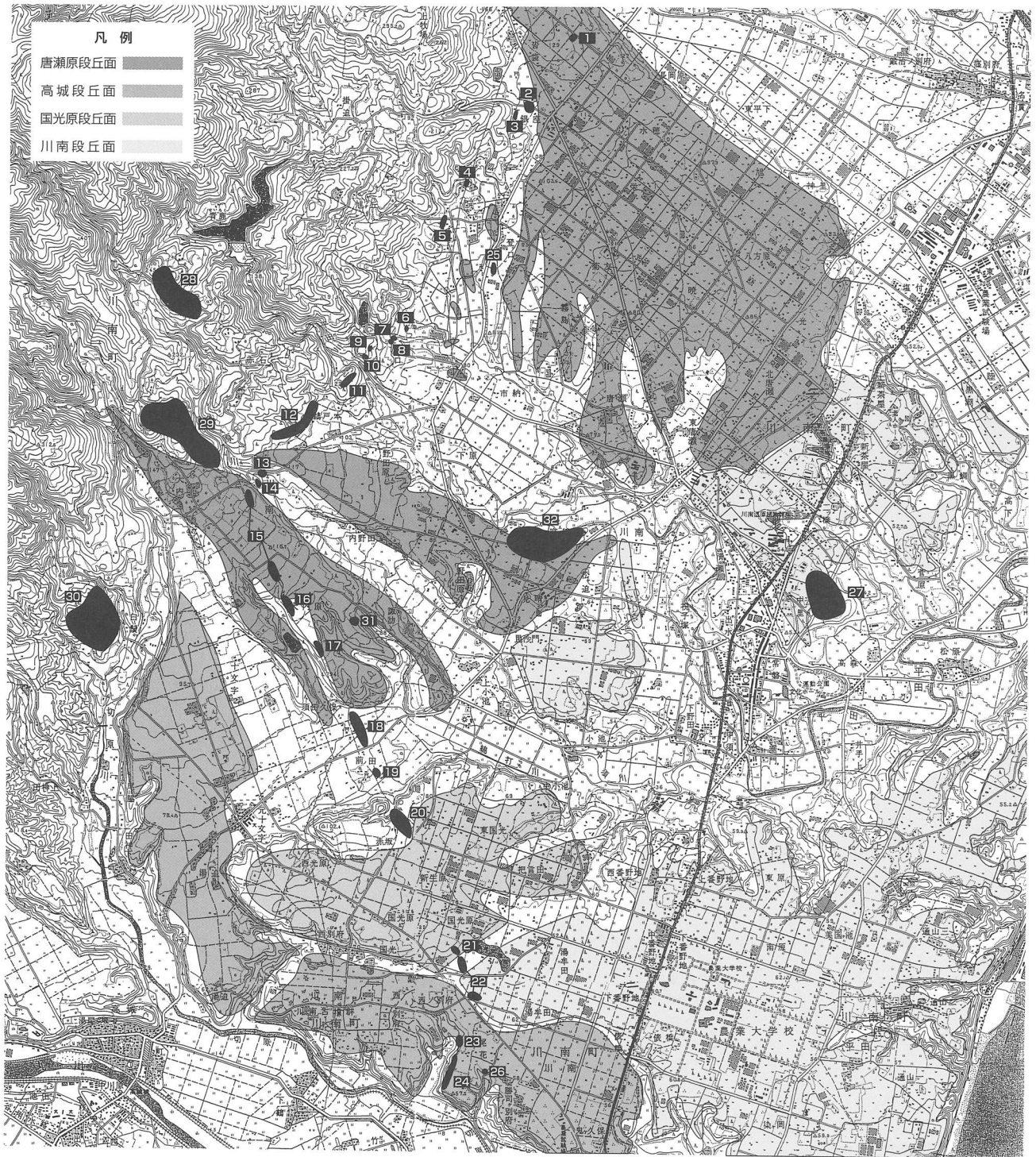
(縄文時代)

川南町の発掘調査された縄文時代の遺跡は、近年の東九州自動車道建設に伴って計27箇所が増えていく。内、縄文時代草創期5箇所、早期の遺跡は26箇所、前期3箇所、中期1箇所、後期3箇所、晩期1箇所である。草創期の遺跡では、隆起線(隆帯)文土器の伴う石器群が確認された赤石・天神本遺跡がある。縄文時代早期では、集石遺構がほぼ全ての遺跡で確認されている。尾花坂上遺跡では、計34基の集石遺構が確認され、礫形状の比較より、検出された集石遺構は準備礫や廃棄礫の可能性が高いことが裏付けられている。天神本第2遺跡では、石鏃未製品や破片が製品と共に出土し、石器製作跡と考えられている。霧島遺跡では無文土器が単独出土している。

前期としては尾花A遺跡で轟B式・曾畑式土器が集石遺構に伴って出土している。また、市納上第4遺跡では中期の阿高式系や後期の指宿式土器が出土している。

主な参考文献

川南町 1983『川南町史』、川南町教育委員会
1983『川南町の埋蔵文化財』遺跡詳細分布調査報告書、川南町教育委員会
2002『後牟田遺跡』宮崎県川南町後牟田遺跡における旧石器時代の研究、宮崎県埋蔵文化財センター
2002『尾花坂上遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第101集、宮崎県埋蔵文化財センター
2005『東九州自動車道(都農～西都間) 関連埋蔵文化財発掘調査概要報告書V』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第111集、宮崎県埋蔵文化財センター
2006『虚空庵免遺跡、赤石・天神本遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第122集



- | | | | |
|------------|--------------|--------------|-------------|
| 1 銀座第1遺跡 | 2 銀座第2遺跡 | 3 銀座第3B遺跡 | 4 登り口第1遺跡 |
| 5 登り口第2遺跡 | 6 市納上第1遺跡 | 7 市納上第2遺跡 | 8 市納上第3遺跡 |
| 9 市納上第4遺跡 | 10 市納上第5遺跡 | 11 虚空蔵免遺跡 | 12 赤石・天神本遺跡 |
| 13 天神本第2遺跡 | 14 大内原遺跡 | 15 中ノ迫第1遺跡 | 16 中ノ迫第2遺跡 |
| 17 中ノ迫第3遺跡 | 18 前ノ田村上第1遺跡 | 19 前ノ田村上第2遺跡 | 20 赤坂遺跡 |
| 21 国光原遺跡 | 22 湯牟田遺跡 | 23 西ノ別府遺跡 | 24 尾花A遺跡 |
| 25 霧島遺跡 | 26 尾花坂上遺跡 | 27 後牟田遺跡 | 28 椎原遺跡 |
| 29 住吉B遺跡 | 30 白鬚遺跡 | 31 中の迫A遺跡 | 32 桶風呂遺跡 |

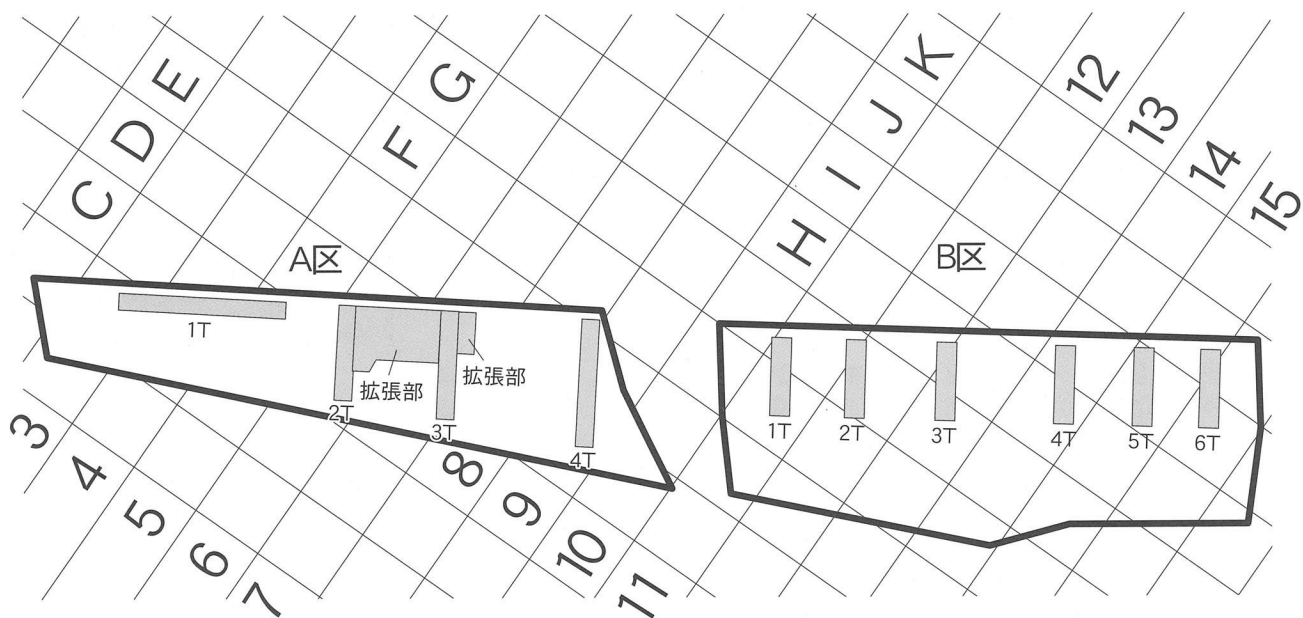
※1~24 東九州自動車道関連遺跡

第1図 遺跡位置・周辺遺跡分布図



第2図 周辺地形と調査グリッド配置図

0 ————— 100m



第3図 確認調査トレンチ配置図

第Ⅲ章 調査の方法と経過・概要

第1節 確認調査の概要

本遺跡の確認調査は、平成16年5月24日から7月7日に実施した。また、中ノ迫第3遺跡から南西の台地端部に立地する中ノ迫第4遺跡の確認調査も同時に行った。中ノ迫第3遺跡に関しては調査区を便宜上A～D区に分け、旧地形を考慮したトレンチをA区4箇所、B区6箇所、C区10箇所、D区4箇所設定した。トレンチは、重機で表土を除去した後人力により掘削を行い遺構・遺物の確認に努めた。

遺構が検出されたトレンチについては遺構分布図を作成し、本調査まで保存した。遺物に関しては出土したトレンチと層・位置を記録し取り上げを行った。トレンチ配置図及び確認遺構・遺物は次の通りである(第3図・第7～11表)。

調査の結果、調査区A区はIV層・V層にて集石遺構と貝殻条痕文土器や剥片、B区ではIV・V層で集石遺構・陥し穴と貝殻条痕文土器・石鏃等を、VI層で剥片を確認した。C・D区に関しては、包含層が残存していなかった。よって、本調査はA・B区とし、B区に関しては大幅な削平を受けた南西部を除外し、結果、2,560m²を対象とした。

第2節 発掘調査の方法と経過

調査区を先ず、私道を挟んで北を調査区A区、南を調査区B区とした。確認調査の結果から、後期旧石器時代と縄文時代早期の文化層が予想されていたので、縄文時代早期の文化層に関しては全面調査を行い、後期旧石器時代の文化層からはB区を地形に考慮した形(約2.5m×12m)の先行トレンチを設定、A区は業者委託により設定した10mグリッド(南北方向数字1～、東西方向英字A～)を付した区画内を基準に25%掘りし、調査区の一部を掘り下げた後、遺構・遺物が確認された場合のみに拡張を行う方法で遂行した。調査区内の状況は、以前は隣接する人家の畑地や産廃場として利用されていたため、多くがアカホヤ火山灰層下の縄文時代早期包含層下位まで削平され、且つ産廃用の穴(50×80×50cm)がA区南側に密集するように広がっていた。

調査は、平成16年11月29日の重機による表土剥

ぎから始まる。表土下は遺構・遺物が確認出来ず、アカホヤ火山灰層上面まで除去し精査を行った。結果遺構と考えられる跡は確認出来なかった。重機での火山灰層除去を排土処理関係よりB区から行き、次にA区に移った。12月24日から、業者委託によるグリッド杭打ちが始まる。グリッド杭設定後のB区では作業員による縄文時代早期包含層の掘削を行い、同時に調査員が遺構検出状況撮影・実測・遺物取り上げを行った。遺構は、基本的に縮尺1/10、遺物に関しては縄文時代早期をグリッド、後期旧石器時代を光波トランシットによる座標記録で行った。遺構の状況は35mmカメラにて記録保存した。調査は基本的にB区優先に行い、実測等の進行の兼ね合いを考慮しつつA区に作業員を配置し同時に縄文時代早期包含層の掘削を行った。1月7日には縄文時代包含層のV層上面にて炉穴と思われるにじみを3箇所検出する。1月28日、先行して掘り下げを行ったB区VI層にて礫群1基を検出する。2月22日、縄文時代早期面を中心とした空撮を行う。終了後、B区は先行トレンチを優先しながら後期旧石器時代包含層の掘り下げを行う。その間、A区では集石遺構の実測を行った(集石遺構:総数A区23基・B区9基)。5月13日からVI層上面まで掘り下げプランを確定した炉穴・土坑の半截・実測を行う。6月8日、両調査区内の排土搬出と調査区外の排土填圧を行う。A区は、7月17日からグリッド内の掘削を行い、7月28日遺跡内の調査終了。8月4日まで、集石遺構の礫整理を行った。

第3節 整理作業及び報告書作成

整理作業は、本調査終了後当センター本館において平成17年9月～平成18年10月まで行った。遺物の整理に関しては16年度中に水洗、注記、土器接合、拓本まで行い17～18年度に残り作業を行った。なお、後期旧石器時代の礫群の礫については、東畦原整理作業事務所において、水洗、注記、計測、接合を行った。

第IV章 調査の記録

第1節 基本土層と土層堆積

本遺跡の土層堆積はA区北東からB区南西に関しては緩やかに傾斜しており、各層は比較的順序よく堆積していると言える。土層柱状図は第4図、土層断面測定箇所と土層断面図は第5～7図を参照されたい。柱状図はA区土層を軸に作成し、下層の残存しない層については堆積状況が良好なB区土層を追加した。

I層 表土 (耕作土)

II層 黒色土

III層 黄橙色土 (Hue7.5YR7/8)

アカホヤ火山灰。K-Ah。下部層界から5cmくらいはしっかり残るが、上部はやや酸化している。

IV層 黒色土 (Hue2.5Y2/1)

MB0。アカホヤとの層界が不明瞭。2mm大の橙色 (Hue7.5YR6/8) 粒を少量含む。白い砂粒 (2mm) を多く含む。

V層 褐灰色 (Hue10YR5/1) ~

灰黄褐色土 (Hue10YR5/2)

密なローム、下部約1/4はVI層土が浮き上がった感じで、下部層界がやや不明瞭。

VI層 にぶい黄褐色土

(Hue10YR6/3~Hue10YR6/6)

小林軽石を含む褐色ローム層。

VII層 灰黄褐色土 (Hue10YR5/2)

ML2相当。ATの2次堆積土を基調とする。ATの浮き上がりが多く、下部層界がやや不明瞭。水成作用を受けたか。黒色ローム粒を1mm大で含む。

VIII層 黄橙色土 (Hue10YR7/8)

AT。やや褐色土に近く酸化しもろくなった部分が多い。あまり良好な堆積状況ではない。二次的な堆積も推測される。

IX層 黒褐色 (Hue10YR3/1) ~

褐灰色土 (Hue5YR4/1)

概ね良好な堆積状況だが、上位からATが入りこんだところも多い。白色砂粒を多く含む (上

部層界から3/5くらいまで)。下部の2/5は明るい色 (灰褐色土。Hue5YR4/2) で白色砂粒が見られない。上部3/5に堆積した部分をMB2、下部2/5に堆積した部分をMB3にあてることができると思う。

Xa層 橙色土 (Hue7.5YR6/6)

強粘土だが、2mm大の粒状にまとまりやすい。やや粗い粘土。下部層界から1~2cmは粘質化、酸化 (粒状) が進んでいる。水成作用の結果か。

Xb層 にぶい黄橙色土 (Hue10YR7/4)

密にしまる。4mm大の黄色・1cm大の黒褐色土を少し含む。

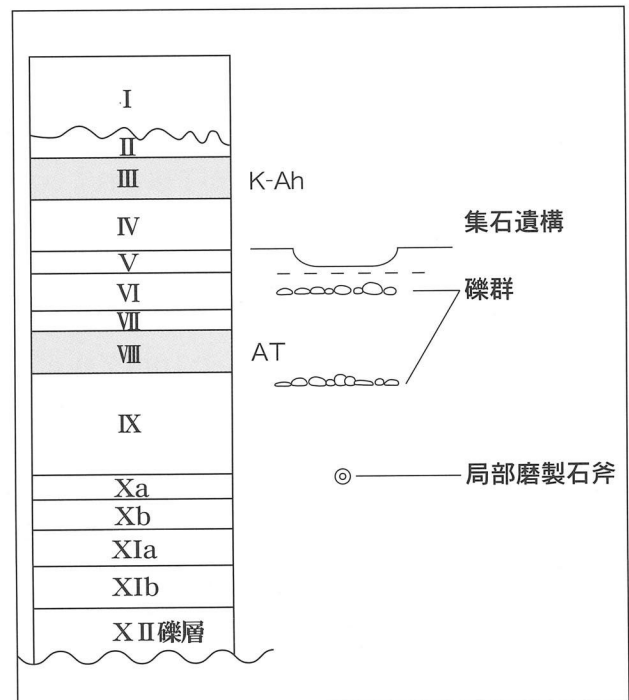
XIa層 にぶい橙色土 (Hue7.5YR6/4)

4mm大の黄色パミスを少し含む。

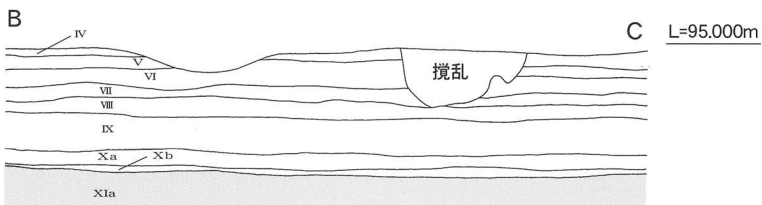
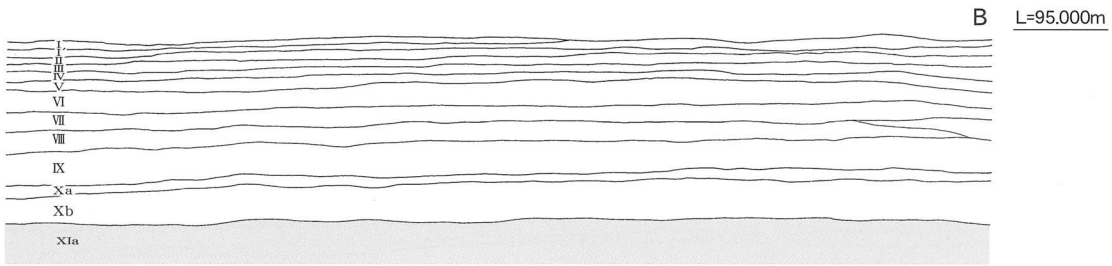
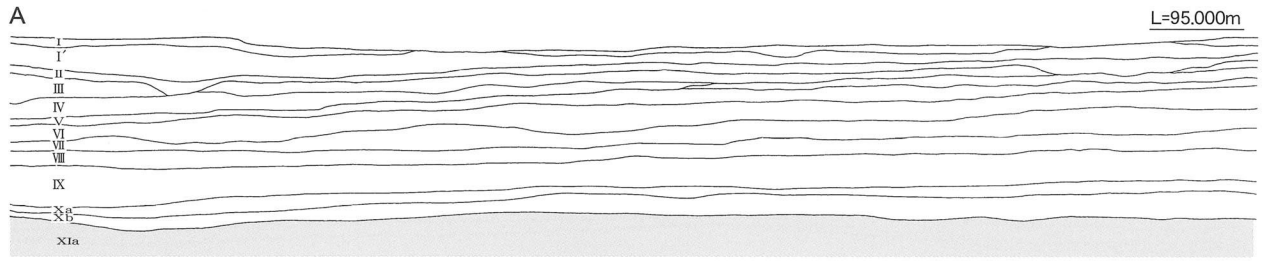
XIb層 橙色土 (Hue2.5YR6/8)

10~20cm大の尾鈴山酸性岩類を多く含む箇所が調査区の約1/3。2mm大の白色砂粒、アワオコシに由来する2mm大の赤色パミスを多く含む。粗いが、非常に密にしまっている。強く酸化して鉄サビ色をしている。

XII層 礫層

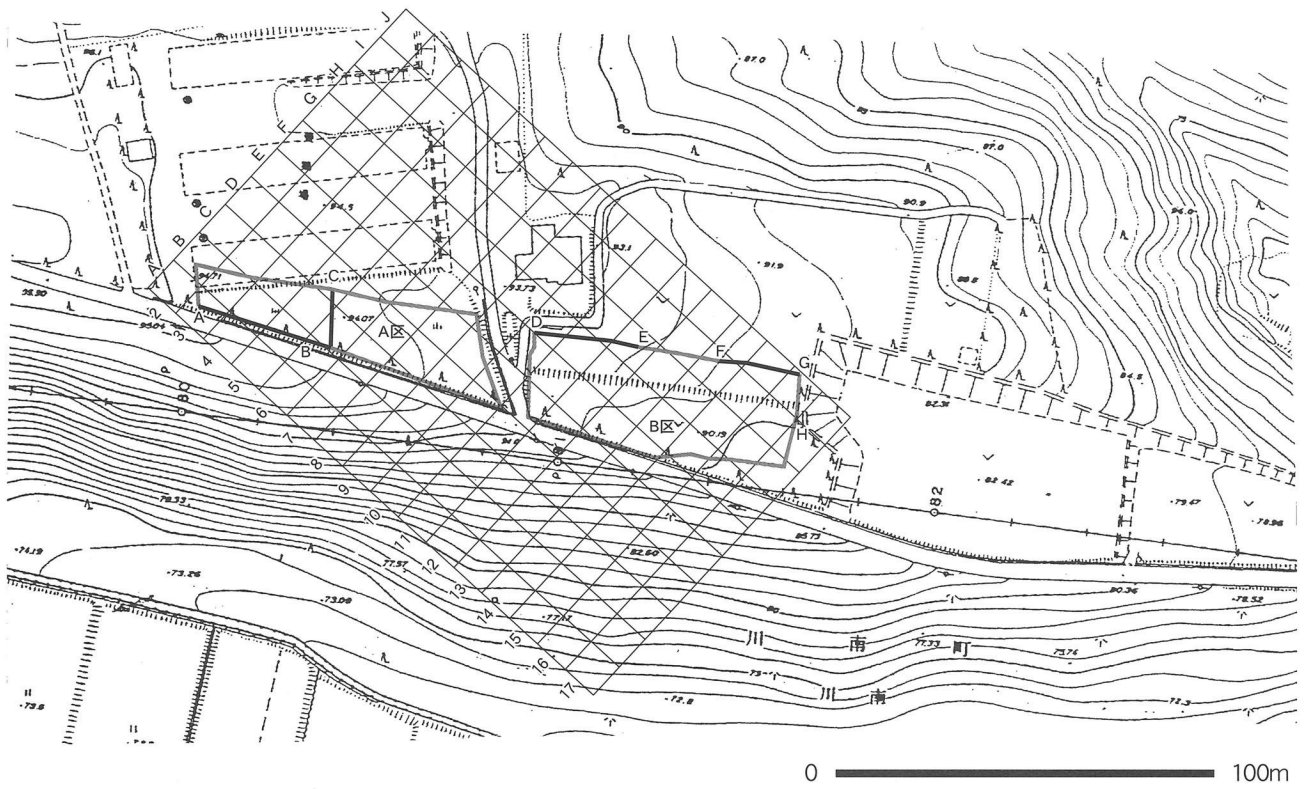


第4図 土層柱状図

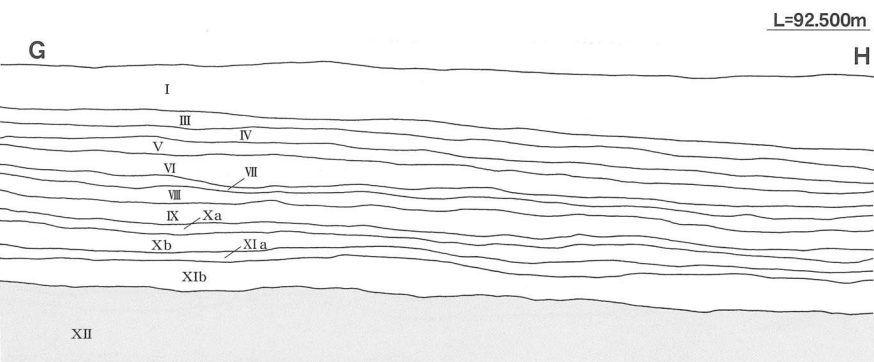
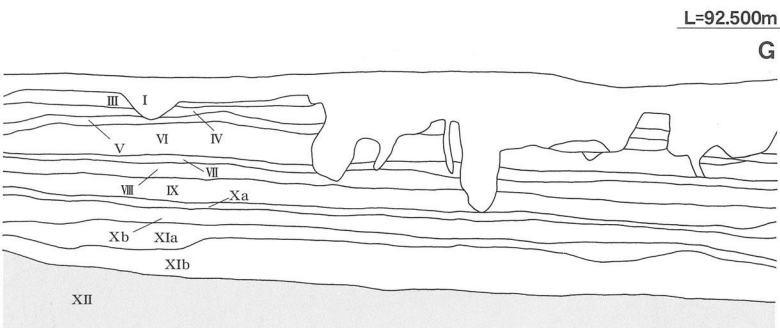
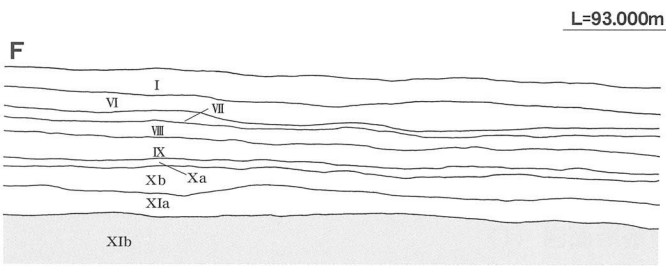
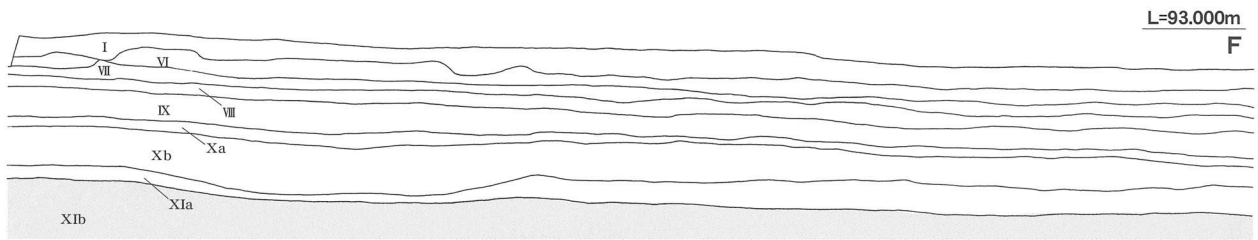
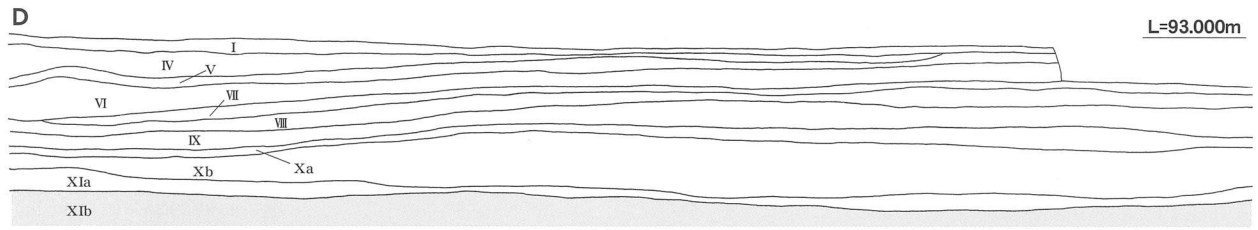


0 ————— 1m

第5図 土層断面図 (1)



第6図 グリッド配置図・土層断面位置図



0 ————— 1m

第7図 土層断面図 (2)

第2節 後期旧石器時代の遺構と遺物

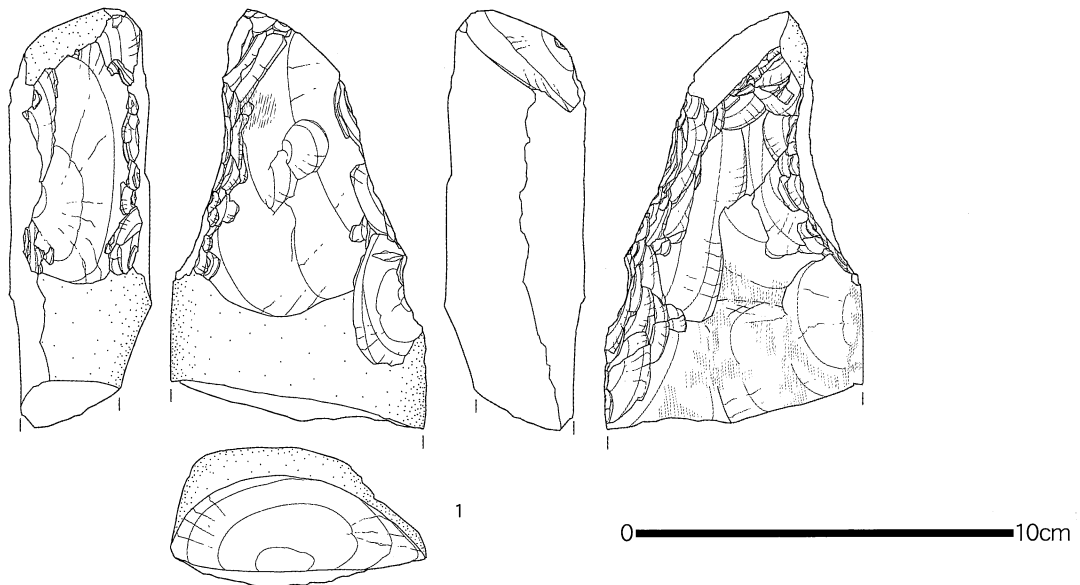
後期旧石器時代の調査は、A区はグリッド調査、B区はトレンチ調査を行った。調査面積は約280m²である。調査区の当時の地形は、北東から南西に緩やかに傾斜している。遺構はIX層上面より礫群1基を、VI層から礫群6基の計7基、土坑3基を検出した。遺物は、局部磨製石斧、ナイフ形石器、角錐状石器、細石刃、石核、剥片等が出土している。中ノ迫第3遺跡では、後期旧石器時代の文化層が計4枚確認された。よって、下層よりI～IV期として報告する。

1 旧石器時代I期

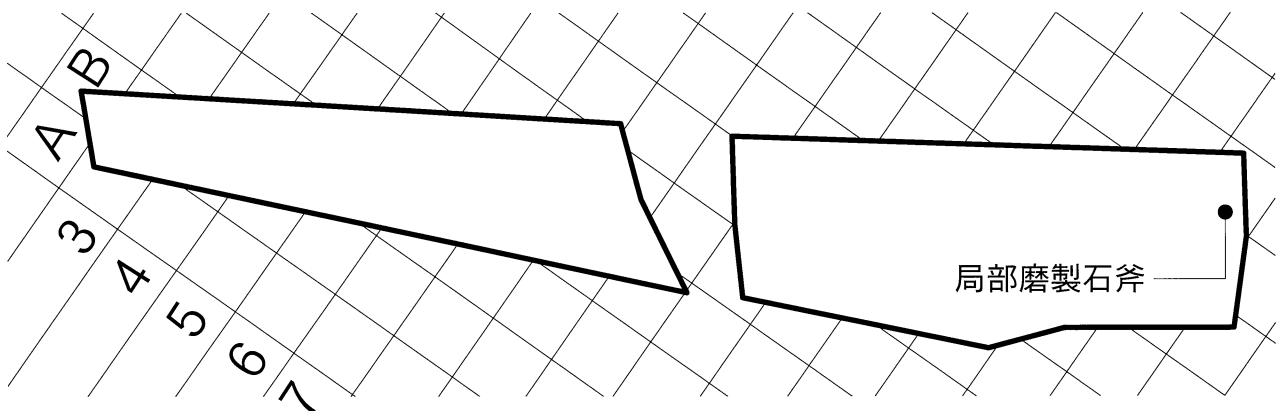
MB2・3相当層（IX層）下位のXa層を旧石器時代I期とする。総調査面積は280m²。遺構は見られず、局部磨製石斧1点のみの出土である。出土位置はB区南西側であり、I16dグリッド、IX層除去後のXa層上面精査時に出土した（第9図）。周囲に遺物が広がる可能性を考慮し、拡張・精査を行ったが遺物は出土していない。

局部磨製石斧（第8図）

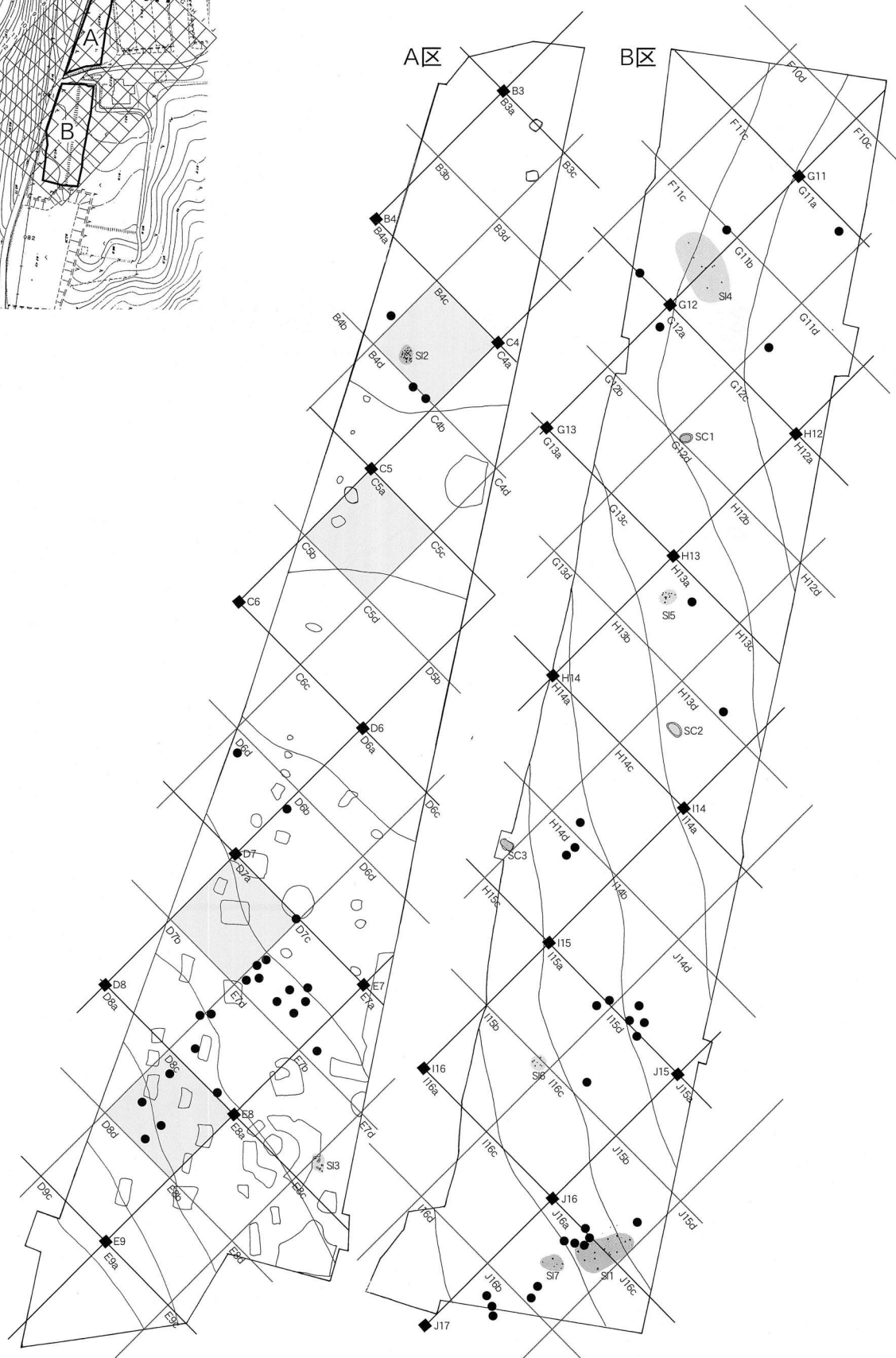
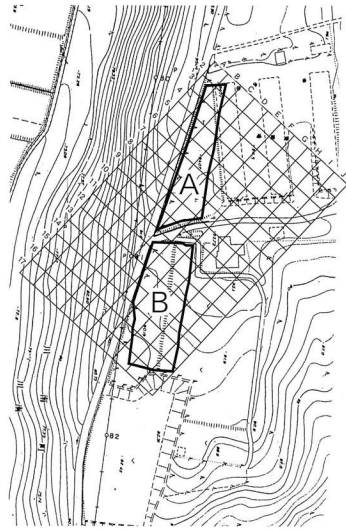
石材は、緑色珪質岩である。形状は縦長楕円形の円礫を縦に半截し、両側から敲き、剥離を施している。裏面には、使用痕が見られる。



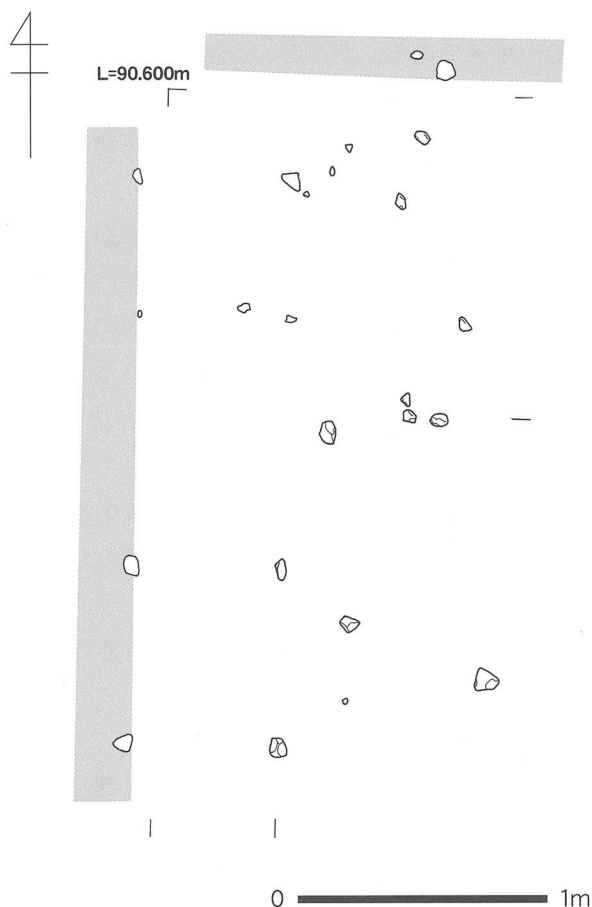
第8図 旧石器時代I期遺物実測図



第9図 旧石器時代I期遺物出土位置図



第10図 旧石器時代Ⅱ～Ⅳ期調査範囲・遺構分布図(・遺物)



第11図 旧石器時代Ⅱ期遺構実測図(SI1)

2 旧石器時代Ⅱ期

A T降灰直前のMB2中 (IX層) の礫群に伴う石器群を旧石器時代Ⅱ期とする。調査区内の堆積は、南北方向に良好に残存した。調査面積は280m²である。遺構は、B区南東側にて礫群1基を検出した。遺物は、剥片2点のみである。

礫 群

IX層検出の礫群は、調査部のIX層上面また層間には礫片等を密に含まないことから、軽量のものでも一定のまとまりが見られる場合は礫群と判断した。

SI1 (第11図)

礫群は、J15b・J16aグリッド内の2.6m×1.5mの範囲内にばらけた状況で広がる。2g~434gの軽量の尾鈴山酸性岩類により構成され、掘り込みや炭化物・焼土は検出されなかった。構成礫の尾鈴山酸性岩類の多くが自然面より破砕面の割合が多く見られた。赤化は、明瞭に赤化しているものが半数見られた。

遺 物

剥片

剥片は、5cm大の頁岩源ホルンフェルス製である。図化はしていない。

3 旧石器時代Ⅲ期

Kr-Kbを僅かに含む褐色ローム層 (VI層) の礫群に伴う石器群を旧石器時代Ⅲ期とする。また、IV・V層下位・VII層から後期旧石器時代の遺物も含まれることから土中内で遺物の上下移動があったと考え、これらの遺物も含める。VI層も他層と同様に均一に堆積しているが、部分的に堆積差がみられる。平均層厚は7cmである。調査面積は280m²。遺構は礫群6基、土坑2基が検出された。遺物はナイフ形石器 (3点) ・角錐状石器 (2点) ・細石刃 (6点) ・石核 (2点) ・敲石 (2点) 剥片等が出土した。細石刃核は出土しなかった。遺物の集中は、D7・D8・I14・J16グリッドに見られた。又、敲石についてはP55・56に掲載している。

礫 群

各礫群の分布状況は、北東側の礫群については散発的に見られるが南西側の3基については比較的まとまりをもって検出された。掘り込みあるものは6基中1基であり、炭化物も見られた。構成礫は、尾鈴山酸性岩類であり自然面より破砕面の方が大きい傾向にある。

SI2 (第12図)

A区北端B4cグリッド内の1m×0.8mの範囲内に密集する。9.5~210gの44点の尾鈴山酸性岩類により構成される。掘り込みがあり、礫間や下部に炭化物が少量認められた。礫密集部は周囲に比べ、若干色調が暗い状況であった。

SI3 (第12図)

A区南端E7b・E7dグリッドの1.1m×0.56m内に比較的密集した状況で検出された。29~1400gの大型の尾鈴山酸性岩類9点で構成される。掘り込み、炭化物・焼土は検出されなかった。赤化については、淡く赤化しているものが多く見られた。

SI4 (第12図)

B区北東側F11d・G11bグリッドで検出された。1

m×1.1mの範囲内にまとまりをみせる。

SI5 (第12図)

B区北東側H13aグリッドで検出された。0.8m×0.8mの範囲内にまとまりをみせる。構成する12点の尾鈴山酸性岩類は80～365gの礫であり、自然面が破砕面より多い。赤化は、全ての礫で明瞭に確認された。

SI6 (第12図)

B区南西側I15bグリッド内の0.6m×0.35mの範囲内で検出された。構成礫は尾鈴山酸性岩類7点で10～230gの亜円礫や亜角礫からなり、全てに明瞭な赤化がみられた。掘り込み・炭化物・焼土は検出されなかった。また、遺構内や周囲からはホルンフェルスの剥片が出土している。

SI7 (第12図)

B区南西側J16aグリッドで検出された。1.3m×0.6mの範囲内にまとまりをみせる。構成する6点の尾鈴山酸性岩類で亜円・亜角礫主体である。赤化は、全ての礫で確認された。

土 坑

埋土中に時期決定できる遺物が確認出来ず、定かでないがここに記しておく。VI層に帰属させる理由は、V層でのにじみは確認出来ずVI層中部まで掘り下げ後に検出したことなどから考慮した。VI層検出の土坑は2基で、B区北半に分布していた。

SC1 (第12図)

G12c・dグリッドVI層で検出した。検出状況は長軸0.7m×短軸0.57mで深さ0.18mの楕円形に近い不定形な形状を呈する。埋土は1層のみで、剥片1点が出土した。

SC2 (第12図)

H13dグリッドVI層で検出した。検出上面は円形に近い形状の長径0.93m×短径0.86mで深さ0.16mである。出土遺物はないが、1層で焼土粒が確認された。

遺 物 (第13図2～21)

VI層からは遺物集中部3箇所を中心に50点が出土している。平面的な広がり、A区南側やB区南側

にかたよりが見られた。遺物出土層位のピークはVI層上～中部である。ただし、A区南側D7・D8・E8グリッドにはSP2があり、十分に見当し遺物を取り上げたが埋土中のものが含まれている可能性も考えられる。

ナイフ形石器は、横長剥片素材のものが多くみられた。特に2は瀬戸内技法との関連が強い石器である。角錐状石器は横長剥片素材で、小形のものが多し。特にチャート製の角錐状石器はより小ぶりである。剥片類は、ナイフ形石器の素材剥片と異なり、縦長剥片を指向したものが多し。

接合資料は、石核から不定形な小ぶりの剥片を剥離するものがある。また、接合は未確認ながら、石核は特に打面を固定するものではなく、ランダムに小ぶりの不定形剥片を剥離するもので占められる。

4 旧石器時代IV期

旧石器時代III期の石器群に混在して、細石刃が出土した。細石刃核はない。これらについては、周辺遺跡の状況等を加味して、旧石器時代IV期とする。剥片類については、どういったものがあるのか明確にしえなかった。

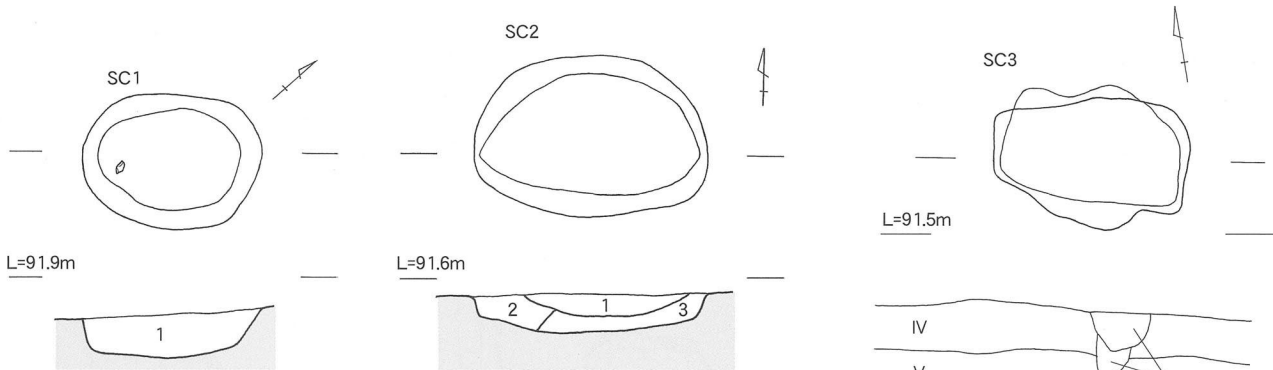
土 坑

SC3 (第12図)

この時期の遺構については明確にしえないが、陥し穴状遺構はその掘り込み面がML1最下部付近にあることから、この時期にあたる可能性がある。

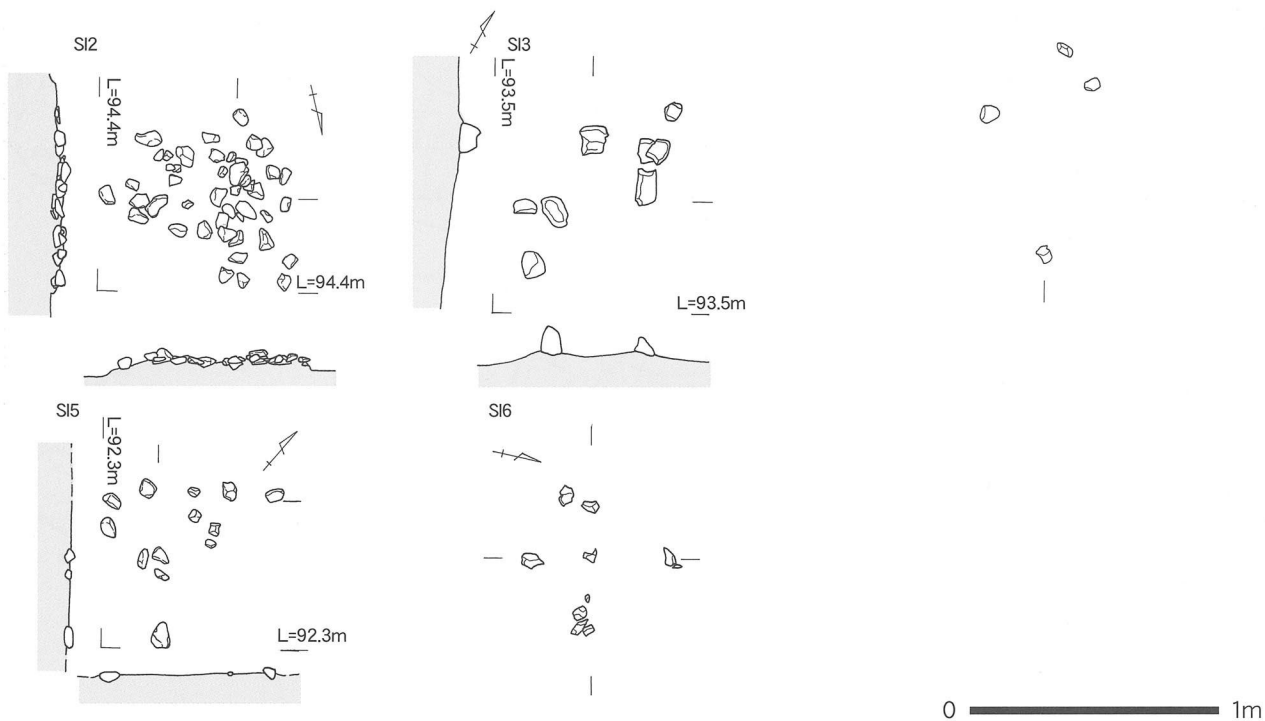
遺 物 (第13図22～27)

細石刃は6点ある。すべてホルンフェルス製で、打面の残るものにはすべて作業面調整がみとれる。



土坑土層注記

- SC 1 1. 暗褐色土Hue10YR3/4。粘性弱くしまりあり。
- SC 2 1. 暗褐色土10YR3/4。粘性弱くしまりあり。焼土粒を含む。2. 褐色土10YR4/4。粘性やや弱く、ややしまりあり。3. にぶい黄褐色10YR4/3。粘性あり。
- SC 3 1. 暗褐色土Hue10YR3/3。ややしまり有り。1~2程度の橙色粒子を含む固くしまったブロックや粘性の有る褐色土を含む。2. 暗褐色土Hue10YR3/3。ややしまり有り。粘性の有るブロックが含まれる。3. 暗褐色土Hue10YR3/4。非常に固くしまる。1mm程度の白色・橙色粒子やしまりの強い暗褐色ブロックを含む。4. 暗褐色土Hue10YR3/4。固くしまる中にしまりの弱い黄褐色土が混じる。5. 黄褐色土 Hue10YR5/6。非常に軟らかく、粘性有り。Hue10YR4/3にぶい黄褐色土を多く含む。6. 褐色土Hue10YR4/6。しまり弱く、粘性無し。7. 褐色土Hue10YR3/4。しまり弱く、粘性無し。



第12図 旧石器時代Ⅲ・Ⅳ期遺構実測図



第13図 旧石器時代Ⅱ～Ⅳ期遺物実測図

第Ⅱ期-SI1

石材	尾鈴山酸性岩類	その他	重量別(g)	<50	<100	100<	構成礫の破碎状況				
個数(点)	19	0	個数(点)	9	2	8	段階	1	2	3	4
重量(g)	2423.0	0.0	重量(g)	73.0	128.0	2222.0	個数(点)	2	5	1	11

備考：2.6×1.5mに散布し、密度が低い。周囲に焼土や炭化物は見られない。

第Ⅲ期-SI2

石材	尾鈴山酸性岩類	その他	重量別(g)	<50	<100	100<	構成礫の破碎状況				
個数(点)	44	0	個数(点)	14	10	20	段階	1	2	3	4
重量(g)	4114.5	0.0	重量(g)	419.5	775.0	2920.0	個数(点)	1	11	21	11

備考：1.0×0.8mに密集する。礫間や下部に炭化物が少量認められた。礫密集部は周囲に比べ土色が若干暗かった。掘り込み有り。

第Ⅲ期-SI3

石材	尾鈴山酸性岩類	その他	重量別(g)	<50	<100	100<	構成礫の破碎状況				
個数(点)	9	0	個数(点)	1	0	8	段階	1	2	3	4
重量(g)	6060.0	0.0	重量(g)	29.0	0.0	6031.0	個数(点)	1	6	1	1

備考：1.1×0.56m内に比較的密集した状態で検出した。掘り込み無し。炭化物・焼土は検出されなかった。

第Ⅲ期-SI5

石材	尾鈴山酸性岩類	その他	重量別(g)	<50	<100	100<	構成礫の破碎状況				
個数(点)	12	0	個数(点)	0	1	11	段階	1	2	3	4
重量(g)	2485.0	0.0	重量(g)	0.0	80.0	2405.0	個数(点)	4	6	2	0

備考：0.8×0.8m内にまとまりをみせる。掘り込み無し。炭化物・焼土は検出されなかった。

第Ⅲ期-SI6

石材	尾鈴山酸性岩類	その他	重量別(g)	<50	<100	100<	構成礫の破碎状況				
個数(点)	7	0	個数(点)	1	1	5	段階	1	2	3	4
重量(g)	944.0	0.0	重量(g)	10.0	98.0	836.0	個数(点)	1	3	3	0

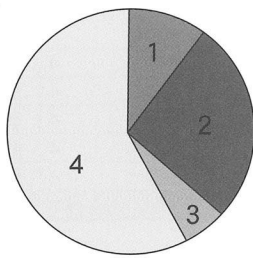
備考：0.6×0.35m内にまとまりをみせる。掘り込み無し。炭化物・焼土は検出されなかった。

第Ⅲ期-SI7

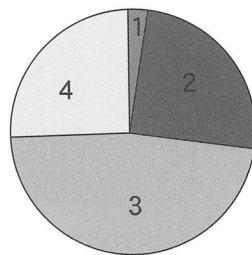
石材	尾鈴山酸性岩類	その他	重量別(g)	<50	<100	100<	構成礫の破碎状況				
個数(点)	6	0	個数(点)	-	-	-	段階	1	2	3	4
重量(g)	0.0	0.0	重量(g)	-	-	-	個数(点)	-	-	-	-

備考：1.3×0.6m内にまとまりをみせる。掘り込み無し。炭化物・焼土は検出されなかった。

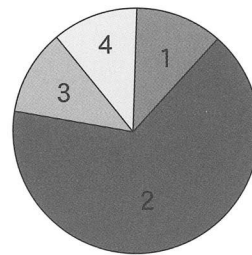
第Ⅱ期-SI1



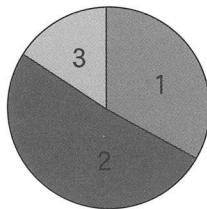
第Ⅲ期-SI2



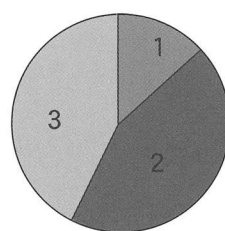
第Ⅲ期-SI3



第Ⅲ期-SI5



第Ⅲ期-SI6



構成礫の破碎状況分類基準

1	ほぼ自然面で構成される
2	自然面>破碎面
3	破碎面>自然面
4	破碎面のみで構成される

第1表 礫群観察表(1)

SI 1

文化層	番号	グリッド	層	重量(g)	破碎状況	被熱状況
II	1	J15b・J15a	IX	2.0	4	弱
II	2	J15b・J15a	IX	114.0	4	弱
II	3	J15b・J15a	IX	3.0	4	強
II	4	J15b・J15a	IX	2.0	4	弱
II	5	J15b・J15a	IX	54.0	4	強
II	6	J15b・J15a	IX	4.0	4	弱
II	7	J15b・J15a	IX	6.0	4	強
II	8	J15b・J15a	IX	6.0	4	強
II	9	J15b・J15a	IX	22.0	4	強
II	10	J15b・J15a	IX	25.0	4	弱
II	11	J15b・J15a	IX	74.0	2	強
II	12	J15b・J15a	IX	186.0	3	弱
II	13	J15b・J15a	IX	360.0	2	弱
II	14	J15b・J15a	IX	360.0	2	強
II	15	J15b・J15a	IX	298.0	2	強
II	16	J15b・J15a	IX	166.0	2	強
II	17	J15b・J15a	IX	3.0	4	弱
II	18	J15b・J15a	IX	434.0	1	強
II	19	J15b・J15a	IX	304.0	1	強
II	19	J15b・J15a	IX	2423.0		

SI 3

文化層	番号	グリッド	層	重量(g)	破碎状況	被熱状況
III	1	E7b・E7d	VI	730.0	1	弱
III	2	E7b・E7d	VI	685.0	2	強
III	3	E7b・E7d	VI	238.0	3	弱
III	4	E7b・E7d	VI	1070.0	2	弱
III	5	E7b・E7d	VI	448.0	2	弱
III	6	E7b・E7d	VI	1160.0	2	弱
III	7	E7b・E7d	VI	1400.0	2	弱
III	8	E7b・E7d	VI	300.0	2	強
III	9	E7b・E7d	VI	29.0	4	強
III	9	E7b・E7d	VI	6060.0		

SI 5

文化層	番号	グリッド	層	重量(g)	破碎状況	被熱状況
III	1	H13a	VI	200.0	3	強
III	2	H13a	VI	270.0	2	強
III	3	H13a	VI	120.0	3	強
III	4	H13a	VI	365.0	2	強
III	5	H13a	VI	115.0	2	強
III	6	H13a	VI	145.0	2	強
III	7	H13a	VI	275.0	1	強
III	8	H13a	VI	80.0	2	強
III	10	H13a	VI	315.0	1	強
III	11	H13a	VI	180.0	2	強
III	12	H13a	VI	250.0	1	強
III	13	H13a	VI	170.0	1	強
III	12	H13a	VI	2485.0		

SI 6

文化層	番号	グリッド	層	重量(g)	破碎状況	被熱状況
III	1	I15b	VI	230.0	2	強
III	2	I15b	VI	10.0	2	強
III	3	I15b	VI	134.0	2	強
III	4	I15b	VI	216.0	1	強
III	5	I15b	VI	126.0	3	強
III	6	I15b	VI	98.0	3	強
III	7	I15b	VI	130.0	3	強
III	7	I15b	VI	944.0		

SI 2

文化層	番号	グリッド	層	重量(g)	破碎状況	被熱状況
III	1	B4c	VI	9.5	2	弱
III	2	B4c	VI	165.0	2	弱
III	3	B4c	VI	140.0	2	強
III	4	B4c	VI	45.0	2	弱
III	5	B4c	VI	85.0	3	強
III	6	B4c	VI	90.0	4	弱
III	7	B4c	VI	115.0	3	強
III	8	B4c	VI	165.0	3	強
III	9	B4c	VI	55.0	4	強
III	10	B4c	VI	205.0	2	弱
III	11	B4c	VI	85.0	2	強
III	12	B4c	VI	25.0	4	弱
III	13	B4c	VI	35.0	4	弱
III	14	B4c	VI	115.0	2	強
III	15	B4c	VI	105.0	4	弱
III	16	B4c	VI	150.0	2	強
III	17	B4c	VI	45.0	2	弱
III	18	B4c	VI	115.0	1	弱
III	19	B4c	VI	10.0	4	弱
III	20	B4c	VI	135.0	3	弱
III	21	B4c	VI	75.0	3	弱
III	22	B4c	VI	150.0	2	弱
III	23	B4c	VI	115.0	3	弱
III	24	B4c	VI	1445.0	3	弱
III	25	B4c	VI	30.0	4	弱
III	26	B4c	VI	75.0	3	弱
III	27	B4c	VI	125.0	3	弱
III	28	B4c	VI	100.0	2	弱
III	29	B4c	VI	95.0	3	弱
III	30	B4c	VI	200.0	3	弱
III	31	B4c	VI	50.0	3	弱
III	32	B4c	VI	30.0	3	弱
III	33	B4c	VI	135.0	3	弱
III	34	B4c	VI	205.0	3	強
III	35	B4c	VI	45.0	3	弱
III	36	B4c	VI	125.0	3	弱
III	37	B4c	VI	65.0	3	弱
III	38	B4c	VI	70.0	3	弱
III	39	B4c	VI	80.0	3	弱
III	40	B4c	VI	210.0	4	弱
III	41	B4c	VI	10.0	4	弱
III	42	B4c	VI	35.0	4	弱
III	43	B4c	VI	35.0	4	弱
III	44	B4c	VI	150.0	4	弱
III	44	B4c	VI	4114.5		

※破碎状況については、構成する1礫の状態を示す。

- 1, ほぼ自然面で構成される
- 2, 自然面>破砕面
- 3, 破砕面>自然面
- 4, 破砕面のみで構成される

※被熱状況

- 強, 明瞭に赤化しているもの
弱, 淡く赤化しているもの

第2表 礫群観察表(2)

第3節 縄文時代早期の遺構と遺物

縄文時代早期の調査は、調査区全面の2,560m²を対象とした。調査区の当時の地形は、北東から南西に緩やかに傾斜している。遺構は、集石遺構32基、炉穴21基、土坑11基で、遺物は石鏃や礫器等が出土している(第14図)。

集石遺構は、IV層下部・V層上面から多量に散乱する礫(散礫)中又はその下より検出され、この散礫を除去した後一定の石のまとまりをもつものを集石遺構として認定し実測を行った。

1 集石遺構(第15～18図)

集石遺構は調査区A・B区合わせて32基確認され、IV層下部からV層上部の間にピークが見られた。分布は、調査区のほぼ半数が縄文時代早期包含層まで削平を受けているため不確かな部分もあるが、残存する状況から見てもA区南部とB区北部に集中部が見られた。

分類は、アカホヤ下に良好な状態で検出された10基を先に分類し(I～Ⅲ類)、その後、上部が削平を受ける・あるいは攪乱下で検出された集石遺構は完全に残っていないことを考慮し、分類に「'」を追加した。たとえばI類の場合はI'類となる。

分類基準は以下の通りである。

I類：掘り込みをもち、他の礫よりも大型で意図的に配置された礫(配石)があるもの。(SI8)

I'類：(SI9、SI10-1、SI11)

II類：掘り込みをもち、配石が無いもの。

(SI14、SI20、SI24、SI25、SI27、SI28、SI29、SI30)

II'類：(SI10-2、SI12、SI13、SI15、SI16、SI17、SI18、SI19、SI21、SI22、SI23、SI26、SI31、SI32、SI33、SI34、SI35)

III類：掘り込みを持たないもの。(SI37)

III'類：(SI36)

IV類：その他。掘り込みをもち、中央に大型の礫1点を配するもの。(SI38)

各集石遺構の詳細は、第3・4表の観察表に示した。その中で特異な例として、I類のSI8配石が掘り込み壁に沿うような礫配置であったこと、II類のSI29が1基の集石遺構から礫・埋土を掻き出した結

果、2基に見えたことが挙げられる。

2 炉穴(第19～21図)

本遺跡からは、21基の炉穴を検出した。認定条件は、長楕円形の形態で底面に焼土面か焼土を多量に混じる場合とした。遺跡内では、円形状を呈し焼土をまばらに含むものも確認されているが、掘り込みが浅いものについては土坑として記載している。検出した炉穴は2類に分類できる。

I類：単独のもの(1基)

II類：切り合いを有するもの(4群-計20基)

分布は、A区に2群、B区に1群と2基が緩やかに傾斜する面(標高90～95m間)に対し構築されている。検出は、V層又はVI層であったがぼんやりとにじむ程度であることから実測した面はそれより下がっている。以下、分類ごとに順に記す。

I類：

S P 3 B区北部のV層下部より検出した。周囲には礫がまばらに広がるが、集石遺構はみられない。

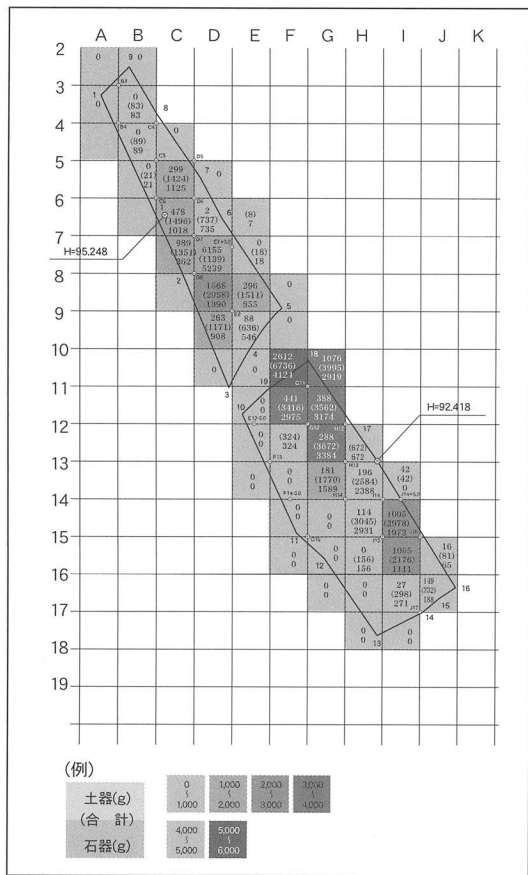
II類：

S P 1 A区北部のVI層中部より検出した。4基の炉穴が切り合い、西から東へ新しく構築されている。また、掘り込みは新しいもの程、深い傾向がみられる。炉部については、1～3が西から北、4が東に確認された。

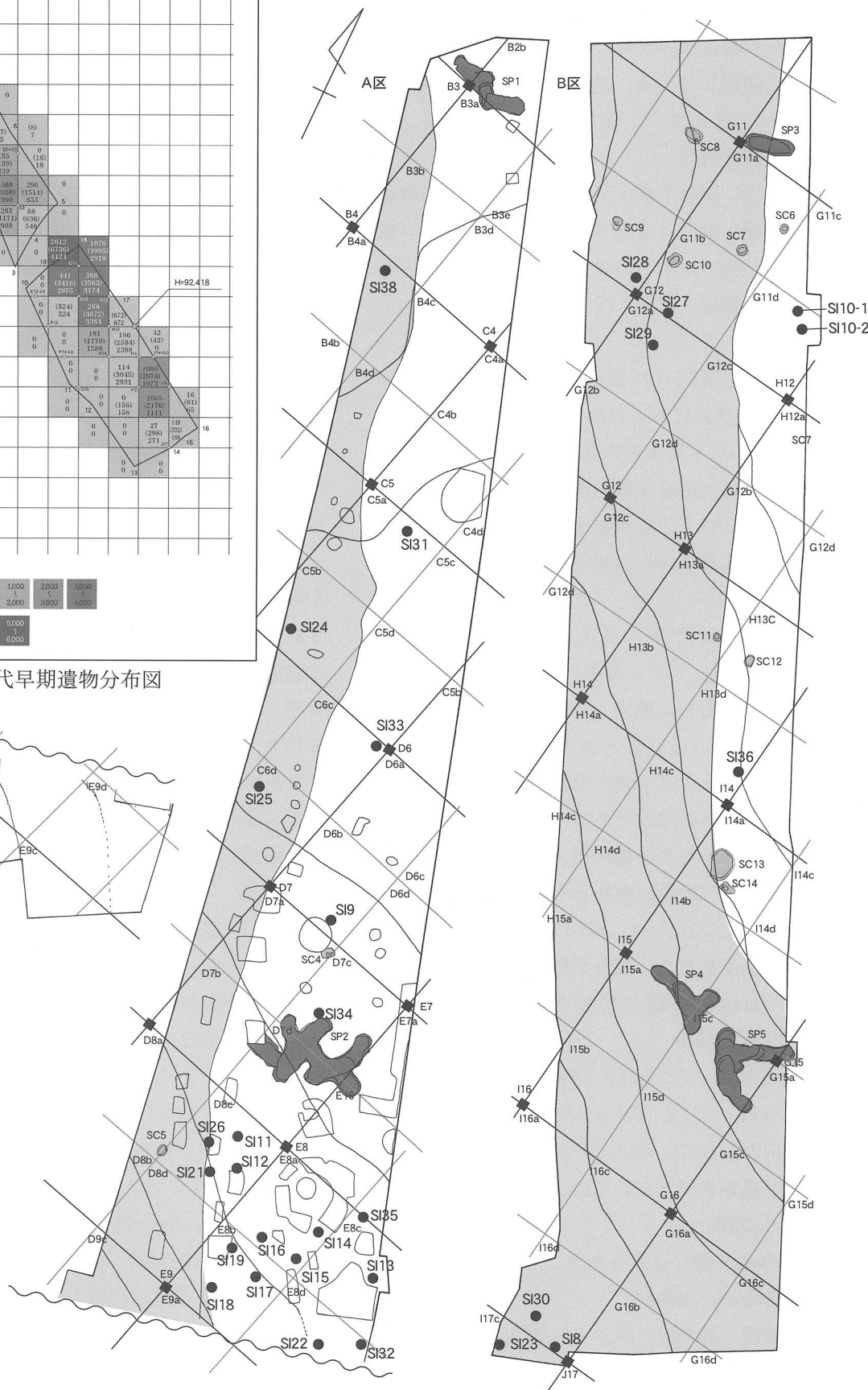
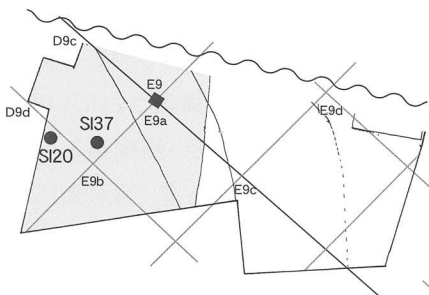
S P 2 A区南部のV層より検出した。明らかに確定できたものは7基であるが、中央部に攪乱がみられたことやその下に焼土粒がまとまってみられることから数基切り合っていた可能性も考えられる。残存状況から、1・2・3については古い順に1・2→3、4・5・6については不明、7→6である。

S P 4 B区中程のV層下部より検出した。4基の炉穴が切り合い、古い方から3→4・1→2の順である。4については、3が堆積した後に築造されたと考えられる。V層精査時に焼土粒が確認された。

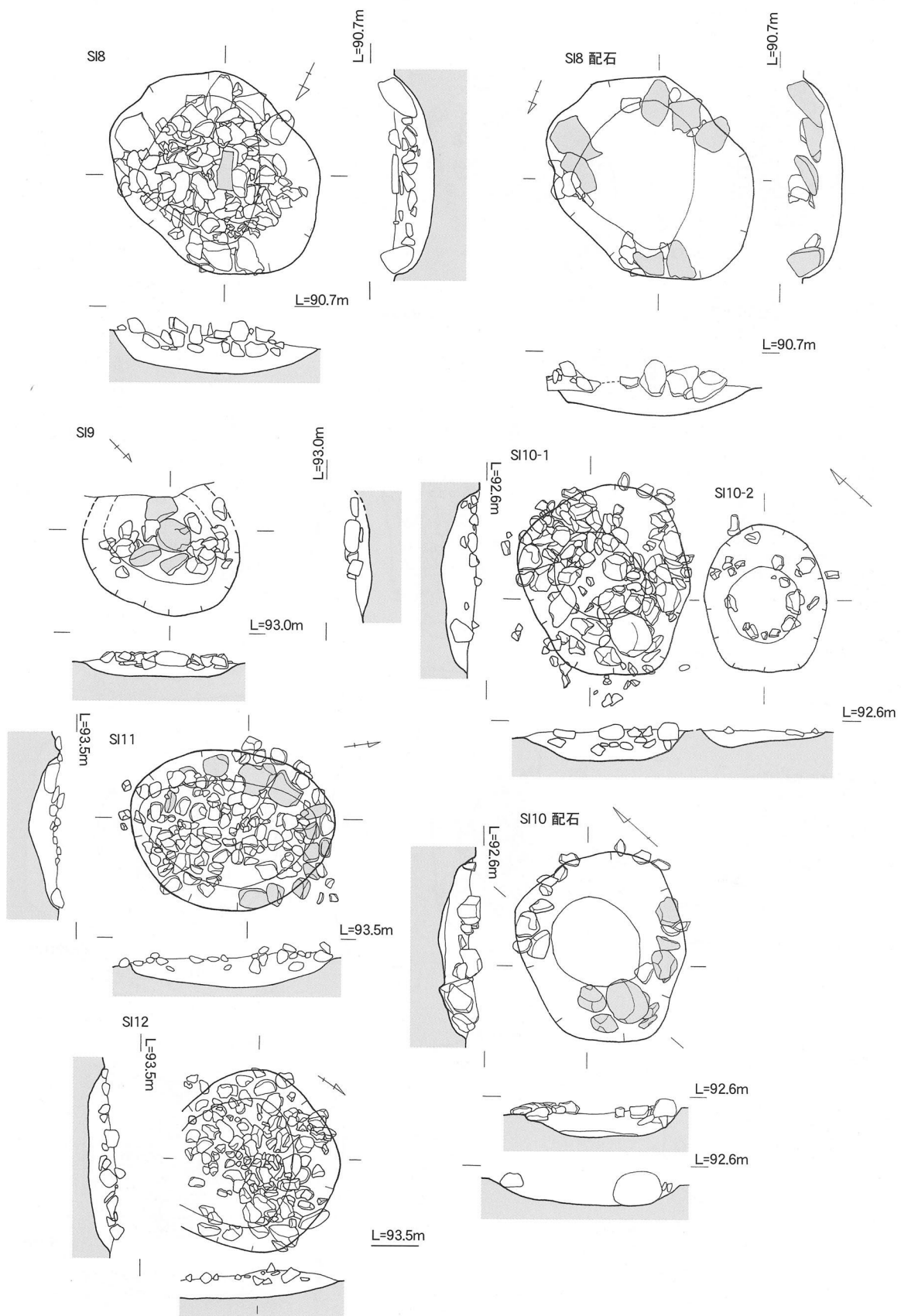
S P 5 B区中程のVI層より検出した。S P 4に隣接し、5基が切り合う。築造順は3→4・1→2で5が切っている。5については南端にブリッジがみられ、炉部側検出面には台石が出土した。また、埋土中部からは砥石が出土した。



縄文時代早期遺物分布図

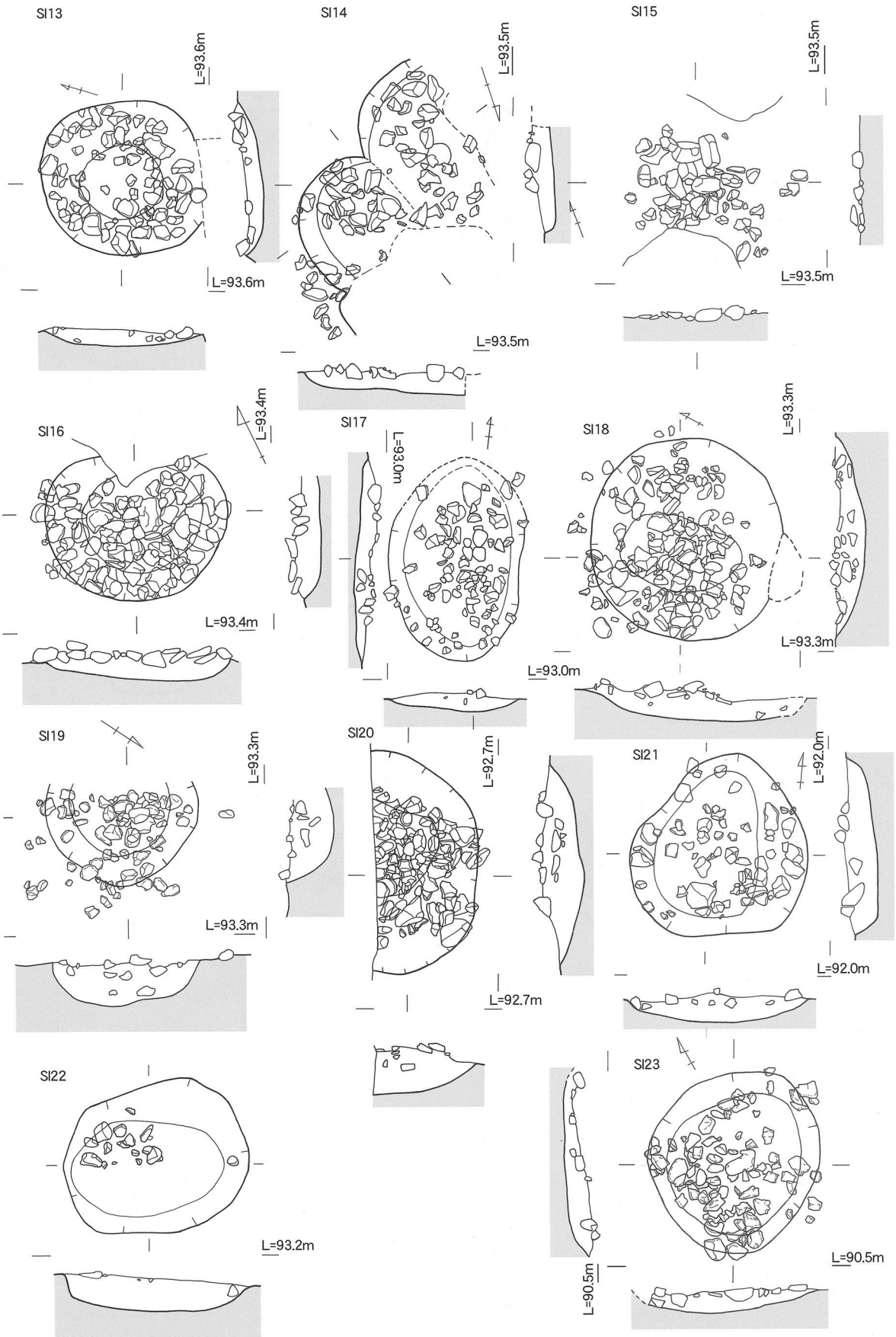


第14図 縄文時代早期遺構・遺物分布図



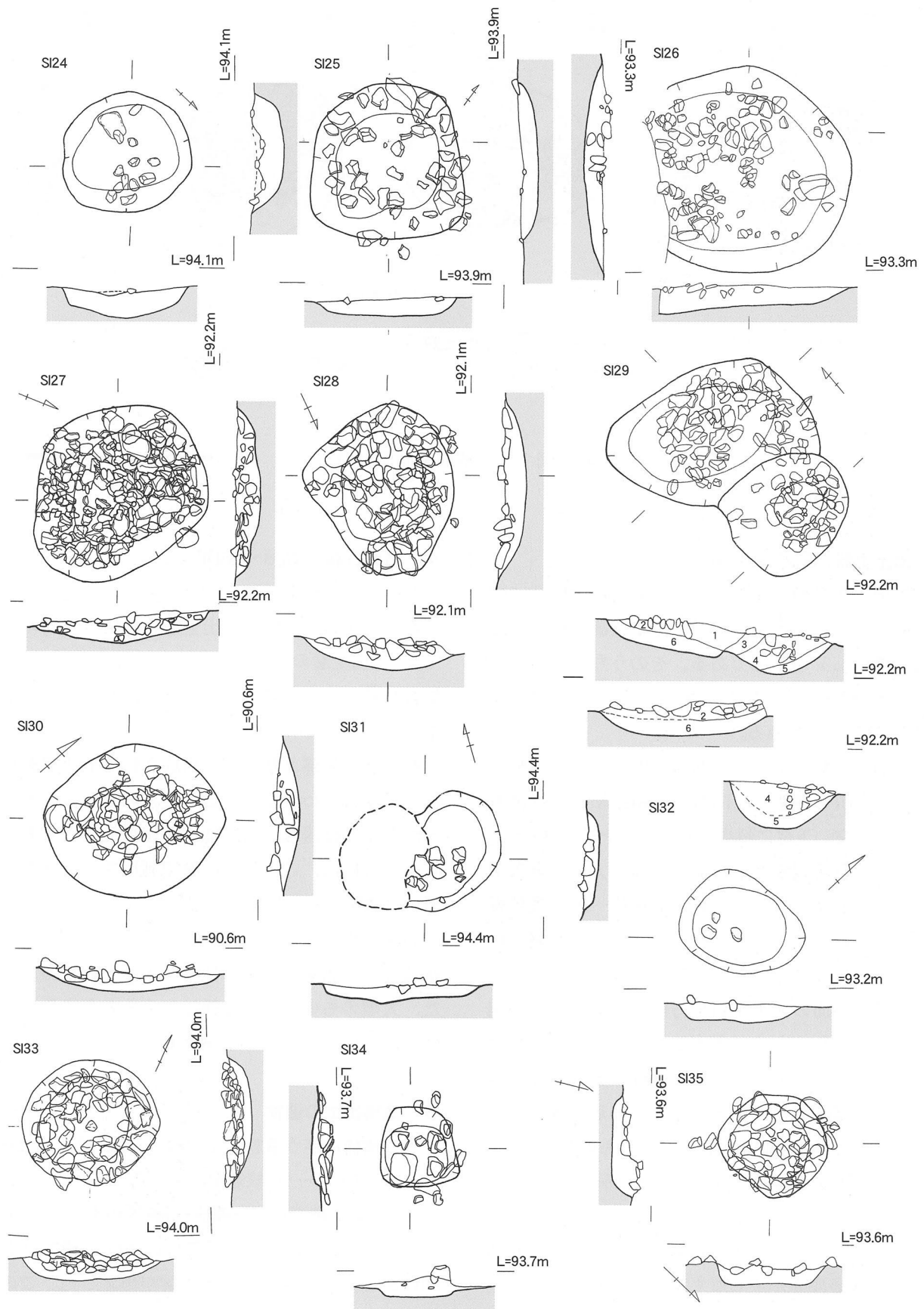
第15図 集石遺構実測図 (1)

0 ————— 1m



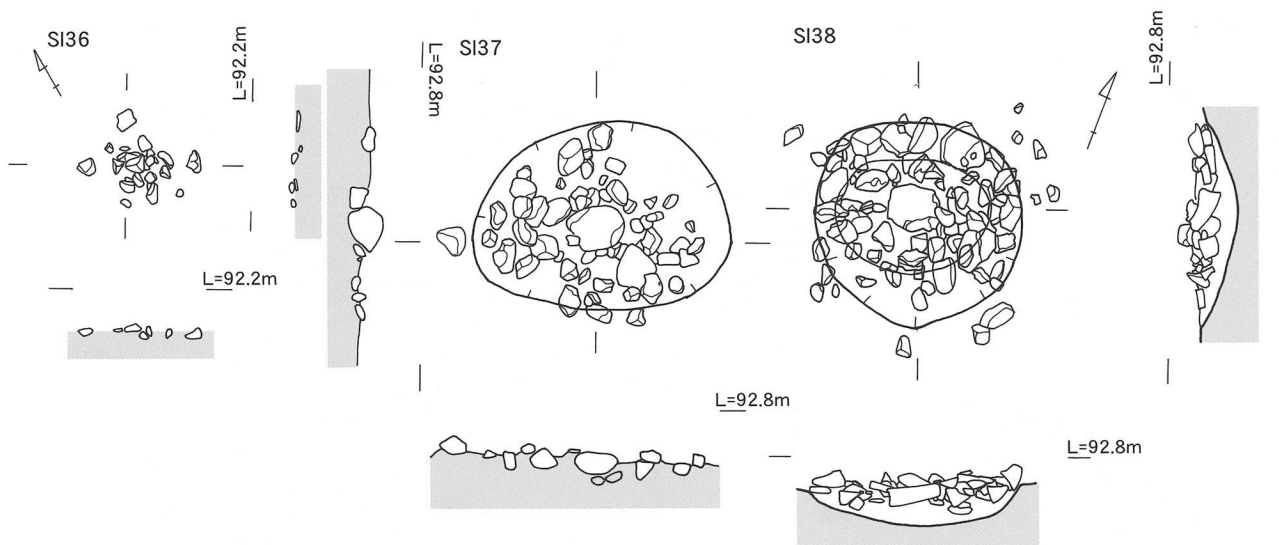
第16図 集石遺構実測図 (2)

0 ————— 1m



第17図 集石遺構実測図 (3)

0 ————— 1m



第18図 集石遺構実測図 (4)

0 ————— 1m

3 出土土器 (第23～27図)

第IV層～第VI層上部にかけて、縄文時代早期に位置付けられる土器が出土した。出土位置のピークはIV層下部からV層上部である。そのうち土器の文様からI～Ⅲ類に大分類が可能で、さらにⅡ類はⅡ類-I・Ⅱに細分される。

- I 類：押型土器群。外面、内面共に横回転の山形押型文。内器面は横回転の山形押型文、下位に斜め方向の強いナデあり。
- Ⅱ類-I：貝殻条痕土器群。外面の大半に貝殻条痕文を施し、口縁部に縦位一段の貝殻腹縁刺突を巡らせるもの。刺突は間隔が粗のものと密のものに分けられる。
- Ⅱ類-II：外面の大半が斜め方向の貝殻条痕文が施されるもの。出土した土器片の多くがこの一群である。破片資料が多いが、39はほぼ完形に復元できた。器形を確認すると多くが胴部付近で膨らむものが多い。
- Ⅲ 類：無文土器群。外面がナデのみの調整。

底部形態は、平らで下端は丸みがあるもの、底部が大きく開き底面が平らなもの、底部が直線的に立ち上がり、且つ底面が広く下端の稜がはっきりしているものがある。

4 出土石器 (第28～46図)

石器については、コンテナ23箱分出土した。

石斧・礫器・石核は、出土遺物の内、大型の石器である。出土層のピークはやはりIV・V層の境であり、集石遺構に伴う時期と考えられる。各遺物の認定基準は下記のとおりである。

石斧は、刃部と基部より構成される形状であり明瞭に石斧と思われるものとした。刃部には両刃・片刃がある。礫器は、刃部加工か使用痕を残すものとした。石核は、こぶし大の礫で剥片をとったものあるいは調整がみられるものとした。

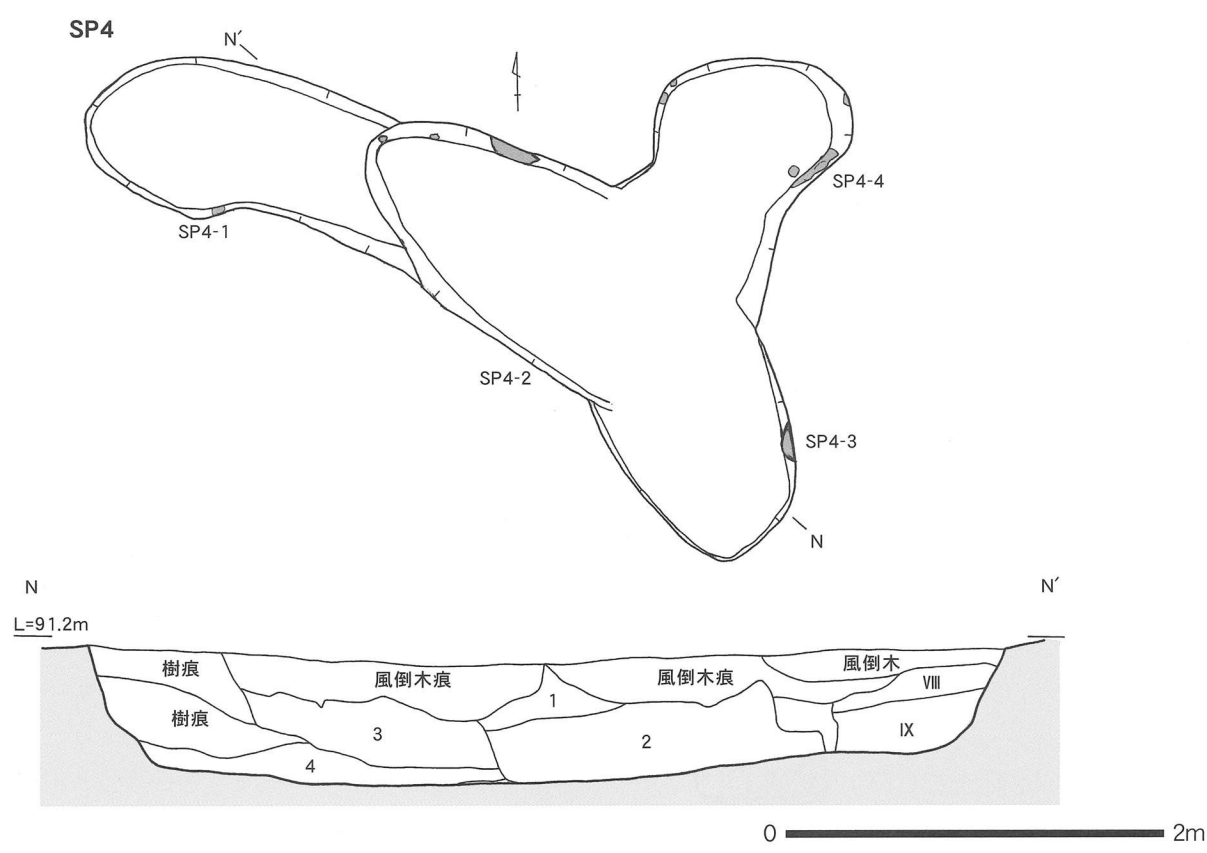
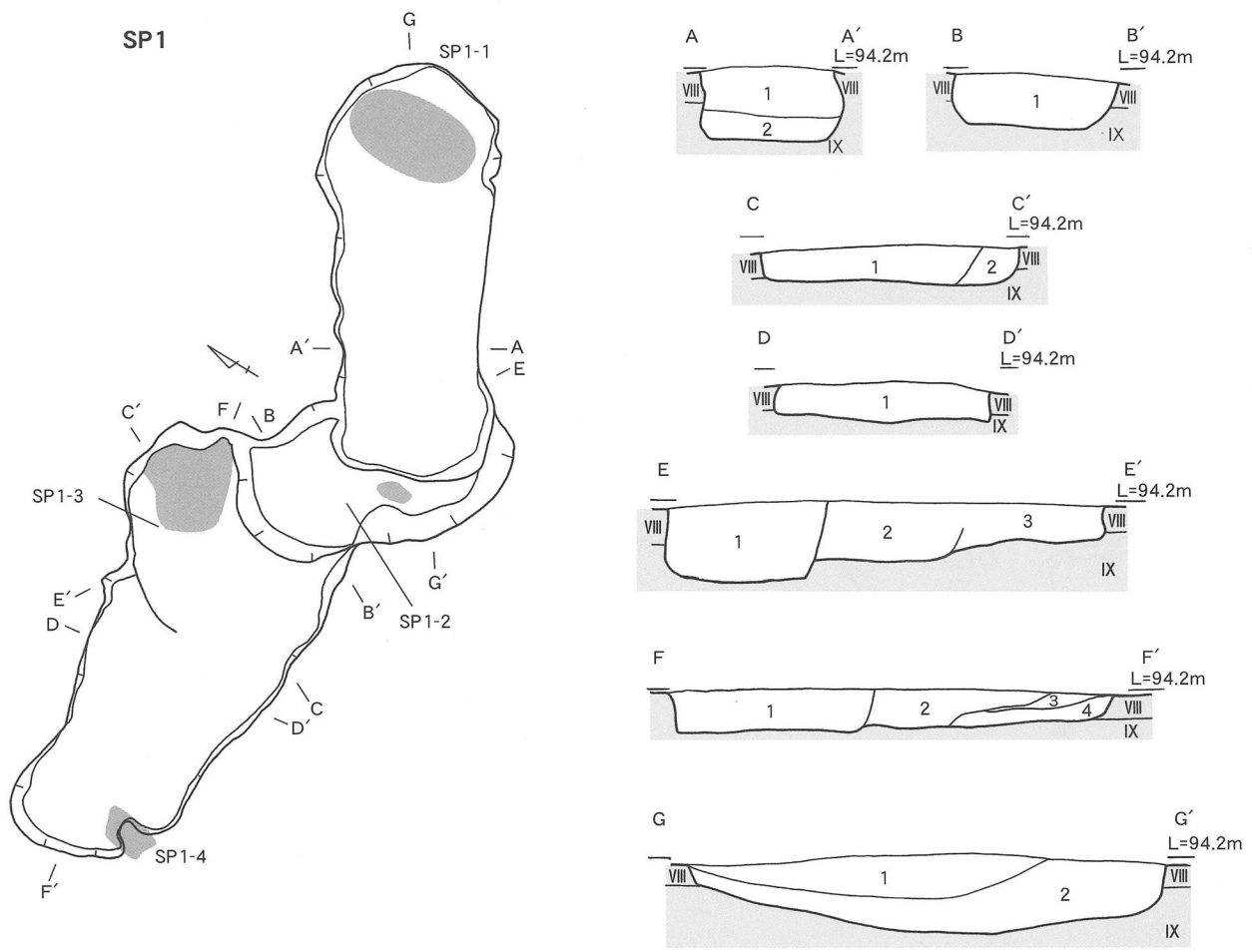
石鏃はIV・V層から出土し、全てで45点である。基部には、無基あるいは抉りの浅いものがある。また、大型のものには鋸歯縁になるものがある。帖地型石鏃が1点含まれるが、鋏形鏃は無い。

5 遺構出土の遺物

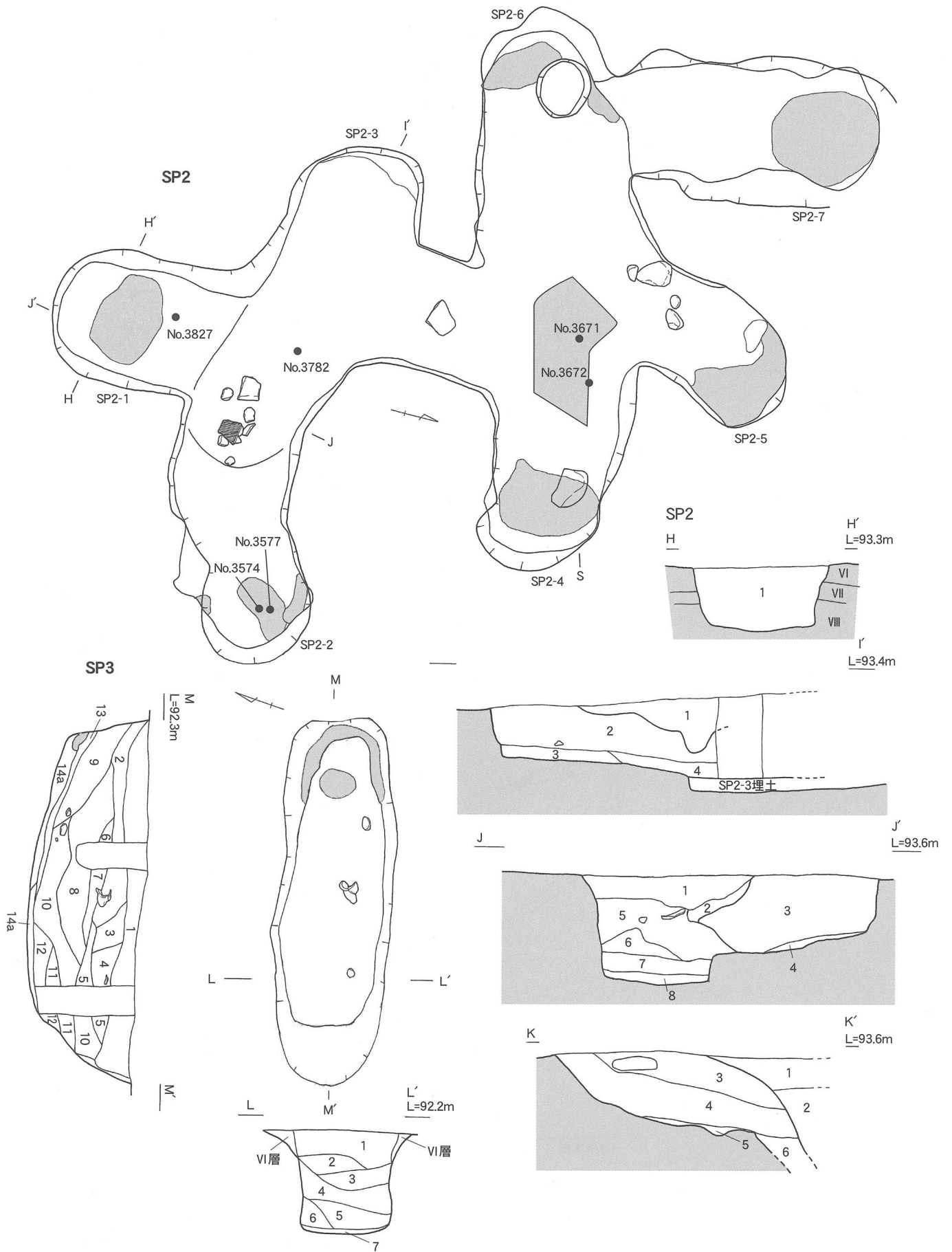
集石遺構に伴う遺物としては、石鏃・砥石・敲石・磨石・スクレイパー・石核等が出土した。

炉穴では、敲石・台石・礫器・石核等が出土している。

炉穴については、埋土中に台石・砥石が落ち込む傾向にある。また、完形近い深鉢が出土した。このほか、炭化物の残存状況が良く大きめの破片が多数確認された。

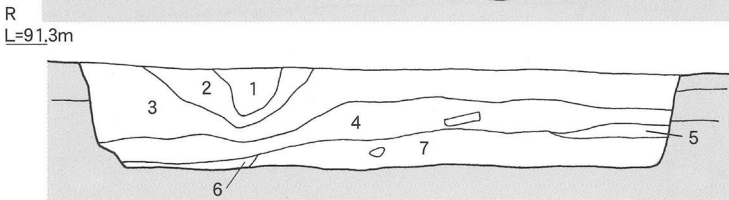
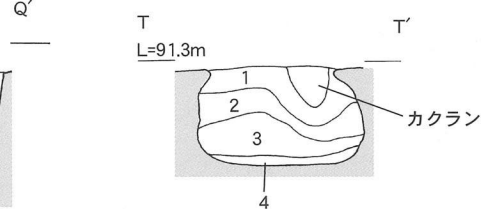
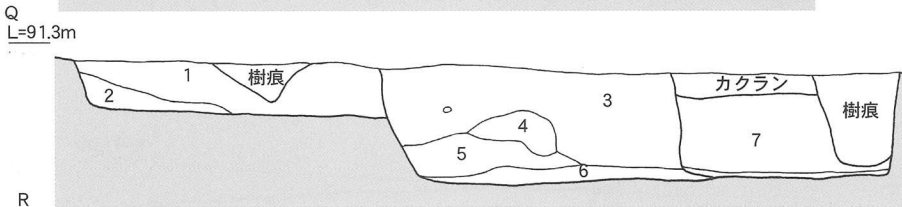
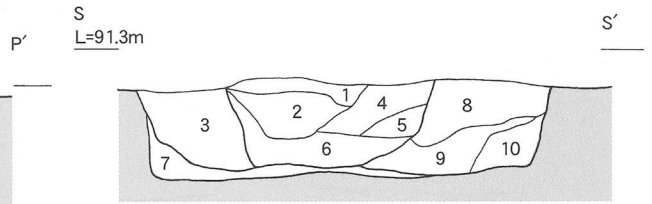
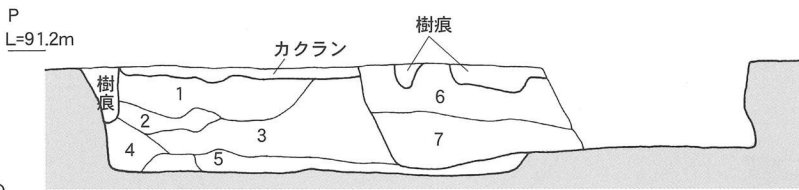
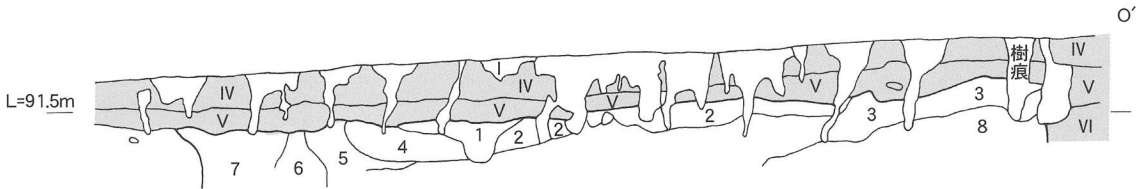
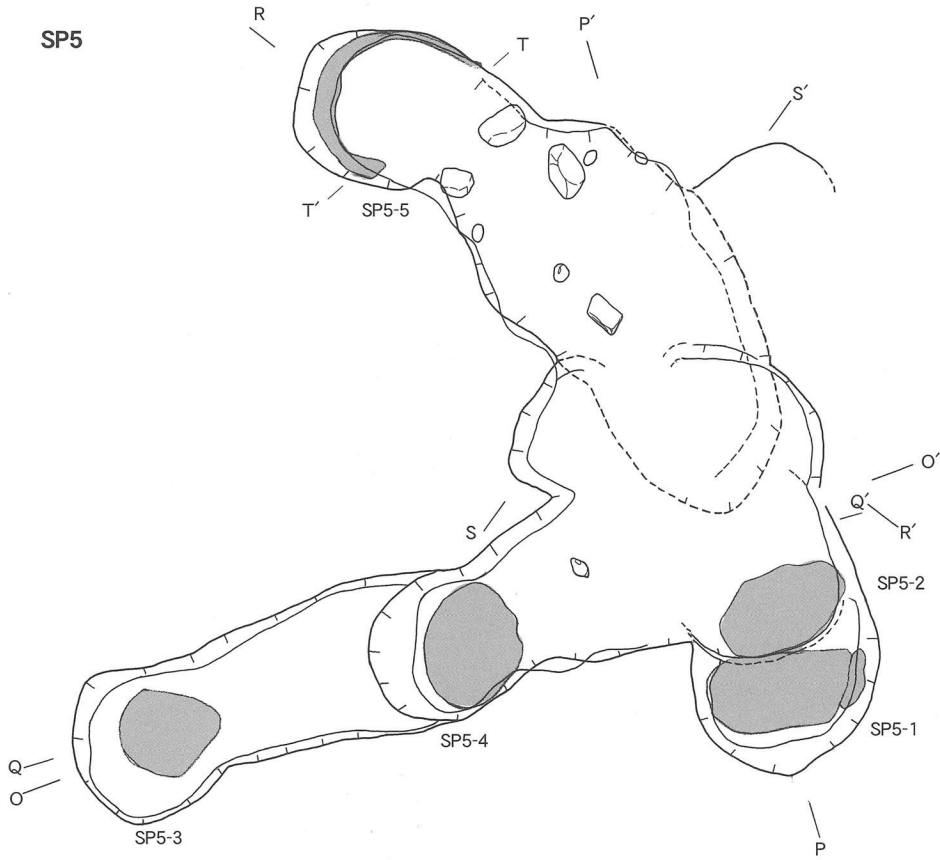


第19図 炉穴実測図 (1)



第20图 炉穴実測图 (2)

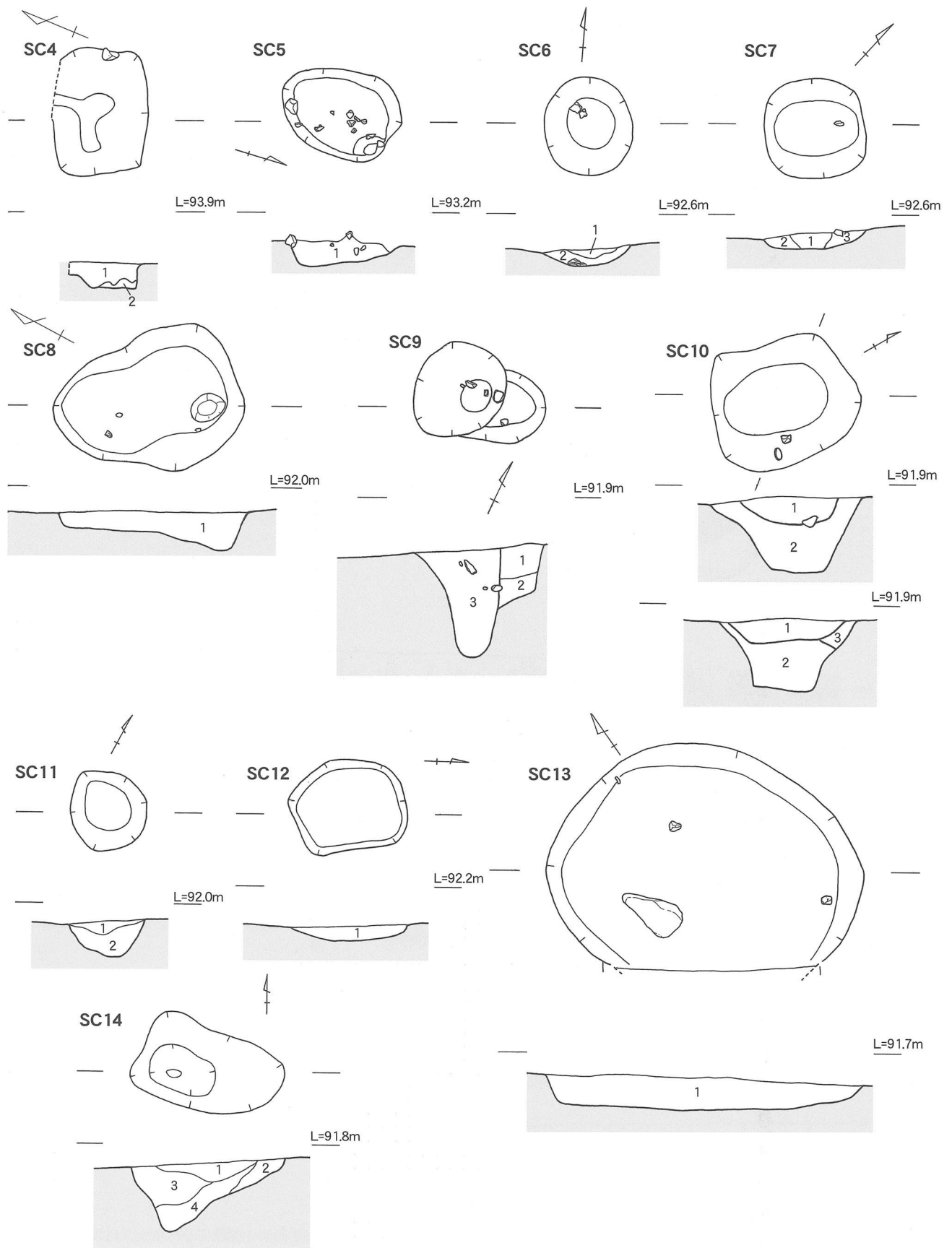
SP5



※平面図の■部分は焼土又は赤化を示す。

0 ————— 2m

第21図 炉穴実測図 (3)



第22图 土坑实测图

集石遺構土層注記

- SI8 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘性がややあり、しまっている。粘性有る暗褐色土を含む。炭化物・焼土を多く含む。
- SI9 黒褐色土(Hue10YR3/2) しまりや粘質がある。比較的多くの炭化物と微細な焼土含む。
- SI10-1 1. 黒褐色土(Hue10YR3/2) 硬くしまる。炭化物・焼土を少量含む。
2. 暗褐色土(Hue10YR3/3) しまりや粘性弱い。炭化物・礫小片を含む。
- SI10-2 黒褐色土(Hue7.5YR2/2) 粘性がやや見られ、硬くしまる。炭化物・焼土を含む。
- SI11 黒褐色土(Hue10YR2/2) 粘性はやや弱くしまり弱い。炭化物を微量含む。
- SI12 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性はやや弱くしまりあり。1~2mmの焼土・炭化物を含む。
- SI13 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘質土。5mmほどの焼土、少量の炭化物含む。
- SI14 黒褐色土(Hue10YR2/3) 軟らかい粘質土や焼土・炭化物あり。
- SI15 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粒子細かくしまり、粘質あり。少量の炭化物含む。
- SI16 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粒子細かくしまり粘質あり。炭化物1mm大の焼土を少量含む。
- SI17 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性やや弱く、しまり有り。
- SI18 暗褐色土(Hue10YR3/4) 硬くしまる。焼土・炭化物あり。
- SI19 暗褐色土(Hue10YR3/4) 弱くしまる。0.5~1.5cm程度の炭化物あり。
- SI20 暗褐色土(Hue10YR3/4) やや硬く、しまりがあり、粘性もある。小粒の炭化物を多めに含む。
- SI21 暗褐色土(Hue10YR3/4) ややしまり有り。炭化物・焼土を含む。
- SI22 暗褐色土(Hue10YR3/4) 0.5cm大の炭化物と微細な焼土を含む。
- SI23 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘性やや弱く、しまりあり。焼土粒・炭化物粒含む。
- SI24 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性は弱く、しまりあり。炭化物と褐色土が少量混ざる。
- SI25 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粒子は細かく、しまり粘質あり。微量の炭化物・焼土含む。
- SI26 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性はやや弱く、しまり弱い。炭化物を含む。
- SI27 黒褐色土(Hue7.5YR2/2) 硬くしまる。炭化物・焼土を含む。
- SI28 黒褐色土(Hue7.5YR3/2) 粘質弱い。0.2~0.4mmの炭化物と1mm程度の小礫を含む。
- SI29 1. 黒褐色土(Hue7.5YR3/2) しまりやや強く、粘性弱い。1~2mmの焼土・炭化物を微量含む。
2. 黒褐色土(Hue7.5YR3/2) しまりやや強く、粘性弱い。1mm以下の焼土・炭化物粒を微量含む。
3. 黒褐色土(Hue7.5YR3/2) 1~2mmの褐色土ブロックとHue7.5YR4/4が全体的に混ざり、斑状を呈する。
4. 黒褐色土(Hue7.5YR3/2) 1~5mmの炭化物や1~2mmの焼土をより多く含む。
5. 黒褐色土(Hue7.5YR3/2) 3層とほぼ同質の土。
6. 黒褐色土(Hue7.5YR3/2) しまりやや弱く、粘性やや強い。3層に見える褐色土ブロックが混入するが他の層に比べるとやや少ない。尾鈴山酸性岩類の小破片や1mm以下の焼土・炭化物を微量含む。
- SI30 暗褐色土(Hue10YR3/3) しまり弱い。1mm~2mm程度の炭化物を含む。
- SI31 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘質土。硬くしまる。炭化物を微量含む。
- SI32 暗褐色土(Hue10YR3/4) 炭化物・焼土を含む。
- SI33 黒褐色土(Hue10YR2/2) やや粘性があり、しまっている。炭化物多く含む。
- SI34 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘質弱く、しまり弱い。暗褐色土が少量混ざる。焼土・炭化物少量含む。
- SI35 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性強く、しまり有り。炭化物を微量含む。
- SI37 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱い。炭化物・焼土粒を極少量含む。
- SI38 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性あるがしまりなし。炭化物・焼土を微量含む。

炉穴土層注記

SP1

A-A'

- 1 黒褐色土(Hue10YR2/3) 硬くしまり1mm大の焼土・炭化物を少量含む。また、白色粒を多く含む。2層に比べ含む粒子が小さく柔らかい。
- 2 黒褐色土(Hue10YR2/3) 硬くしまり、非常に多くの焼土・炭化物・白色粒(1mm)を含む。下部に関しては、大き目の焼土を多く含む。粗粒で非常にザラザラとし、しまる。

B-B'

- 1 黒褐色土(Hue10YR3/2) 1mm大の白色、焼土、炭化物を密に含み、ザラザラと削れる。ATブロックと粘土ブロックを含む。

C-C'

- 1 黒褐色土(Hue10YR2/3) 1mm大の白色粒子や焼土、炭化物粒が密に入り、粘土塊も入りザラザラとし、しまっている。
- 2 1層に対して、含まれる粒子が非常に少なく柔らかい。焼きしまっている感はない。

D-D'

- 1 黒褐色土(Hue2.5YR3/1) ATのかたまりを含む。

E-E'

- 1 黒褐色土(Hue10YR2/3) 硬くしまり1mm大の焼土・炭化物を少量含む。また、白色粒を多く含む。2層に比べ含む粒子が小さく柔らかい。
- 2 黒褐色土(Hue10YR2/3) 硬くしまり、非常に多くの焼土・炭化物・白色粒(1mm)を含む。下部に関しては、大き目の焼土を多く含む。粗粒で非常にザラザラとし、しまる。

3 黒褐色土(Hue10YR3/2) ATのブロック、焼土、白色粒子、炭化物を密に含むためザラザラとし、しまりが強い。

F-F'

- 1 黒褐色土(Hue2.5YR3/1) しまり弱く、柔らかい。焼土を含む量が少ない。
- 2 黒褐色土(Hue2.5YR3/1) 1層よりはしまりが強く、多量の焼土を含む。
- 3 黒褐色土(Hue2.5YR3/1) ATのかたまりを含む。
- 4 黒褐色土(Hue10YR3/2) ATのブロック、焼土、白色粒子、炭化物を密に含むため、ザラザラとし、しまりが強い。

G-G'

- 1 黒褐色土(Hue10YR2/3) 硬くしまり、1mm大の焼土・炭化物を少量含む。また、白色粒を多く含む。2に比べ含む粒子が小さく柔らかい。
- 2 黒褐色土(Hue10YR2/3) 硬くしまり、非常に多くの焼土・炭化物・白色粒(1mm)を含む。下部に関しては、大き目の焼土を多く含む。粗粒で非常にザラザラとし、しまる。

SP2

H-H'

- 1 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性弱く硬くしまる。焼土粒、炭化物がまんべんなく混ざる。白色粒少量。中部にHue10YR5/にぶい黄褐色土のブロック混ざる。

I-I'

- 1 攪乱
- 2 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性弱くやや軟らかい。焼土粒子、炭化物ごく少量含む。にぶい黄褐色土がマーブル状に少量混ざる。
- 3 ATが焼けて赤化している。SP3では床面をこの層の上面を最終使用面としている。中央にサブトレを入れてさらに赤化面がないか確認したが、9層は焼けていなかった。
- 4 黒褐色土(Hue7.5YR3/2) 粘性弱く軟らかい。焼土粒を多量に含む。炭化物もやや多い。

J-J'

- 1 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱い。褐色土が斑点状に混ざる。ATブロック、焼土粒、炭化物が少量みられる。
- 2 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘性弱く硬くしまる。にぶい黄褐色土ブロックが含まれる。焼土粒は1層に比べ多い。
- 3 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性弱く硬くしまる。白色粒子を少量含む。焼土粒・炭化物は少量含まれる。
- 4 黒褐色土(Hue10YR2/2) 粘性あり軟らかい。焼土粒を多量に含む。床上直上。
- 5 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性弱く硬くしまる。1~5cmの焼土ブロックが少量含まれる。炭化物も大きいものが含まれる。白色粒子。焼土粒多量に含まれる。
- 7 黒褐色土(Hue10YR2/2) 粘性弱くやや軟らかい。白色粒は3層より減少。焼土粒は少量含まれるが焼土ブロックは見られなくなる。炭化物は少量含まれる。SP2の埋土。
- 8 地山

K-K'

- 1 暗褐色土(Hue10YR3/4) しまりが弱く、削ると非常にサラサラと削れる。中に焼土の柔らかい土を含む。
- 2 黒褐色土(Hue10YR2/3) しまりが弱く削ると非常にサラサラと削れる。中に焼土ブロックを含む。炭化物を多量に含む。下部には焼土粒子を多量に含む。
- 3 黒褐色土(Hue10YR2/3) しまり有るが、サラサラと削れる。暗褐色土ブロック含む。1mmの白、オレンジ粒子を多く含む。
- 4 黒褐色土(Hue10YR2/2) しまりが有り焼土を多量に含む。又、炭化物が最も多く含まれる。
- 5 黒褐色土(Hue10YR2/2) しまりが強く、焼土粒子を多量に含む。炭化物が多量に含まれる。
- 6 褐色土(Hue10YR4/4) 焼土ブロック、ブラックバンドブロック、AT、褐色土。粘質土ブロックを多く含む。

SP3

L-L'

- 1 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘性弱くしまりあり1cm大の焼土のブロックが入る。白色粒子、焼土粒子はまばらである。
- 2 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘性やや弱く硬くしまる。褐色土ブロックが入る(3~5mm)
- 3 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘性弱くしまりあり。にぶい黄褐色土がマーブル状に混ざる焼土粒・白色粒少ない。
- 4 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘性やや硬くしまる。均質。1~2mmの焼土粒、5mm大の炭化物を少量含む。
- 5 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性ややあり。しまりあり。均質。焼土粒とやや大きめの炭化物含む。
- 6 黒褐色土(Hue10YR3/2) 値切性弱く硬くしまる。焼土・炭化物を少量含む。

M-M'

- 1 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘性弱く硬くしまる。白色粒・炭化物粒が均一に混ざる。
- 2 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性やや弱く硬くしまる。1層より白色粒が少量、1.5cm大の焼土粒と炭化物粒が混ざる。
- 3 暗褐色土(Hue10YR3/4) 1層と類似の大きめの焼土粒を含む。
- 4 黒褐色土(Hue10YR3/2) 硬くしまる。白色粒、焼土粒、炭化物粒に加え、2~6cm大の褐色土ブロックが混ざる。
- 5 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘性・しまり弱。焼土・白色・炭化物粒を少量含む。4~10cm大の礫と青灰色粒を含む。

- 6 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱く軟らかい。焼土粒をわずかに含む。
- 7 黒褐色土(Hue7.5YR3/2) 粘性やや弱く硬くしまる。1.5cm大の焼土と3cm大の褐色土ブロックが入る。
- 8 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘性やや弱く硬くしまる。白色粒・焼土粒をまばらに含むが、褐色土の大きなブロックがまばらにみられる。中央にかたまる20cm台の大きな礫がみられる。
- 9 黒褐色土(Hue7.5YR2/2) 粘性やや弱く硬くしまる。8層にみられた褐色土ブロックがわずかに含まれる。炭化物・焼土多数含む。
- 10 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘性やや強く硬くしまる。均質。1~2mmの焼土粒、5mm大の炭化物を少量含む。
- 11 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性ややあり。しまりあり。均質。焼土粒とやや大きめの炭化物含む。
- 12 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘性弱く硬くしまる。焼土・炭化物を少量含む。
- 13 暗赤褐色土(Hue5YR3/2) 粘性弱く硬くしまる。焼土直上で赤化している。埋土には炭化物・焼土を多量に含む。西面に行くほど赤化が強い。
- 14a にぶい赤褐色土(Hue5YR4/4) 粘性やや弱く軟らかい。10層が赤化したもの。炭化物含む。
- 14b 褐色土(Hue7.5YR4/4) 粘性やや強く軟らかい。10層直上。炭化物を多量に含む。1~2cmの褐灰色ブロックを含む。

SP 4

N-N'

- 1 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘性弱く、硬くしまる。白色粒・炭化粒を中量含むが、焼土粒はほとんどない。
- 2 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱く、硬くしまる。褐色土ブロック混ざる。下層にいくほど焼土・炭化物多くなる。
- 3 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性弱く、硬くしまる。褐色土10YR4/4が混ざる。
- 4 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱く、柔らかい。褐色土10YR4/4ブロックとATブロックが混ざる。焼土・炭化物を含む。

SP5

O-O'

- 1 黒褐色土(Hue10YR3/3) 粘性弱くしまりあり。1cm大の焼土のブロックが入る。白色粒子、焼土粒子はまばら。
- 2 黒褐色土(Hue10YR2/2) 粘性弱く、ややしまりなし。褐色土が少量混ざる。白色粒子均一だが焼土粒は少なめ。自然堆積層との境目のためやや明るい。
- 3 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性やや弱く、硬くしまる。褐色土ブロックが入る(3~5mm)
- 4 黒褐色土(Hue10YR3/3) 粘性弱く、しまりあり。にぶい黄褐色土がマーブル状に混ざる焼土粒・白色粒少ない。
- 5 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘性弱く、ややしまりが悪い焼土粒ほとんど含まない。白色粒の粒子はあらい
- 6 暗褐色土(Hue10YR3/4) 5層と類似しているが、褐色土。ブロック(2cm大)が含まれる。白色粒子はごく少量、炭化物少量含む。別の遺構の埋土か？
- 7 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱く、硬くしまる。焼土粒はほとんど含まず、白色粒子も微量、別の遺構の埋土か？
- 8 暗褐色土(Hue10YR2/3) 粘性弱く、硬くしまる。焼土粒・白色粒子ともに少量含む。

P-P'

- 1 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性やや弱く、硬くしまる。褐色土Hue10YR4/6が混ざる。炭化物を少量含む。
- 2 暗褐色土(Hue10YR3/4) 暗褐色土主体だが褐色土Hue10YR4/4のブロックが多量に含まれる。
- 3 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性が弱く、硬くしまる。焼土粒・炭化物ともに少量含まれる。褐色土Hue10YR4/4がごく少量マーブル状に混ざる。
- 4 黒褐色土(Hue10YR2/2) 粘性弱く、しまりあり。3層と類似するが混じりのない層。
- 5 暗褐色土(Hue7.5YR3/3) 粘性弱く、しまりあり。焼土粒・炭化物を多量に含む床直上の層。
- 6 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱く、しまりあり。焼土粒・炭化物を多く含む。褐色土Hue10YR4/4を少量含む。
- 7 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱く、しまりあり。焼土粒・炭化物を少量含む。中に、0.5~1cmの焼土粒も含まれる。褐色土Hue10YR4/4ブロックを少量含む。

Q-Q'

- 1 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性弱く、硬くしまる。白色粒子・焼土粒ともに少量含む。10cm大の礫を1点含む。礫は埋まる段階で落ち込んだもの。
- 2 黒褐色土(Hue7.5YR3/2) 粘性弱く、硬くしまる。褐色土が少量混ざる。0.2~0.5mm大のやや大きめの白色粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘性弱く、しまりあり。下層に向かうほど焼土粒は多くなる。褐色土がごく少量混ざる。
- 4 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘性弱く、軟らかい。ATのブロックが混ざる状況は壁の一部が崩落して混ざったものと考えられる。
- 5 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘性弱く、硬くしまる。焼土粒を多く含む。
- 6 暗褐色土(Hue7.5YR3/4) 粘性やや弱く、軟らかい。床面直上で焼土粒・炭化物を多く含む。使用時にたまった土の可能性がある。
- 7 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性弱くしまりあり。
- 黒褐色土(Hue10YR4/6) 2~3cm大の褐色土ブロックが少量含まれる。上層では暗褐色土が混ざる。

R-R'

- 1 褐色土(Hue10YR4/4) 粘性弱く、やや硬い。焼土粒・白色粒を含まない。6層の色調に類似(=ブリッジ)。
- 2 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粘性がやや弱く、軟らかい。褐色土が混ざる。焼土粒・白色粒含む(壁がブリッジの土の可能性有り)
- 3 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粘性弱く硬く、しまる白色粒、焼土粒を少量含む、褐色土・ATブロック混ざる。
- 黒褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱く硬く、しまる。白色粒はまばらに見られるが焼土粒は少量で、ほぼ均一な土質。
- 4 黒褐色土(Hue10YR 3/3) 粘性弱く硬く、しまる。0.1mm大の焼土も混ざる。炭化物多く含まれる。褐色土ブロックが多量に混ざる。

- 5 にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘性弱く軟らかい。ATが混ざる。
- 6 にぶい赤褐色土(Hue10YR4/4) 床面直上は軟らかい。焼土粒子を多量に含む。3cm大の焼土ブロックもみられる。
- 7 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性しまりあり、2~5cm褐色土ブロックがごくわずかに混ざる。炭化物少量含む。

S-S'

- 1 SP5を切る土坑か。
- 2 SP5を切る土坑か。
- 3 SP5を切る土坑か。
- 4 黒褐色土(Hue10YR3/3) 粘性弱く硬くしまる。焼土・白色粒ほとんど無し。炭化物多く含む。褐色土ブロック大量に混入。
- 5 黒褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱く硬くしまる。焼土粒、白色粒ごくわずかに含む。
- 6 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性しまりあり、2~5cm褐色土ブロックがごくわずかに混ざる。炭化物少量含む。
- 7~10 地山

T-T'

- 1 褐色土(Hue10YR4/4) 粘性弱くやや硬い。焼土粒・白色粒を含まない。
- 2 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱くやや硬い。褐色土Hue10YR4/4のブロックを多量に含む。
- 3 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性弱く硬くしまる。白色粒、焼土粒を少量含む褐色土・ATブロック混ざる。
- 4 黒褐色土(Hue10YR3/3) 粘性弱く硬くしまる。1mm大の焼土も混ざる。

土坑土層注記（縄文時代早期）

- SC4 1. 黒褐色土(Hue10YR3/1) やや粘性あり、硬くしまる。
- 2. 暗褐色土(Hue10YR3/4) やや粘性あり、硬くしまる。
- SC5 1. 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性弱いがしまりあり。
- SC6 1. 黒褐色土(Hue10YR2/2) 粒子は細かく、しまりなし。
- 2. 黒褐色土(Hue10YR3/2) 粒子細かく、MLIのブロック含む。
- SC7 1. 黒色土(Hue10YR2/1) 粒子細かく、硬くしまり粘質有り。アカホヤ粒子・炭化物を含む。
- 2. 黒色土(Hue10YR2/1)・黄褐色土Hue10YR 6/6混合土、明黄褐色土の粒子は粗い。
- SC8 1. 黒褐色土(Hue10YR2/3) 粘性やや弱く、しまりあり。褐色土がごく少量ほど混ざる。
- SC9 1. 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性・しまりあり。
- 2. 黒褐色土Hue10YR2/3 粘性があり、軟らかい。
- SC10 1. 暗褐色土(Hue10YR3/4) 粘性強くしまりあり。褐色土Hue10YR4/4が少量混ざる。
- 2. にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粘性がやや弱く軟らかい。焼土ブロック（φ1.5cm大）が混ざる。褐色土が1層より多く混ざる。
- 3. 褐色土(Hue10YR4/6) 粘性やや弱く軟らかい2層と同じ土坑の埋土。
- SC11 1. 黒色土(Hue10YR2/1) 粒子細かく硬くしまる。粘質あり、アカホヤ粒子や炭化物含む。
- 2. 暗褐色土(Hue10YR3/3) 粒子細かく硬くしまる。粘質あり、少量のアカホヤ粒子や炭化物含む。
- SC12 1. 黒褐色土(Hue10YR3/2) 硬くしまるが、粘性弱い。炭化物を少量含む。
- SC14 1. 黒褐色土(Hue10YR2/2) 粒子細かく硬くしまる。粘性は弱い。微量の焼土粒、炭化物を含む。
- 2. 黒褐色土(Hue10YR2/2)・にぶい黄褐色土10YR 4/3が混じる。全体的にしまりはなく粘質も弱い。
- 3. にぶい黄褐色土(Hue10YR4/3) 粒子はやや粗く、しまりもない。粘質あり。
- 4. 黒褐色土(Hue10YR2/2) 1と同質だが0.5~1cm大の2の粒子が混ざる。また焼土を含まない。

第3表 集石遺構観察表(1)

集石番号	調査区	出土位置		規模(m)			配石		備考	分類
		グリッド	検出	長軸	短軸	深さ	有無	個数		
S18	B	I16d	V層上部	1.30	0.95	0.20	有	7	周囲にはS130が隣接する。掘り込みに約20cm大の礫を貼り付けるように配されている。これらの配された礫には、弧を描くように礫内側に明瞭な赤化部分が見られる。構成礫は尾鈴山酸性岩類が大半をしめ、よく赤化する。両断面にかかる中央の礫は砥石(図版7)であり、正面が平らになるように掘えおくようみられた。	I
S19	A	D6b	V層上部	0.88	0.50	0.10	有	4	アカホヤ火山灰層削平部より単独で検出された。また、南西部は攪乱によって欠れている。中央の礫や検出礫の面がそろうことから、削平され情報が少ないが配石とした。埋土中より炭化物・焼土が確認できた。	I'
S10-1	B	G11d	V層上部	1.10	0.94	0.14	有	10	B区アカホヤ火山灰層削平部分より2基、密接するように確認した。中央部と東西方面に礫が粗である。比較的大型の礫で構成され、掘り込み壁に密着するように配され、中には支柱のように小型の礫が大型礫の下に不安定な状況で確認された。礫は、中央より若干下まで入る。埋土に炭化物・焼土がみられた。	I'
S10-2	B	G11d	V層上部	0.85	0.70	0.15	無		上面が10cm程度の地点から検出した。上面はすでに、アカホヤ火山灰層上面まで削平されている。掘り込み浅く礫も非常に粗であり上面にのみ集中する。埋土からは炭化物・焼土粒がみられ、礫大半が赤化していた。	II'
S11	A	D8c	V層上部	1.18	0.93	0.18	有	16	S12に隣接して検出した。掘り込み周囲には大型の礫が配され、床面に密着し、意図する並びと考えられる。北半の外周礫が特に明瞭である。礫は中央が小型であり土坑の中位までみられる。赤化がみられた。	I'
S12	A	D8c	V層上部	1.06	0.78	0.15	無		同グリッド内に密集する3集石の内、中央に位置する集石遺構である。上面は削平され、南東側は攪乱が見られる。礫は掘り込み内に密に広がり、土坑上部に集中する。	II'
S13	A	E8c	V層上部	0.90	0.88+	0.10	無		アカホヤ火山灰層削平部より検出した。上部は大きく削平され、一部攪乱がみられた。掘り込み浅く、床まで礫が入る。	II'
S14	A	E8a	V層上部	1.10	1.05	0.12	無		周囲に攪乱、上部は削平面の状況の中で検出した。礫の集中箇所は2つに区切られることから2つの集石遺構が切り合った状況かと考えられる。明瞭な赤化は若干確認できた。	II
S15	A	E8a	V層上部	-	-	-	無		アカホヤ火山灰層下、攪乱の間より検出された。掘り込みは非常に浅く、床面まで礫が入る。埋土には炭化物を含み、強い赤化がみられた。	II'
S16	A	E8a	V層上部	1.08	0.84+	0.13	無		アカホヤ火山灰層削平部から検出した。1/4程攪乱を受けている。中～大型の礫によって構成される。礫は掘り込み際まであり、上部に集中がみられる。赤化がみられる。埋土中には焼土を含む。	II'
S17	A	E8b	V層上部	0.9+	0.76	0.85	無		アカホヤ火山灰層削平下から出土した。また、一部攪乱の影響が見られる。掘り込みは広く、浅い。礫は中央にまばらに広がり、掘り込みの床面まで入る。赤化がみられる。	II'
S18	A	E8b	V層上部	1.18	1.11	0.16	無		攪乱集中区の近くより検出した。上面はすでに削平されていたが、礫は掘り込み内に割と残っていた。他の集石遺構より大きく、赤化した礫が多くみられた。	II'
S19	A	E8b	V層上部	0.90	0.51+	0.23	無		B区南側のアカホヤ削平下より検出した。プランの1/2が攪乱を受けている。検出した集石遺構の内、最も掘り込みが深く礫もまばらであるが、床面近くまで入る。このレベルで8点程の礫がそろそろ。赤化と0.5～1.5cm程度の炭化物がみられた。	II'
S20	A	D9d	V層上部	1.28	0.58+	0.25	無		調査区端のアカホヤ残存下、単独にて検出した。掘り込みは広く、中央に礫が厚く密集する。埋土には、少量の炭化物を多量に含む。	II
S21	A	D8c	V層上部	1.07	1.04	0.19	無		周囲に複数の集石遺構が広がる。アカホヤ火山灰削平下より検出した。礫は粗であり、掘り込みの上部に広がる。埋土中に炭化物・焼土がみられる。	II'
S22	A	E8d	V層上部	1.07	0.85	0.19	無		比較的、S142に近い箇所から検出した。上面はすでに削平されており、上部に1/4程広がるのみであった。埋土に炭化物・焼土を含む。	II'
S23	B	I17d	V層上部	1.00	0.75	0.13	無		S127・28に隣接してアカホヤ火山灰層残存下にて検出された。南側については、斜面地形の影響と削平によって礫の残りが悪い。掘り込みは広く、浅い。礫も上部だけに密集する。埋土中より焼土・炭化物が確認される。	II'
S24	A	C5b	V層上部	0.75	0.70	0.15	無		アカホヤ残存部下より単独で検出された。礫は小形のものが多く、粗である。掘り込み内に炭化物が特別に密集する箇所が見られた。	II
S25	A	C6d	V層上部	0.92	0.88	0.10	無		アカホヤ残存部下で単独で検出した。掘り込みの壁に大型の礫を配する。中央は礫が粗である。埋土には炭化物・焼土を含む。	II
S26	A	D8c	V層上部	1.24	1.13	0.10	無		アカホヤ火山灰層残存下にて検出した。周囲には多くの集石遺構が隣接する。一部、攪乱がみられる。掘り込みは広く、浅い。礫は粗であり、床面まで入る。埋土に炭化物を含む。	II'
S27	B	G11b G12a	V層上部	1.10	0.93	0.15	無		S128・29に隣接するアカホヤ火山灰層下にて検出された。掘り込みは広く、小形の礫が厚く床面まで密集する。埋土中には、炭化物・焼土がみられた。	II
S28	B	F11d	V層上部	1.01	0.90	0.19	無		3基集中する集石遺構の北端に位置する。アカホヤ火山灰層下で検出する。掘り込みは広く、浅い。礫は、部分的に密集度が異なり、掘り込み上部に片寄る。	II
S29	B	G12a	V層上部	-	-	-	無		B区北側に3基まとまって検出した集石遺構の南端に位置するものでアカホヤ残存下に良好な状態をとどめていた。検出時点は2基の集石が切り合っているか思われた。しかし、半截後の埋土堆積が斜めに見られ、礫も遺構同様に並ぶことから「掻き出した状況」を示すものと判断した。	II
S30	B	I16d	V層上部	1.10	0.90	0.10	無		S18に隣接する。掘り込みは浅く、中心に礫が集中し、周囲は粗である。やはり尾鈴山酸性岩類の破砕礫によって構成され、赤化がられた。	II
S31	A	C5a	V層上部	0.58+	0.44+	0.10	無		調査区北半、アカホヤ火山灰層削平部分より検出した。プランの過半を攪乱により欠している。礫は少数である。	II'
S32	A	E8d	V層上部	0.70	0.54	0.11	無		西側にはS122がみられる。上部がすでに削平されていたが以下の点から集石遺構と判断した。礫は非常の粗であるが、プランが円形を呈すること、他集石器同様の規模且つ炭化物・焼土を含むことが確認された。	II'
S33	A	C6c	V層上部	0.48	0.44	0.80	無		大幅な削平により残存部が非常に少ない。掘り込み床面から5cm程浮いた所に扁平な大型の礫が1点検出されたが配石の可能性は少ないと判断した。	II'
S34	A	D7c	V層上部	0.79	0.72	0.16	無		アカホヤ火山灰層削平部分から単独で検出した。掘り込みの壁に順に並べたように礫筒々が比較的順序よく配されていた。半数ほどが赤化礫であり、埋土から炭化物が確認された。	II'
S35	A	E7d E8c	V層上部	0.64	0.55	0.90	無		アカホヤ火山灰層削平部分から単独で検出した。掘り込み急であり床面が平らになる。掘り込み周囲は赤化する。礫も上面の近くに密にみられる。	II'
S36	B	H13d	IV層中部	-	-	-	無		他の集石遺構より上の検出面で確認した。掘り込みはないが、礫が密集するので認定した。	III'

第4表 集石遺構観察表 (2)

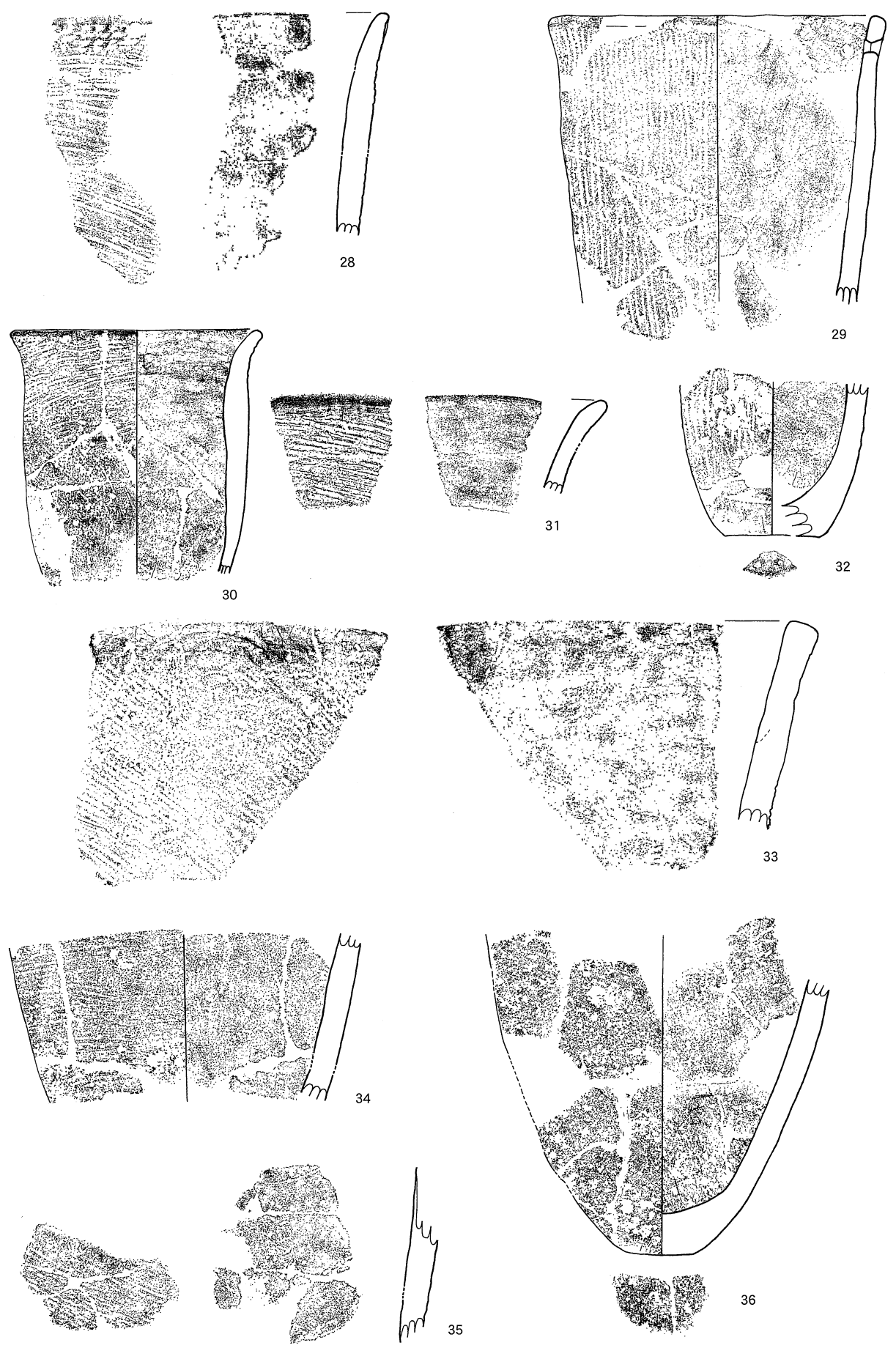
集石番号	調査区	出土位置		規模(m)			配石		備考	分類
		グリッド	検出	長軸	短軸	深さ	有無	個数		
SI37	A	D9c	V層上部	1.03	0.75	-	無		アカホヤ火山灰層残存下にて単独で検出された。掘り込みはない。周囲には、礫がまばらに広がるのみで同様な密集地はみられない。範囲内には炭化物・焼土を含み、赤化がみられた。	Ⅲ
SI38	A	B4a	IV層上部	0.83	0.82	0.15	無		調査区北のアカホヤ火山灰層下で検出した。比較的小型の掘り込み中央に大型の礫1つ、掘り込み端に比較的大型の礫・中央近くに細かな礫を配する。南端は粗である。埋土に炭化物・焼土を含む。	Ⅳ

第5表 炉穴観察表

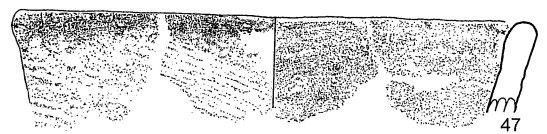
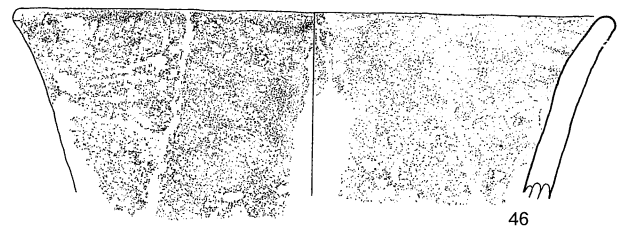
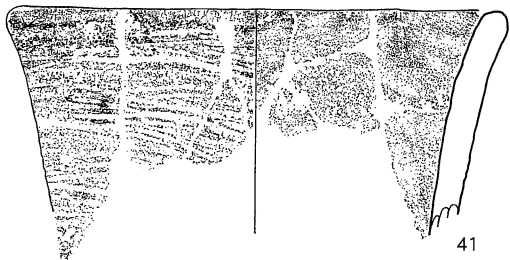
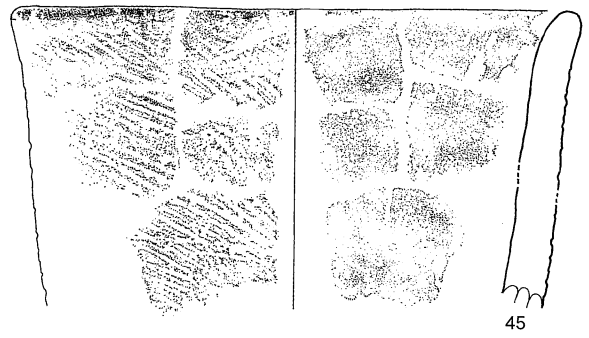
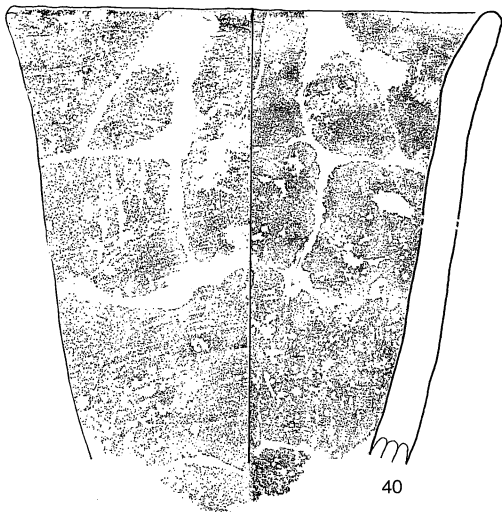
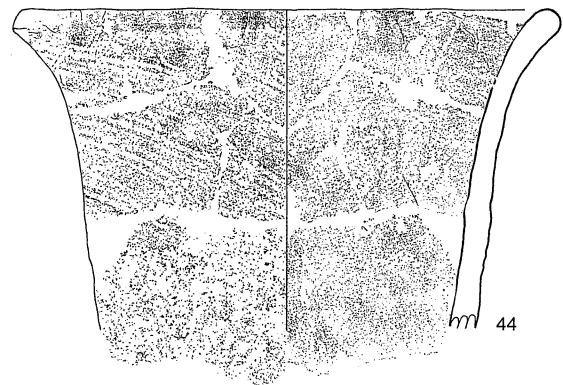
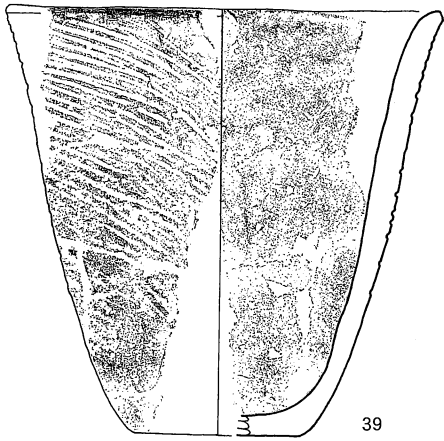
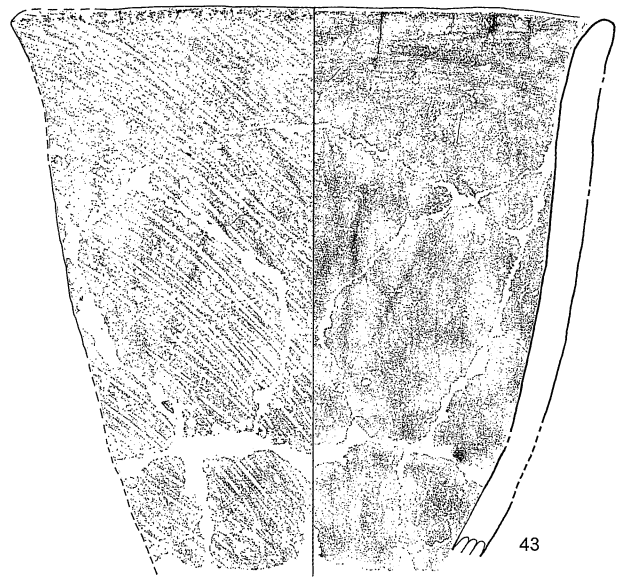
炉穴番号	調査区	出土位置		規模(m)			ブリッジ	備考
		グリッド	検出面・実測	長軸	最大幅	深さ		
SP1-1	A	B2b	IV層中部・VII層上面プラン確定	2.20+	0.93+	0.43+	無	SP1の中で最も新しい。一部攪乱がみられる。床面は非常に硬いIX層であり、東端が燃焼により赤化している(炉部)。プランは、炉部周囲が最も低い。
SP1-2	A	B2b	IV層中部・VII層上面プラン確定	1.50	0.80	0.31+	無	SP1-1に切られ、炉部として明瞭な箇所は残存していないが、中央部に赤化部分が若干残っている。
SP1-3	A	B2b	IV層中部・VII層上面プラン確定	1.28	0.65+	0.23+	無	SP1-2に切られる。埋土は非常に硬く、床面はIX層上位であり、北端が赤化している(炉部)。
SP1-4	A	B2b・A2d	IV層中部・VII層上面プラン確定	1.30+	1.10+	0.20+	無	SP1-3に切られる。埋土は非常に硬い。床面はVII層上位であり、西端側面にVII層赤化がみられる。
SP2-1	A	E7a・E7b	V層検出・VI層プラン確定	1.30+	1.02+	0.50	無	SP2-2・3に切られる。埋土は硬く、焼土・炭化物を含む。プラン東側床面に赤化がみられる(炉部)。
SP2-2	A	D7c	V層検出・VI層プラン確定	1.50+	0.65+	0.74+	有	SP2-3に切られる。北側端や側面に赤化がみられる。中央より北に、ブリッジと思われる箇所が確認できる。
SP2-3	A	D7c・D7d	V層検出・VI層プラン確定	1.74+	1.01+	1.83+	無	埋土の状況からSP2-1・2より新しい。掘り込みはIX層まで、南端は側壁が赤化し、さらにVII層が赤化したものが厚く堆積する。北端は1個分に近い大型土器片が重なって出土した。
SP2-4	A	D7c	V層検出・VI層プラン確定	1.10+	1.50+	0.57+	有>無	IX層まで掘り込み、北端が明瞭に赤化している(炉部)。また、赤化部分中央は上場が内側に入ることから、ブリッジの可能性が高い。埋土上部層から台石(103)が出土した。
SP2-5	A	D7c・D7d	V層検出・VI層プラン確定	1.10+	0.80+	0.55+	無	IX層までの掘り込み、西端は赤化する。西端は攪乱のため不明。切り合い部分は礫が密集した。
SP2-6	A	D7d	V層検出・VI層プラン確定	1.50+	1.15+	-	無	IX層まで掘り込み、南端は赤化する。中央は攪乱により削平。赤化面はSP2-7切り合い部分までみられる。
SP2-7	A	D7d	V層検出・VI層プラン確定	2.20+	1.10+	0.45+	無	IX層まで掘り込み、西端は赤化する。西端先は樹痕により不明。直径0.8m範囲に赤化がみられる。
SP3	B	I15c	V層下部検出・VI層プラン確定	2.65	0.91	0.87+	無	単独で検出された。掘り込み・赤化面はIX～X層である。焼土ブロック・赤化面の検出から東端部が炉部と考えられる。
SP4-1	B	I14b	V層下部検出・VI層プラン確定	1.95+	0.85+	0.65+	無	IX層まで掘り込み、北端の床面に赤化部分が確認された(炉部)。検出面上部は風倒木痕がみられた。
SP4-2	B	I14b・I15a	V層下部検出・VI層プラン確定	1.20+	1.00+	0.35+	無	SP4中で新しい炉穴でIX層まで掘り込んでいる。上部は風倒木痕がみられた。プランの北側壁に赤化がみられる(炉部の可能性有り)。
SP4-3	B	I15a	V層下部検出・VI層プラン確定	1.95+	0.95+	0.62+	無	SP5中で最初に作られた炉穴でIX層まで掘り込んでいる。上位は樹痕が重なっている。プランの南側・東側壁に赤化部分がみられる(炉部の可能性有り)。
SP4-4	B	I15a	V層下部検出・VI層プラン確定	1.20+	0.91+	0.55+	無	SP4-3が樹痕により攪乱を受けた後、掘り込まれたと考えられる。床面はSP4-3の埋土中。上部は倒木痕。東端側面に赤化部が確認できた(炉部の可能性有り)。
SP5-1	B	I15c	VI層検出・VI層プラン確定	0.60+	1.00+	0.55+	無	SP5-2に切られる。北端と壁に赤化がみられる。
SP5-2	B	I15c	VI層検出・VI層プラン確定	0.80+	0.82+	0.55+	無	床面はSP5-1と同じ面となる。また、北端が赤化する。
SP5-3	B	I14d・G14b・I15c	VI層検出・VI層プラン確定	1.85+	0.81+	0.29+	無	VI層上面より掘り込み、東端に赤化がみられる。SP5-4に西端が切られている。
SP5-4	B	I14d・I15c	VI層検出・VI層プラン確定	1.50+	0.89+	0.63+	無	VI層上面より掘り込み、東端に赤化がみられる。SP5-2又はSP5-5に切られる。
SP5-5	B	I15c・G15a	VI層検出・VI層プラン確定	3.00+	1.14+	0.50+	有	VI層上面からIX層まで掘り込む。南端に赤化がみられ、ブリッジも残存する。

第6表 土坑観察表

土坑番号	調査区	出土位置		規模(m)			遺物	備考
		グリッド	検出面	長軸	短軸	深さ		
SC4	A	D7a	V層	0.69	0.51	0.12	無	不定形なプランを呈す。中央に樹痕有り。
SC5	B	D8a・D8c	V層	0.63	0.45	0.15	無	楕円形に近い。埋土中に小形の礫を含む。
SC6	B	G11a	IV層	0.52	0.48	0.15	有	円形を呈する。土器2点。
SC7	B	G11a	IV層	0.52	0.52	0.09	有	方形に近い円形のプランを呈する。土器1点。
SC8	B	F11c	V層	0.99	0.63	0.21	有	不定形なプランを呈す。土器1点。
SC9	B	F11d	V層	0.48・0.24	0.52・0.39	0.60・0.33	有	2基の土坑が切り合う。土器1点。剥片1点。
SC10	B	G11b	V層	0.81	0.66	0.52	有	方形に近い円形のプランを呈する。土器3点。
SC11	B	H13a	IV層	0.45	0.52	0.21	無	円形に近い。
SC12	B	H13b	IV層	0.60	0.51	0.09	無	不定形を呈する。
SC13	B	I14a	V層	1.74	1.26+	0.15	有	土坑内で最もプランが大きく、浅い。
SC14	B	I14a	V層	0.78	0.45	0.36	無	平面は不定形で、断面は一部深い。



第23図 縄文時代早期土器実測図 (1) 0 ————— 10cm



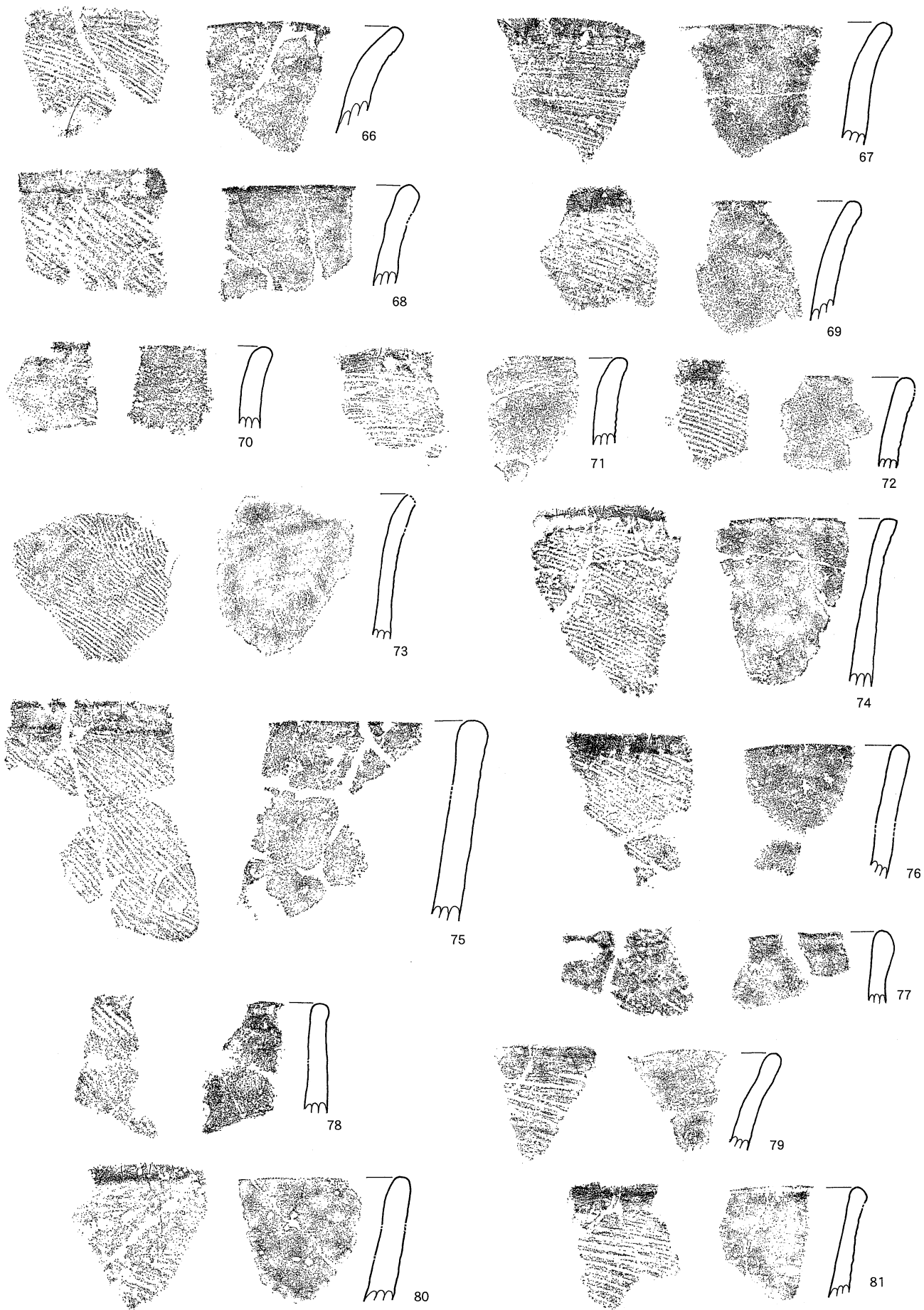
第24図 縄文時代早期土器実測図 (2)

0 ————— 10cm

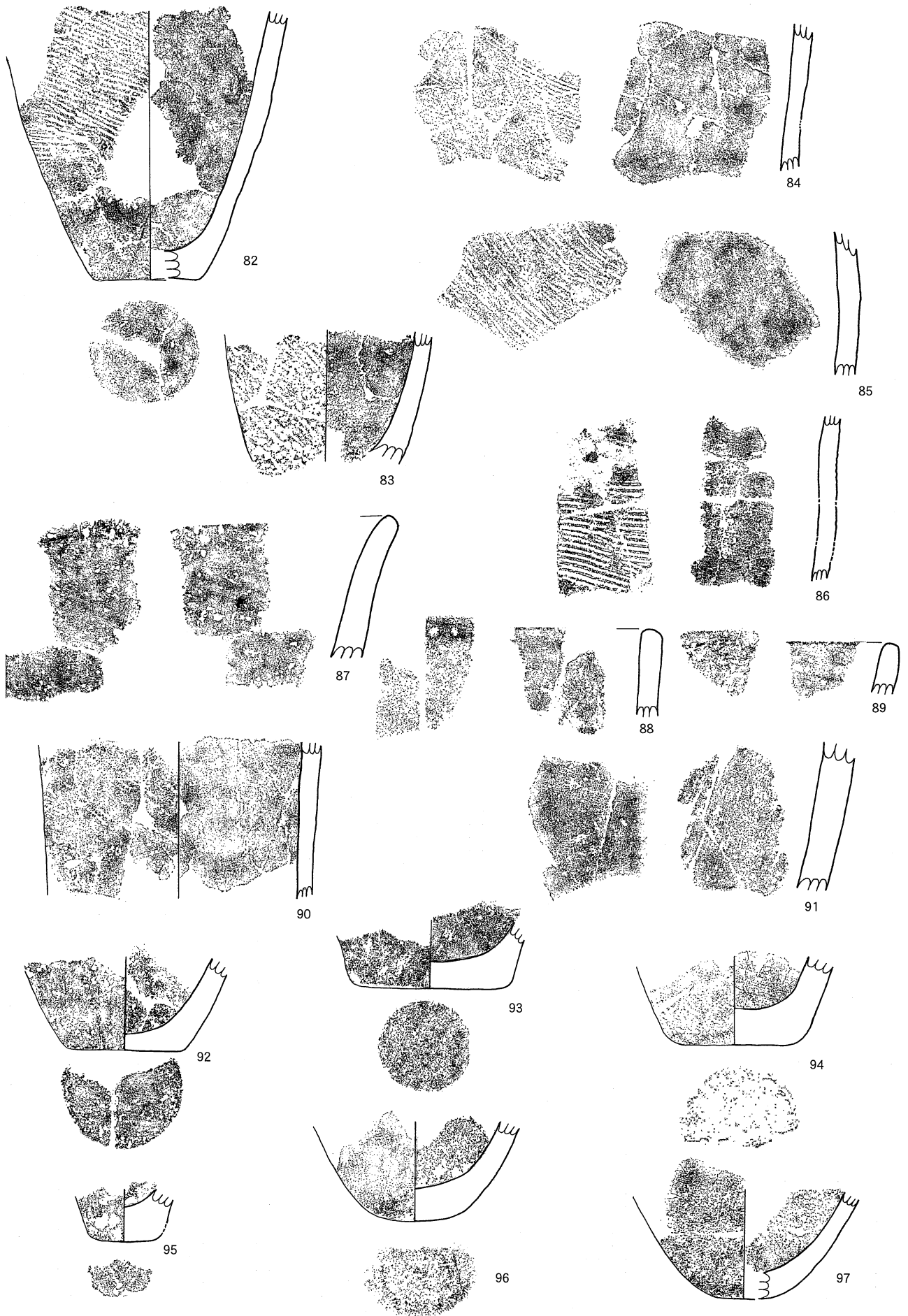


第25図 縄文時代早期土器実測図 (3)

0 ————— 10cm

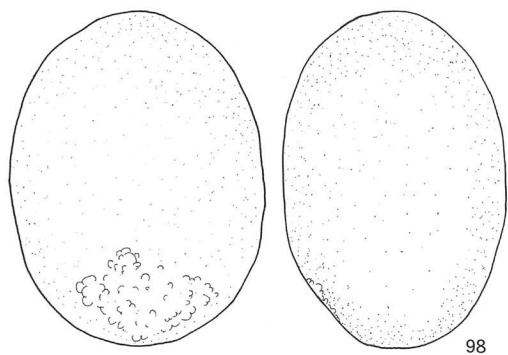


第26図 縄文時代早期土器実測図(4) 0 ————— 10cm

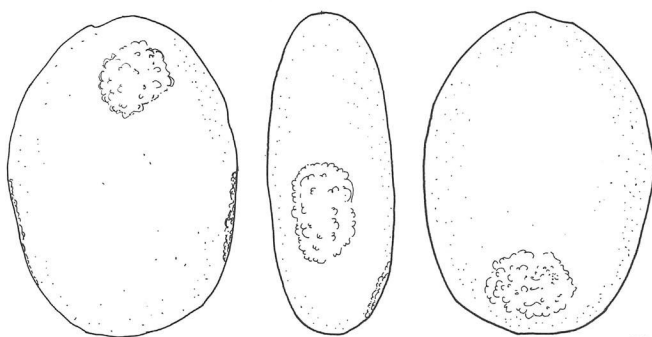


第27図 縄文時代早期土器実測図 (5)

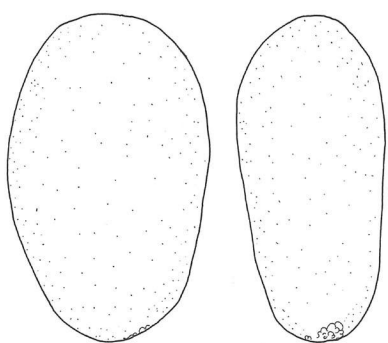
0 ————— 10cm



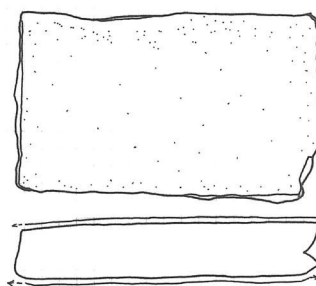
98



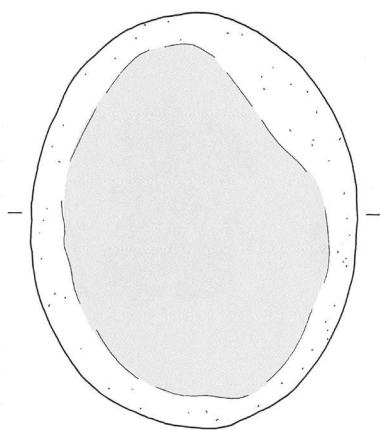
99



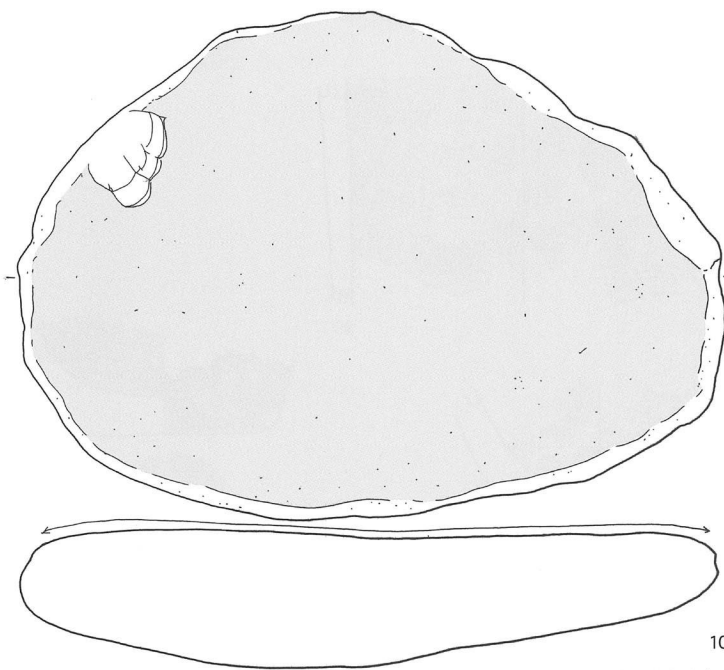
100



101



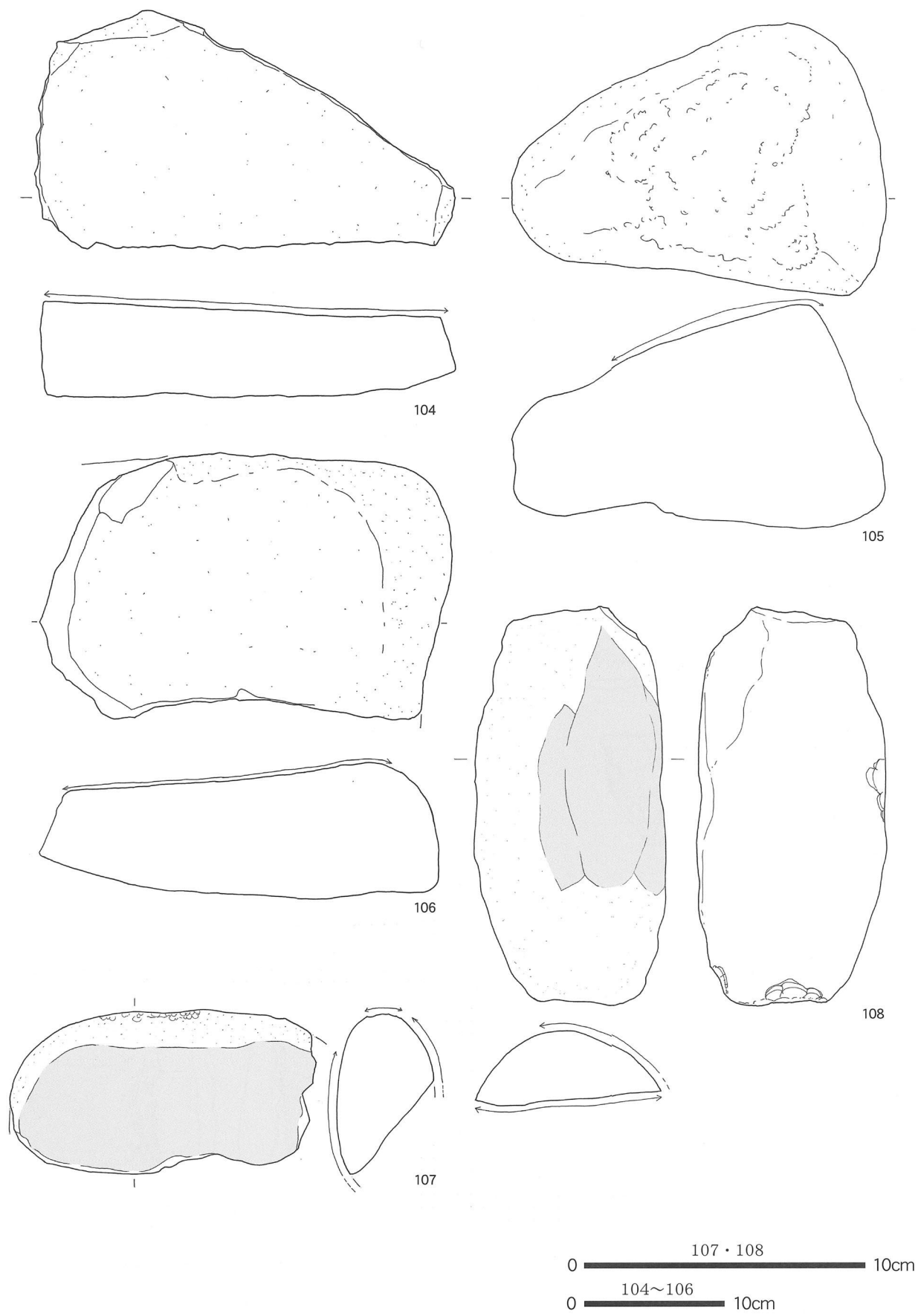
102



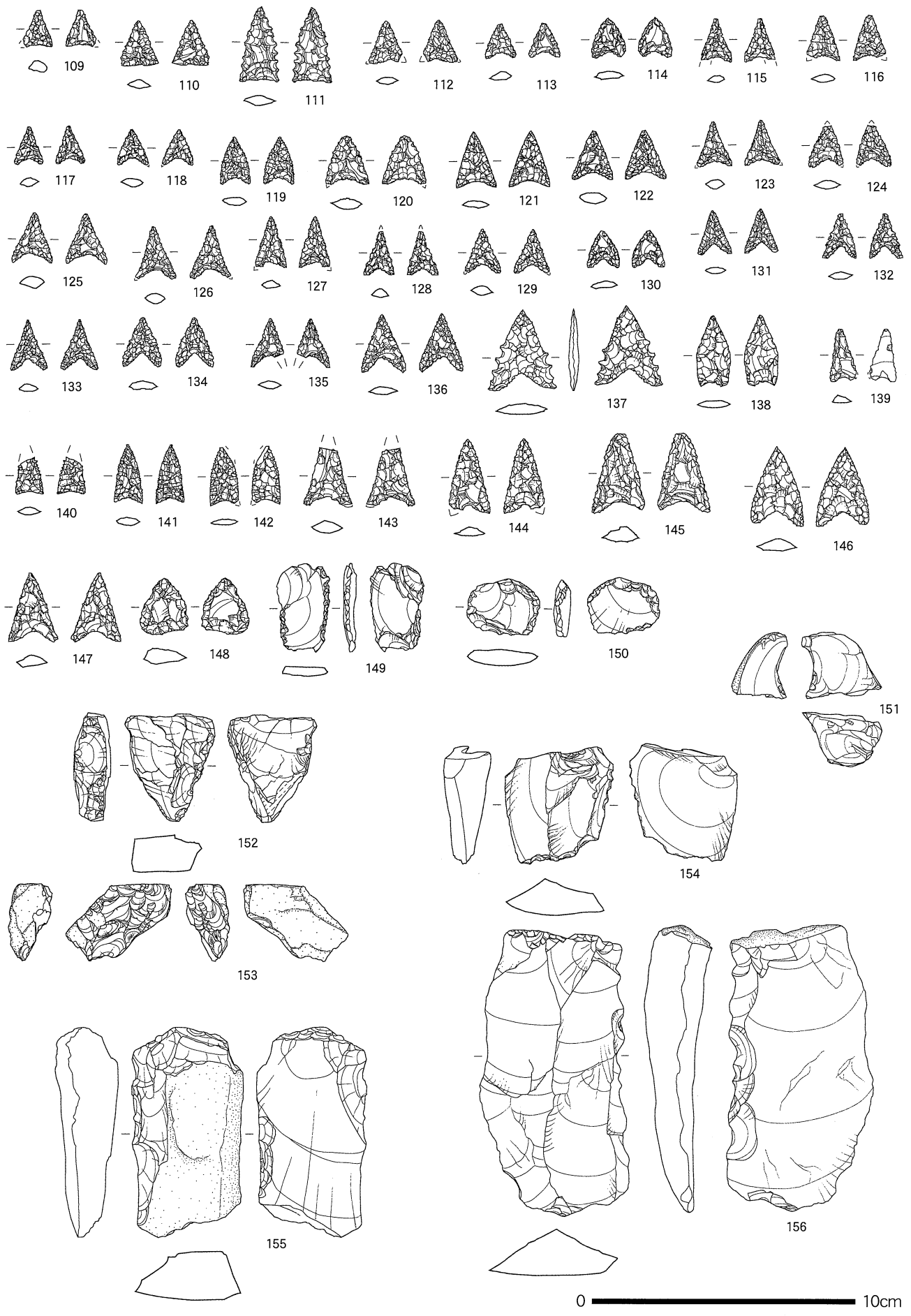
103

0 ————— 98~100・102 10cm
 0 ————— 101・103 10cm

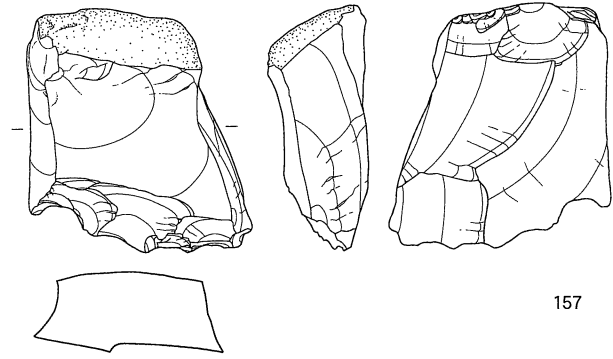
第28図 縄文時代早期石器実測図(1)



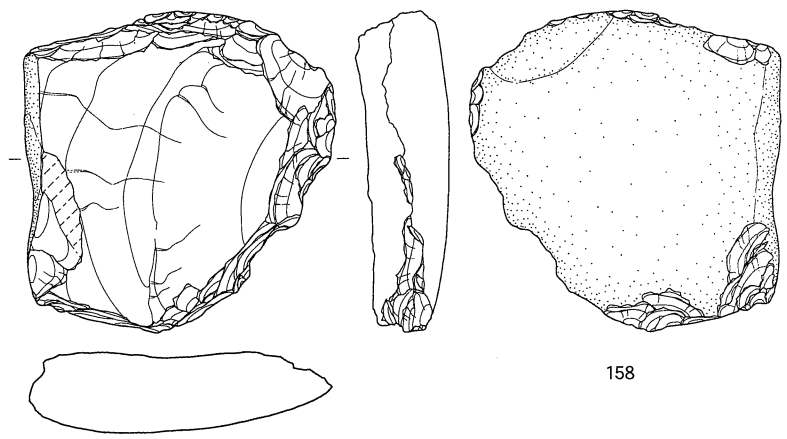
第29図 縄文時代早期石器実測図 (2)



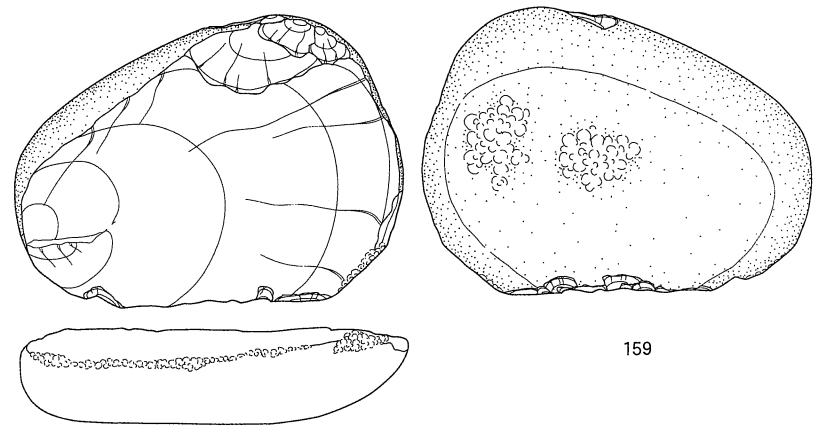
第30図 縄文時代早期石器実測図 (3)



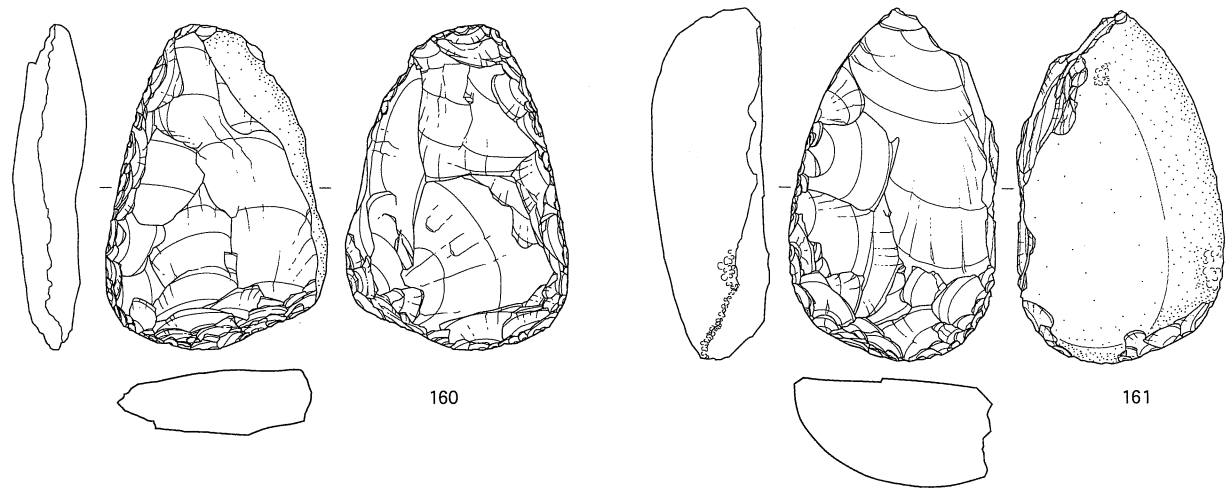
157



158



159

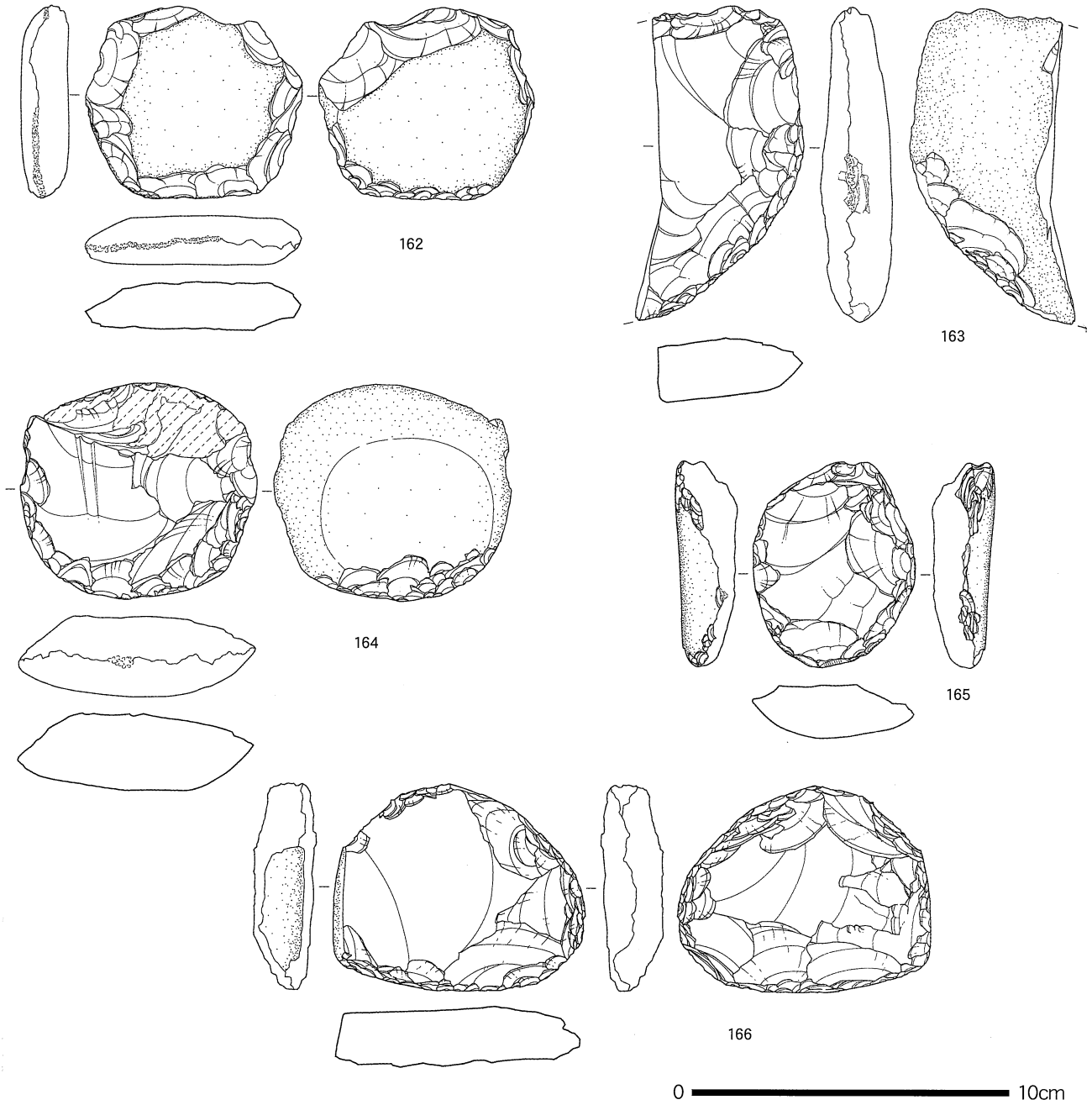


160

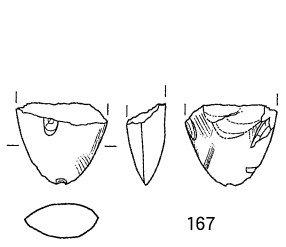
161

0 ————— 10cm

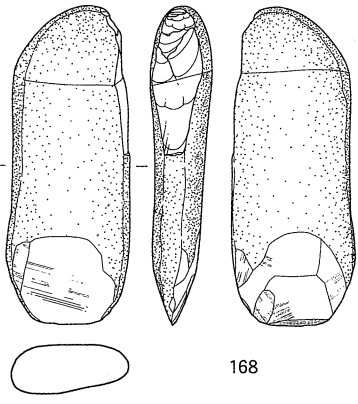
第31図 縄文時代早期石器実測図 (4)



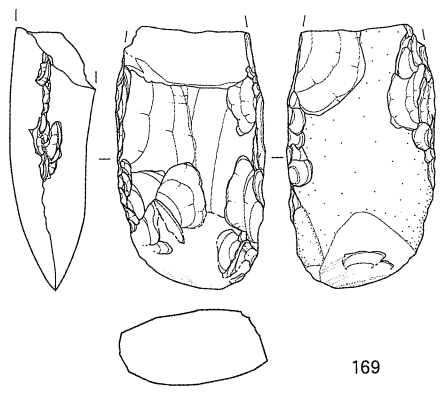
第32図 縄文時代早期石器実測図 (5)



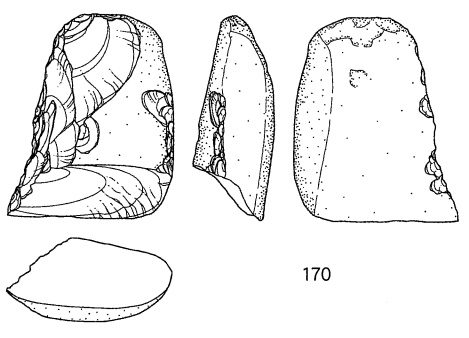
167



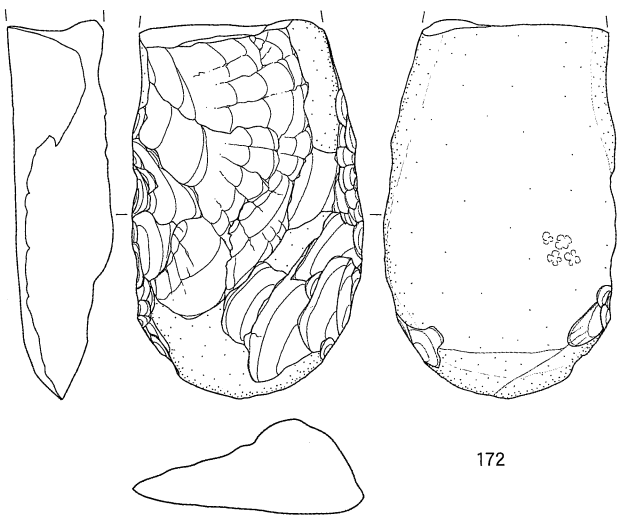
168



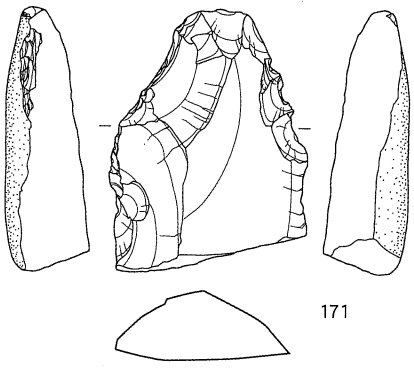
169



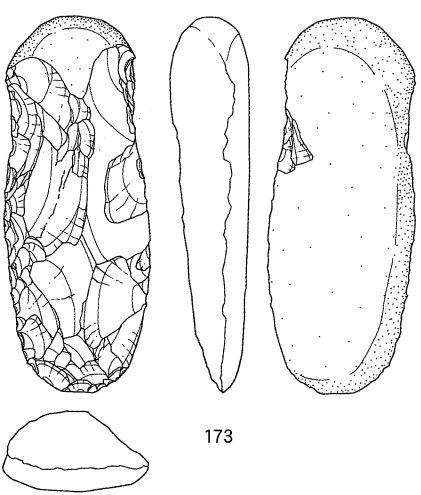
170



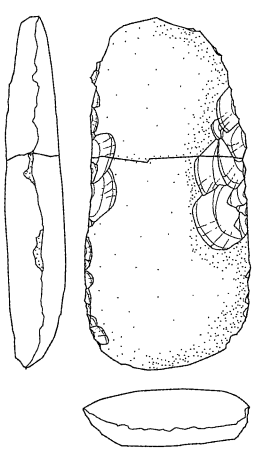
172



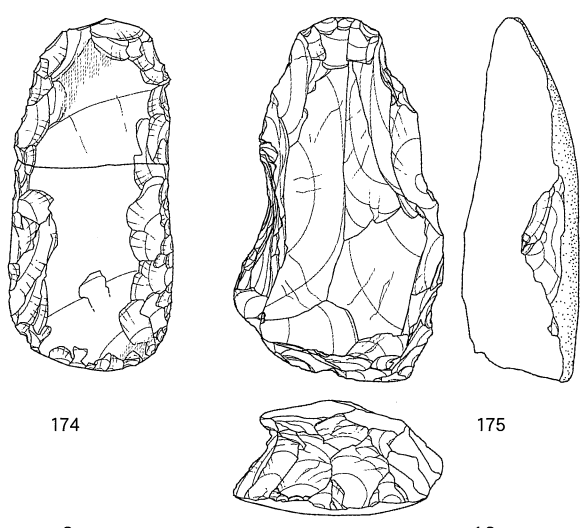
171



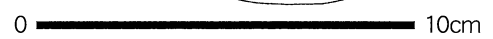
173



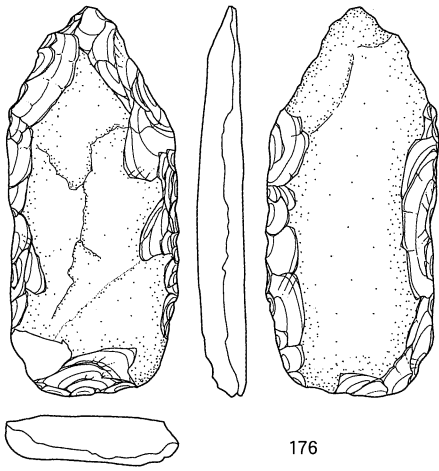
174



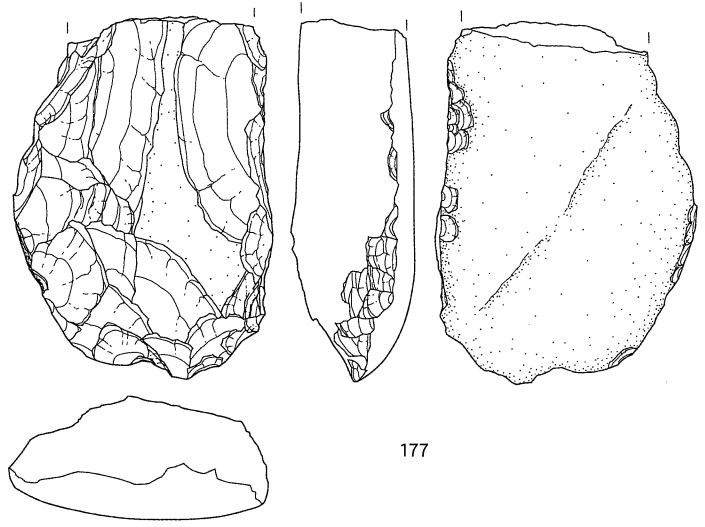
175



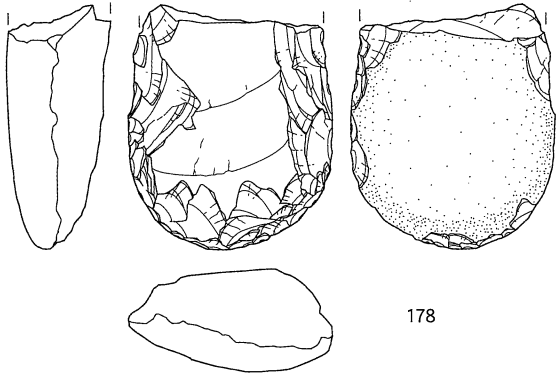
第33図 縄文時代早期石器実測図 (6)



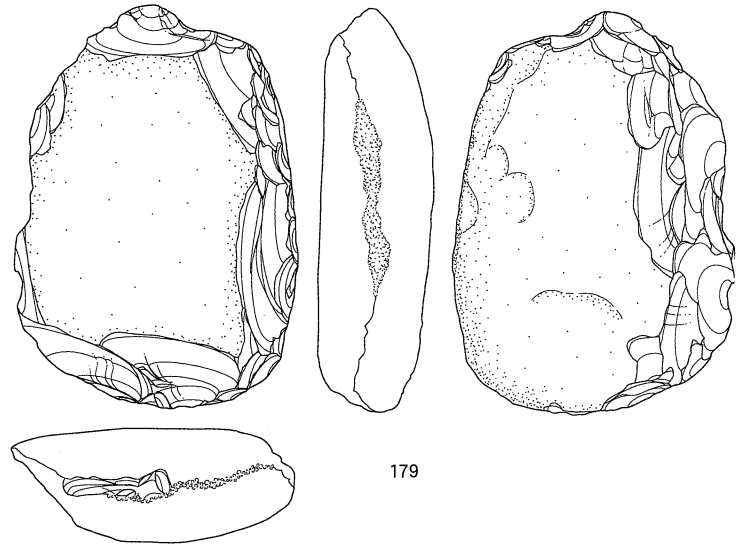
176



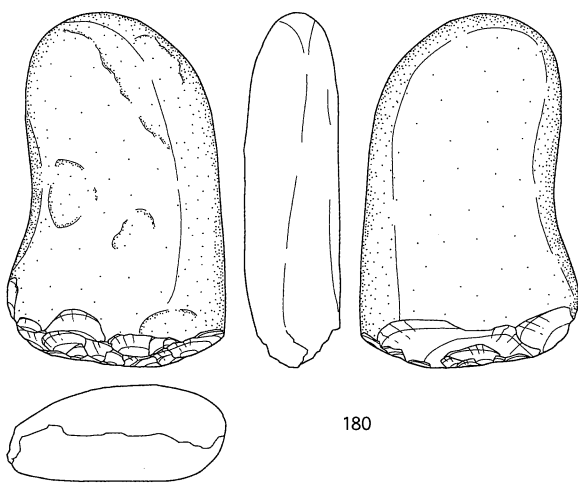
177



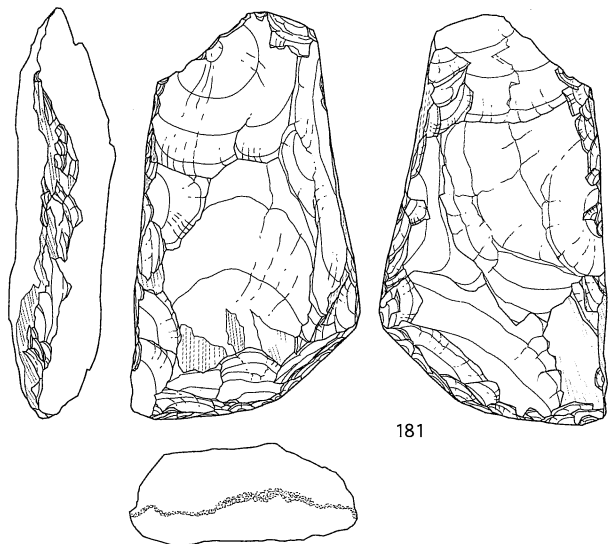
178



179



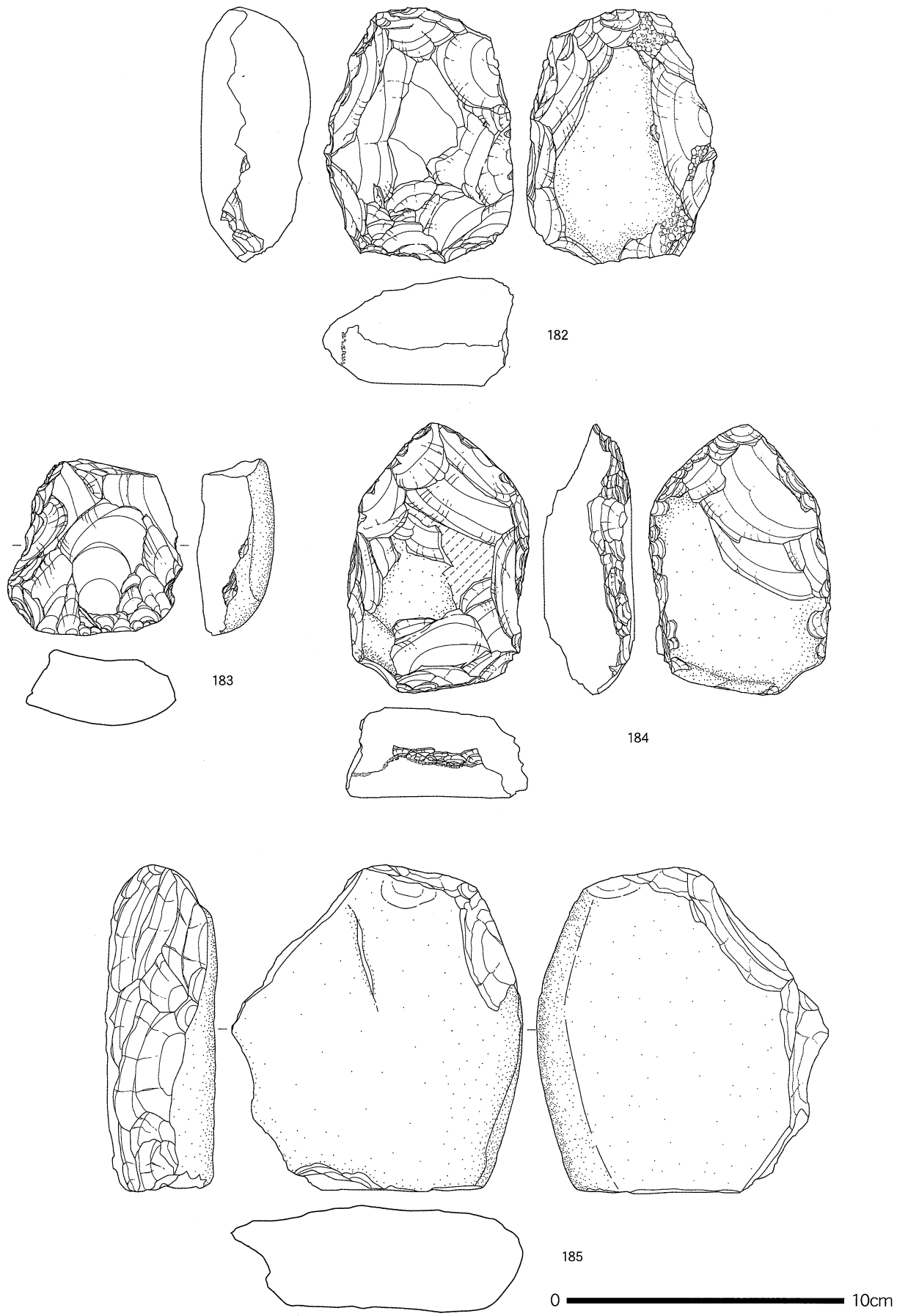
180



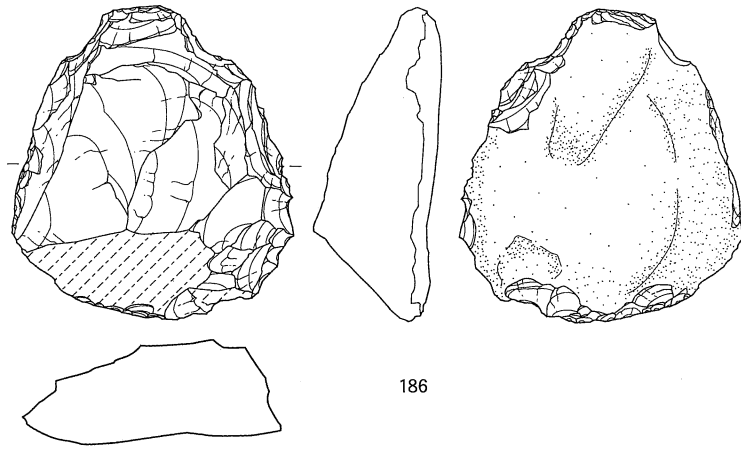
181

0 ————— 10cm

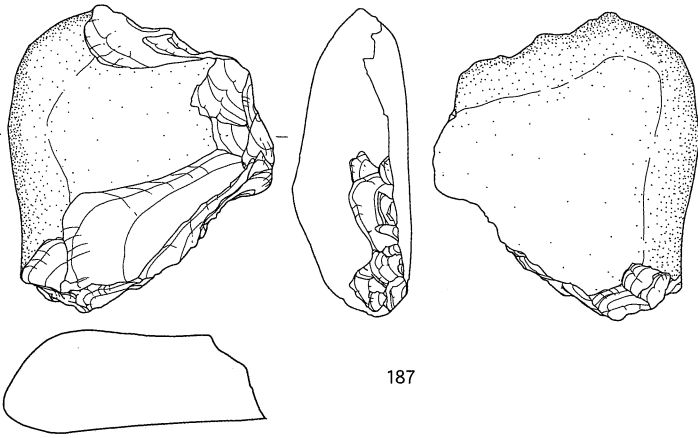
第34図 縄文時代早期石器実測図 (7)



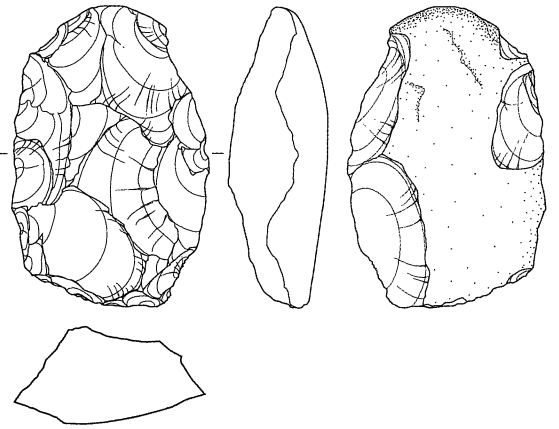
第35図 縄文時代早期石器実測図 (8)



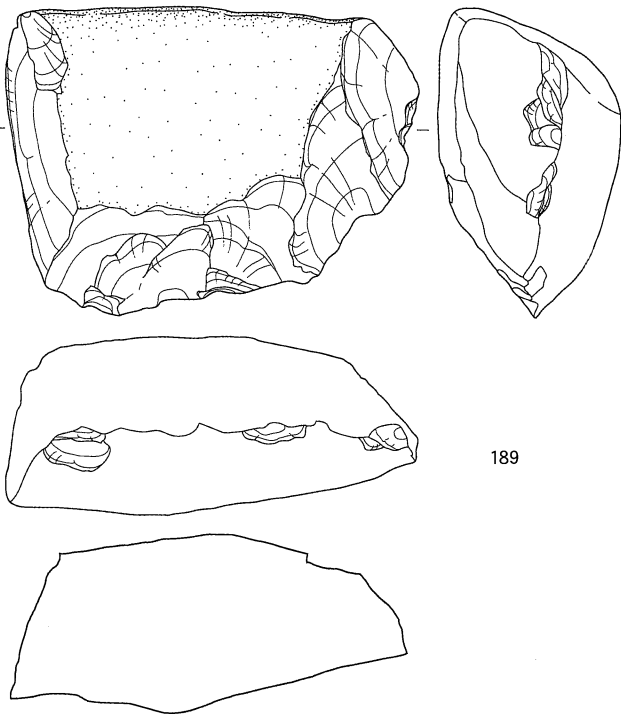
186



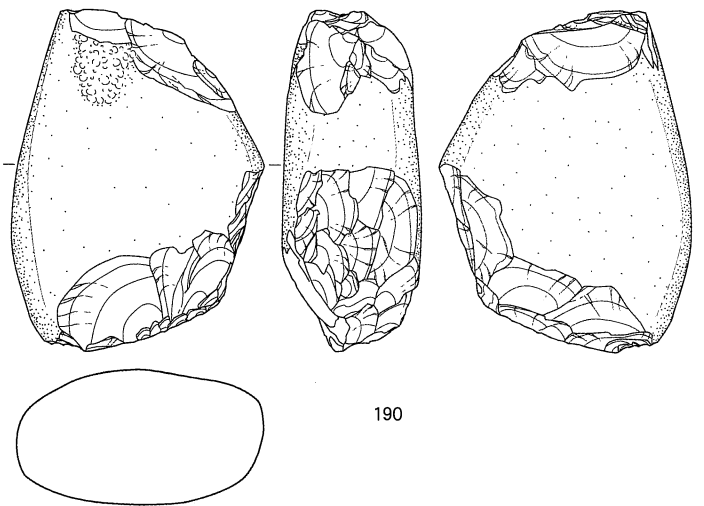
187



188



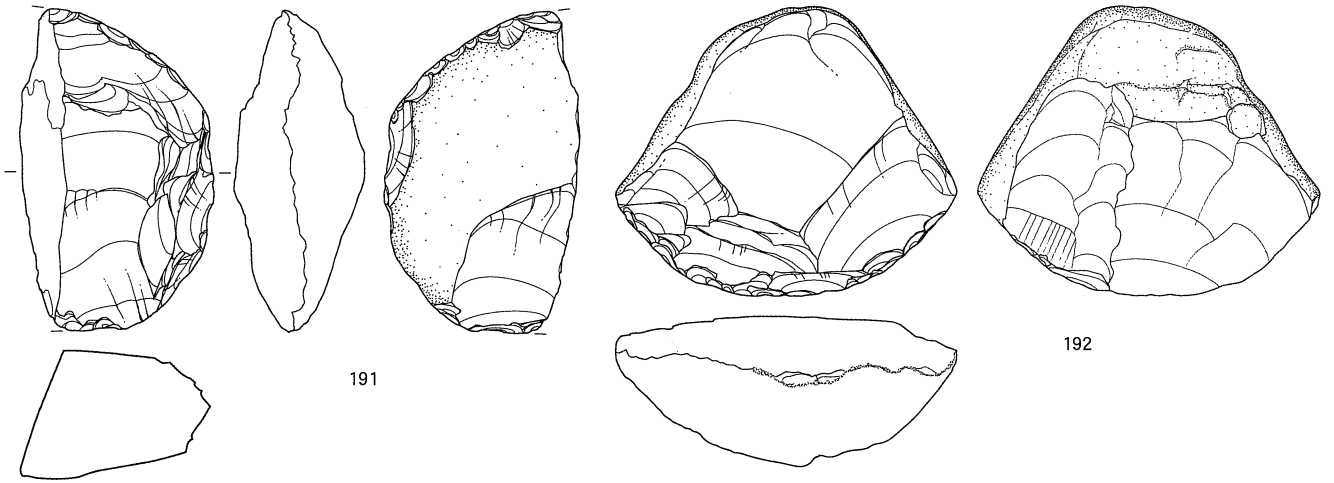
189



190

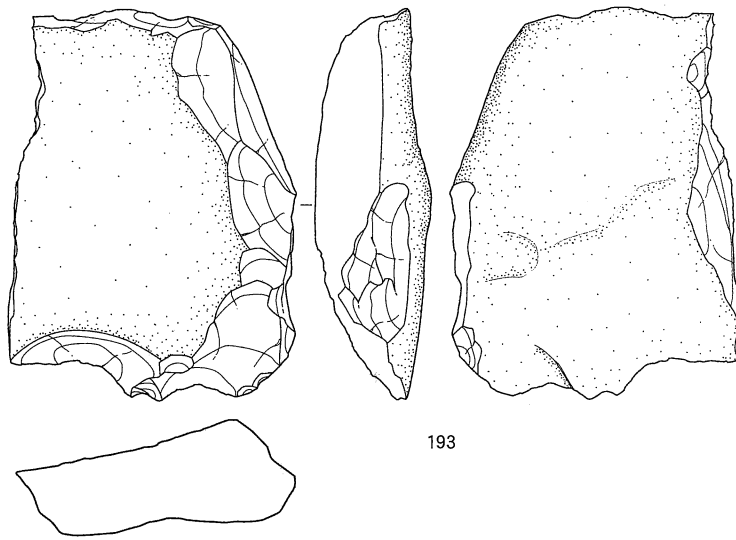
0 ————— 10cm

第36図 縄文時代早期石器実測図 (9)

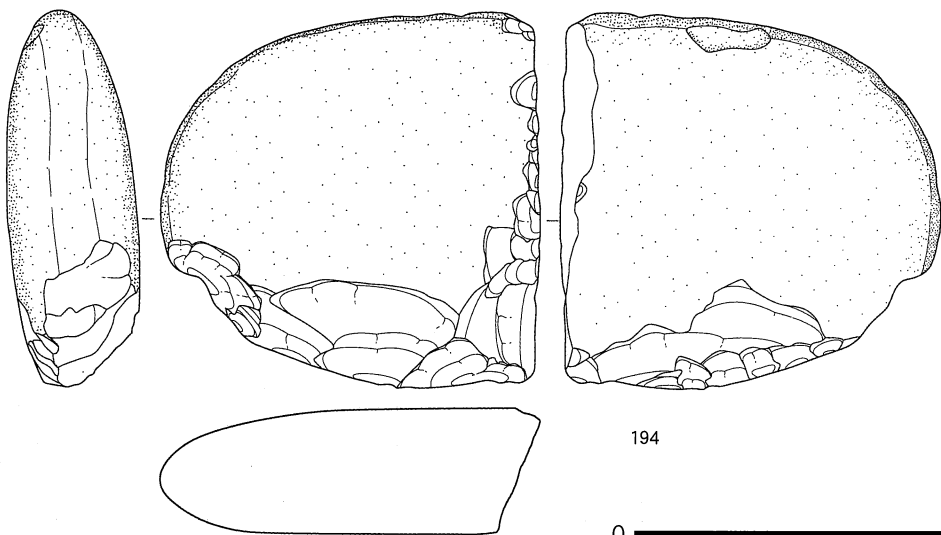


191

192



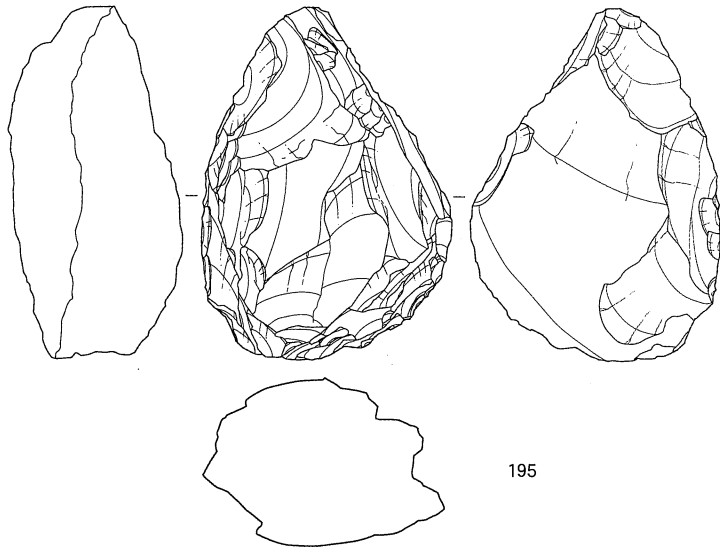
193



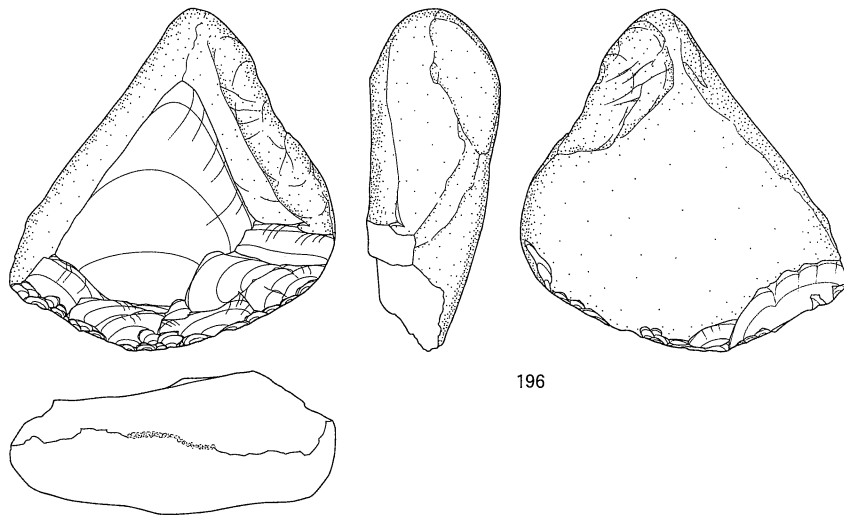
194

0 ————— 10cm

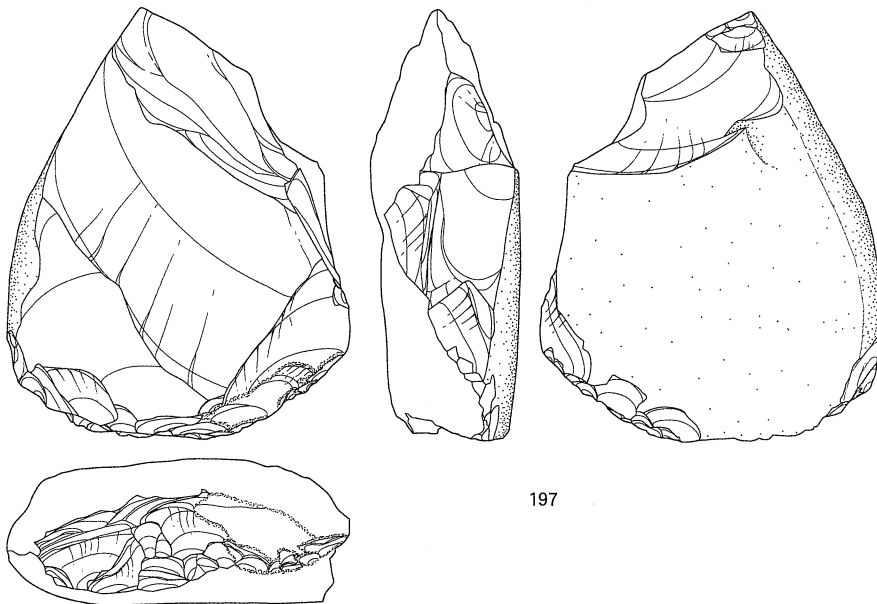
第37図 縄文時代早期石器実測図 (10)



195



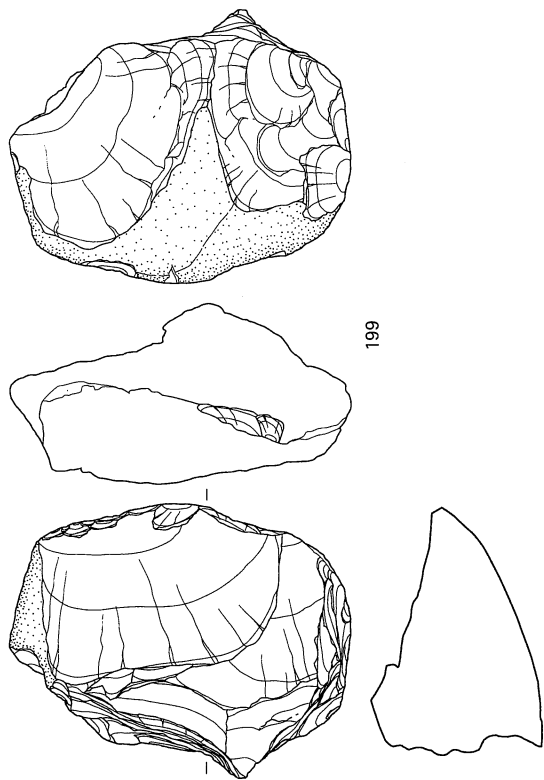
196



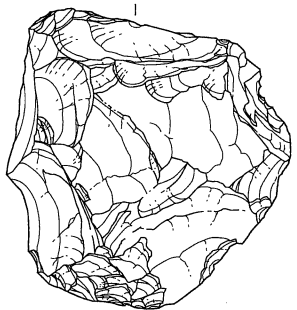
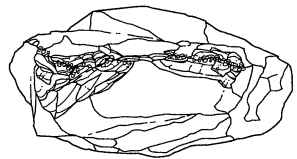
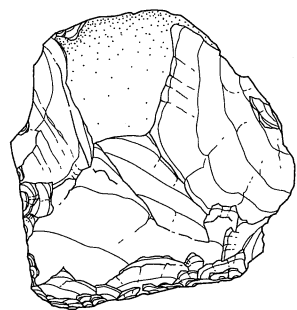
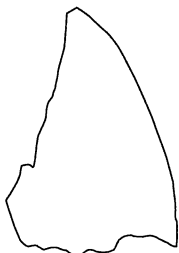
197

0 ————— 10cm

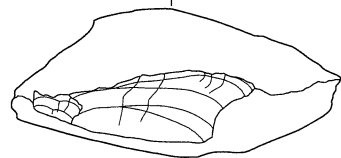
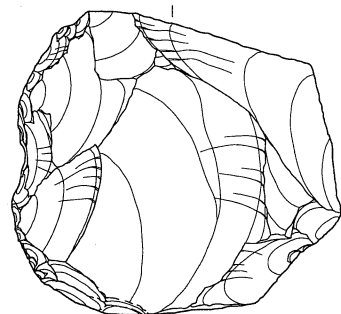
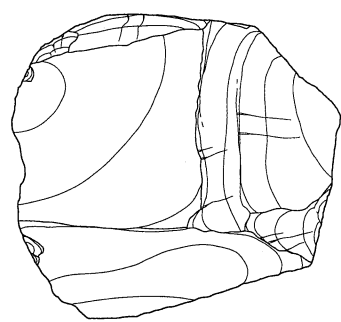
第38図 縄文時代早期石器実測図 (11)



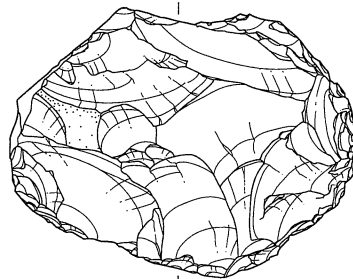
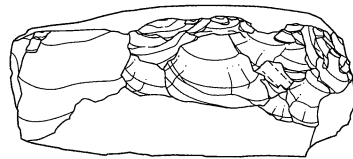
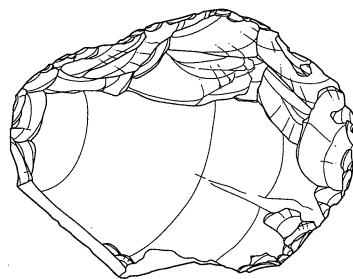
199



198



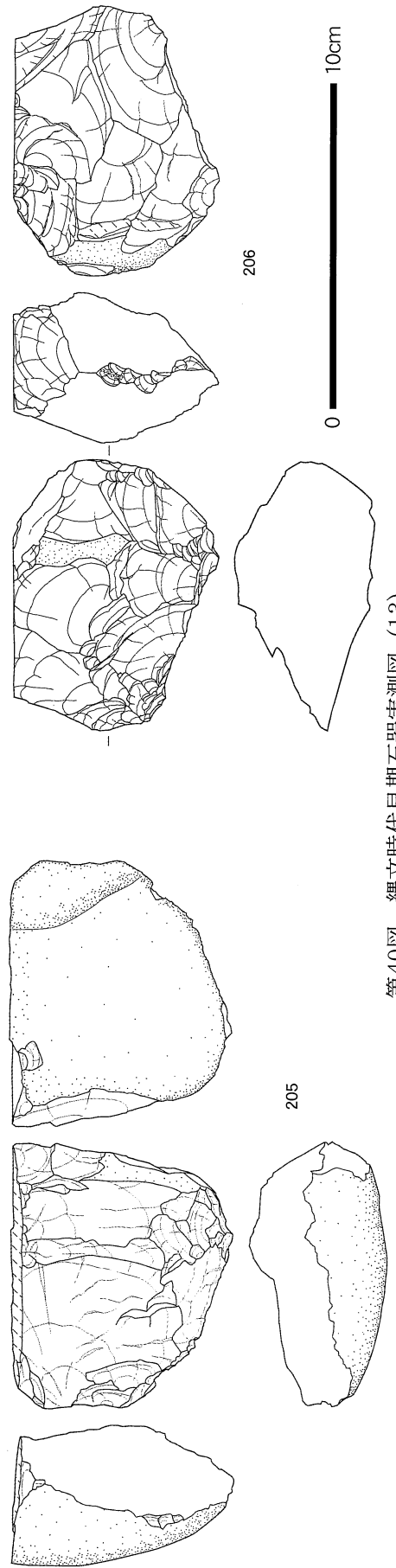
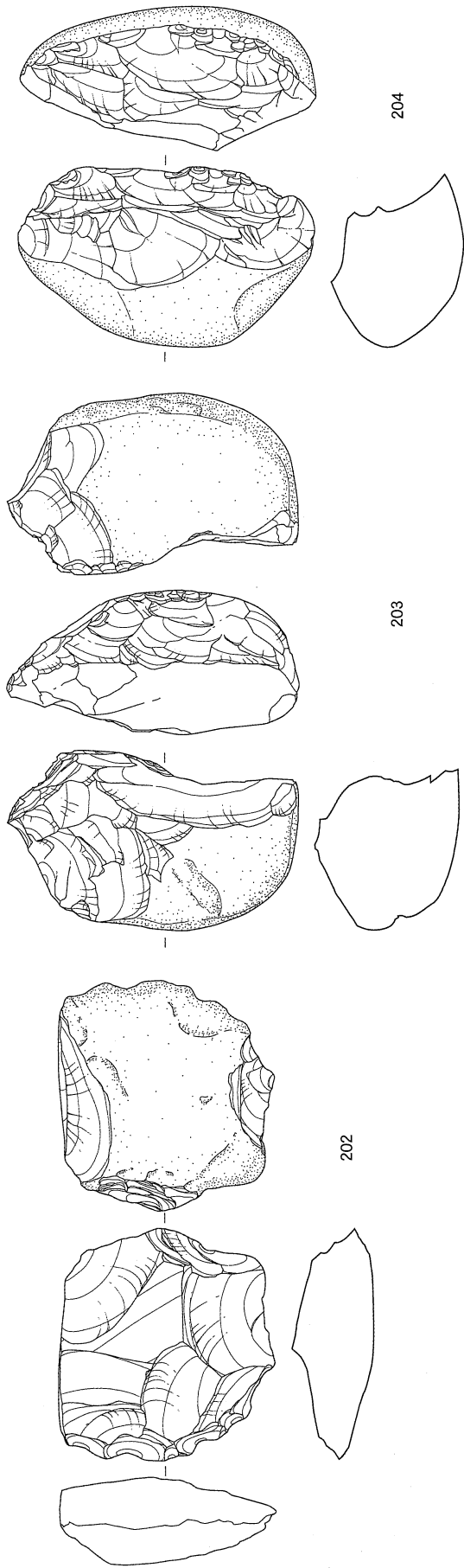
201



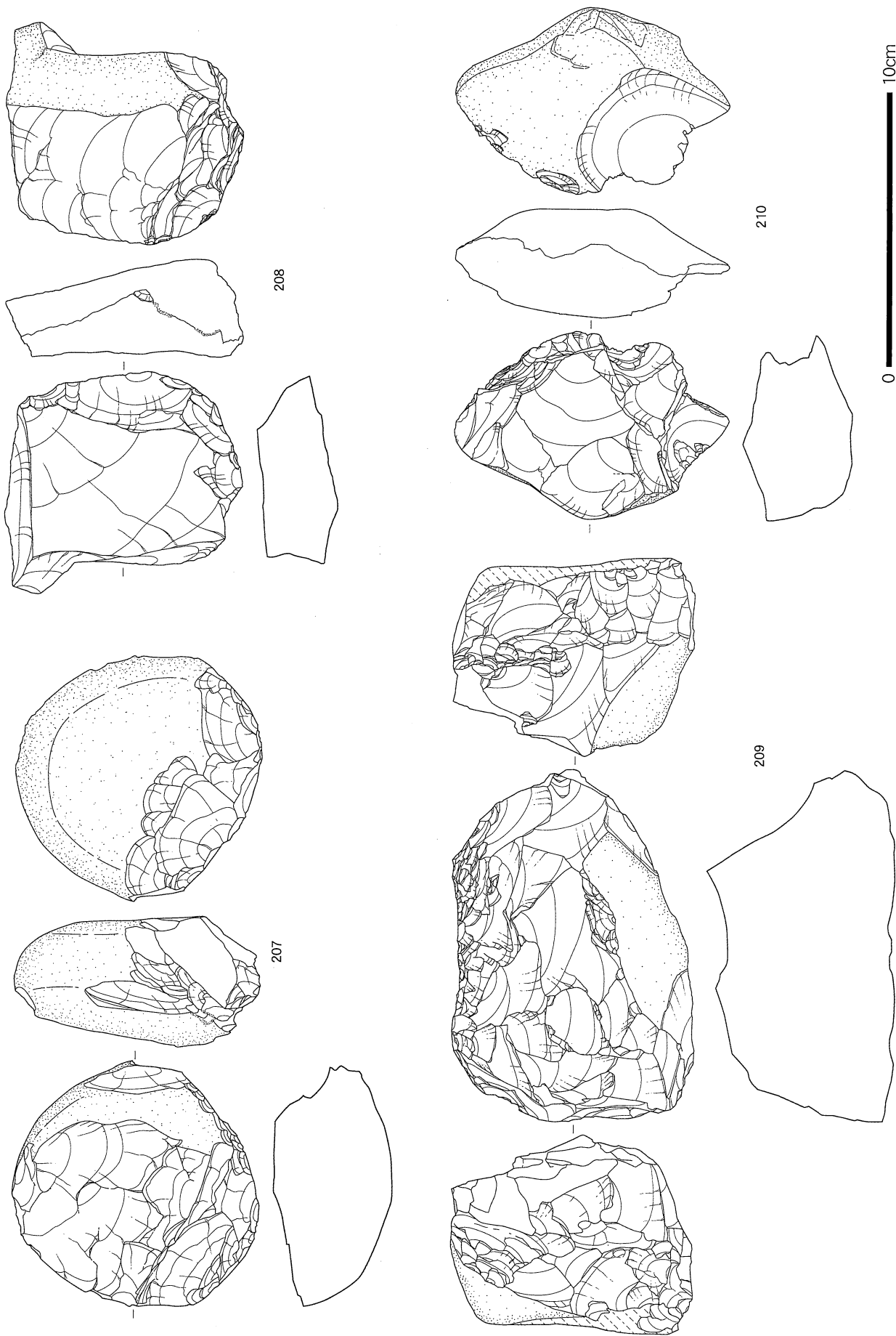
200



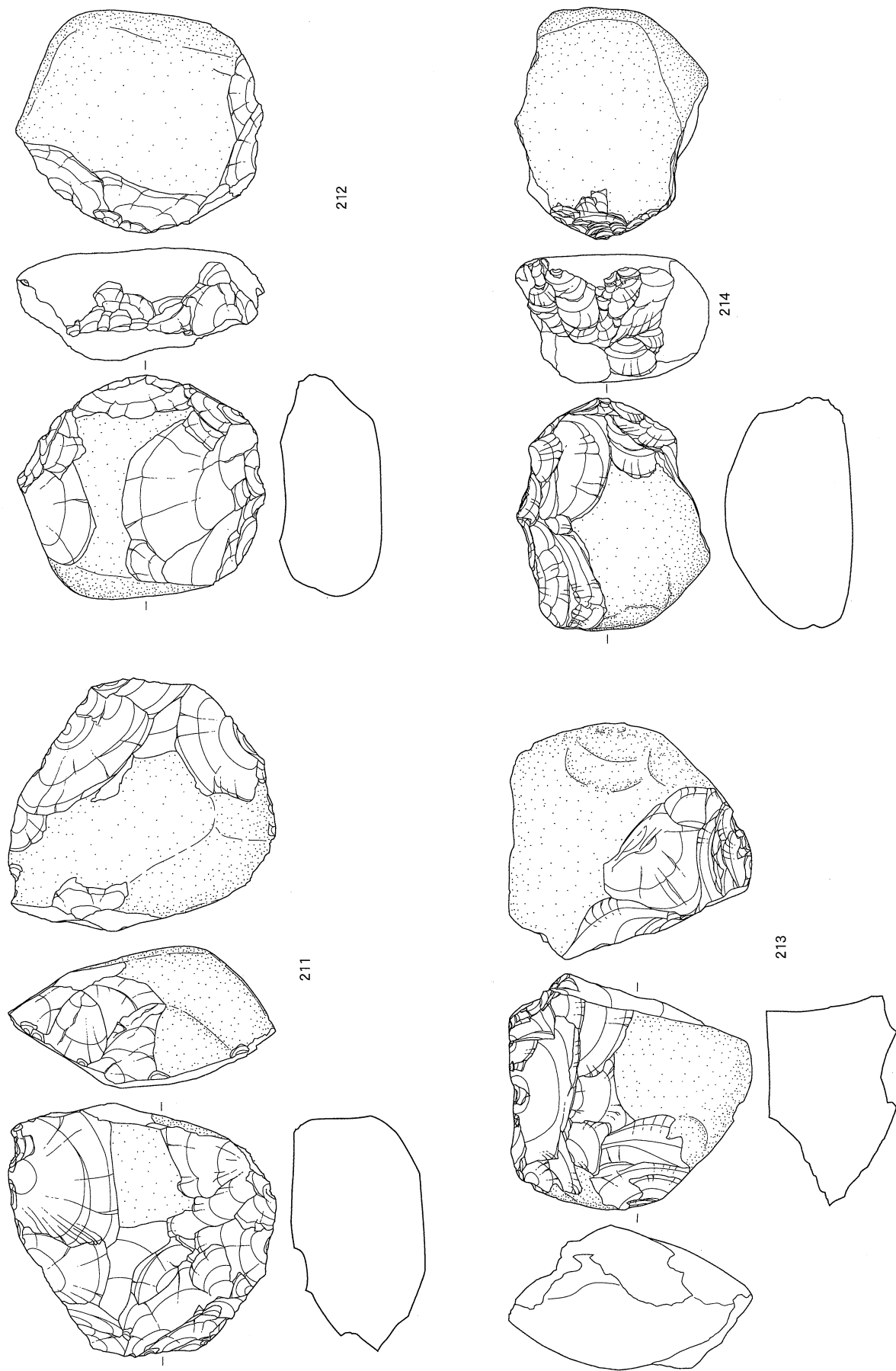
第39図 縄文時代早期石器実測図 (12)



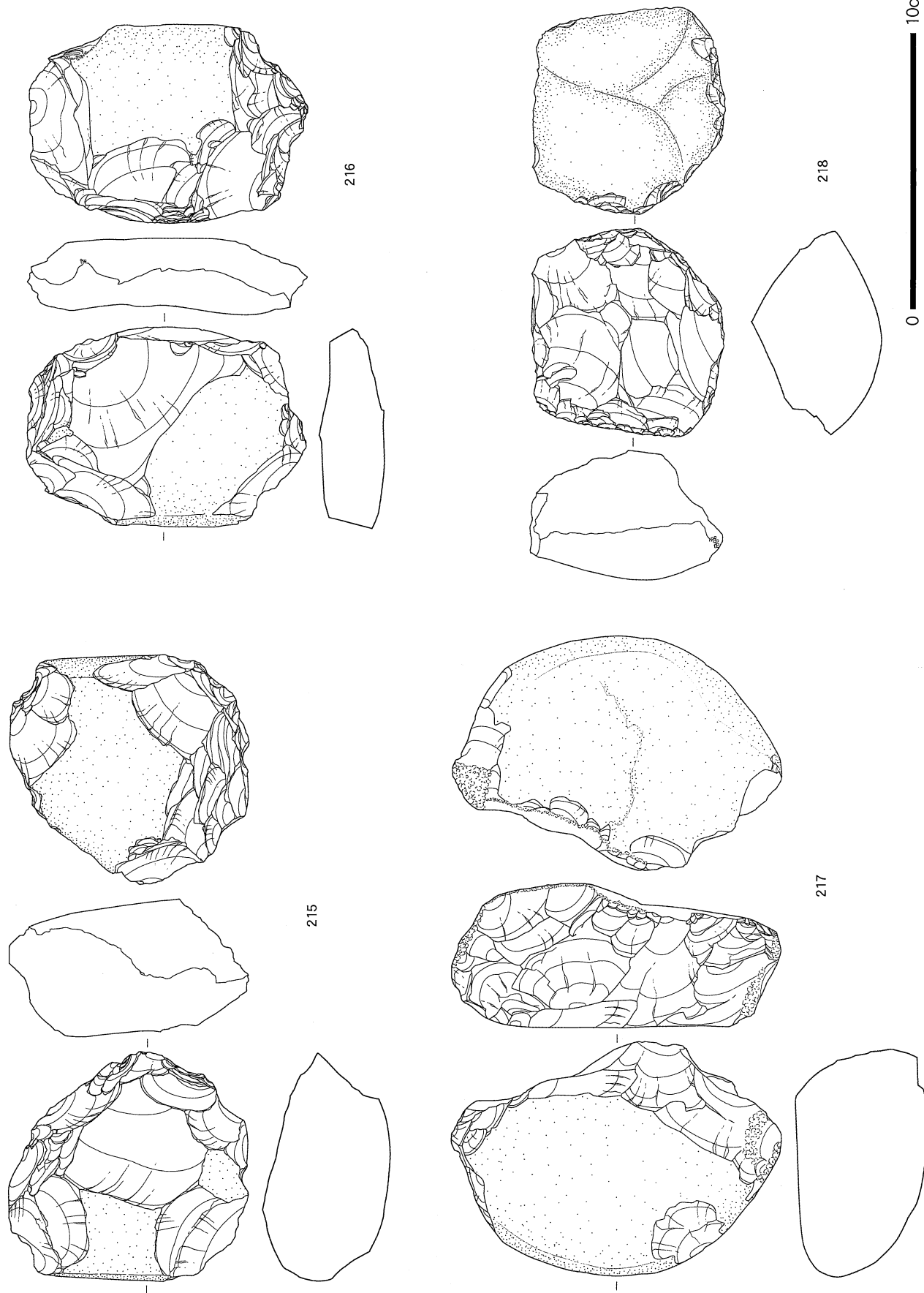
第40図 縄文時代早期石器実測図 (13)



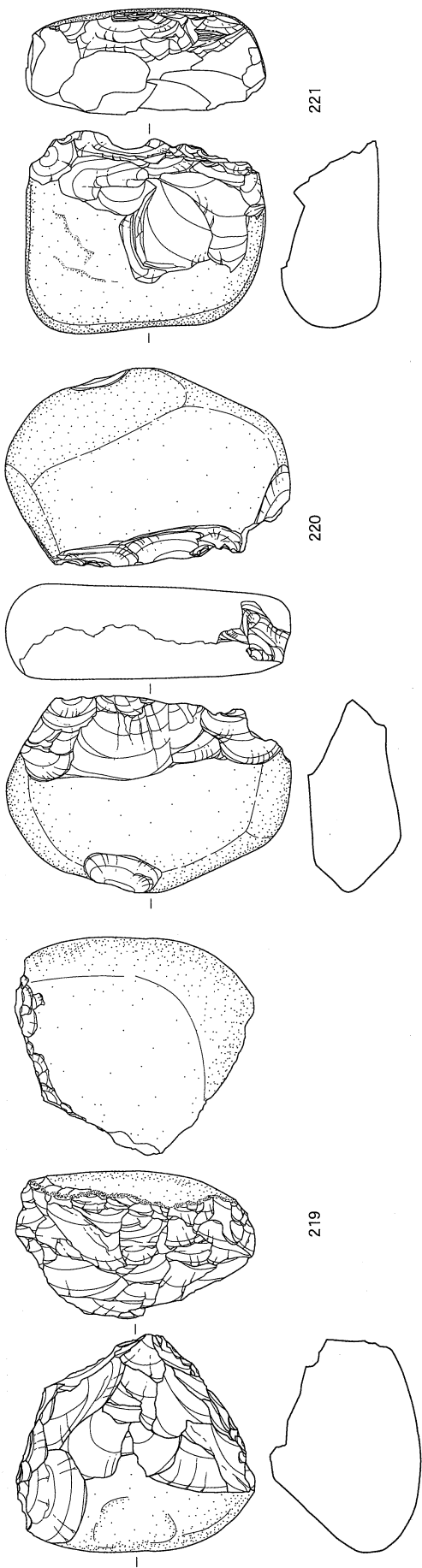
第41図 縄文時代早期石器実測図 (14)



第42図 縄文時代早期石器実測図 (15)

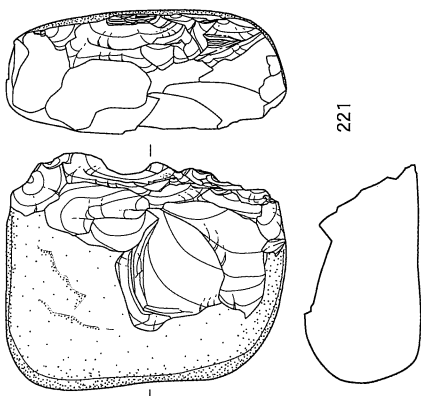


第43図 縄文時代早期石器実測図 (16)

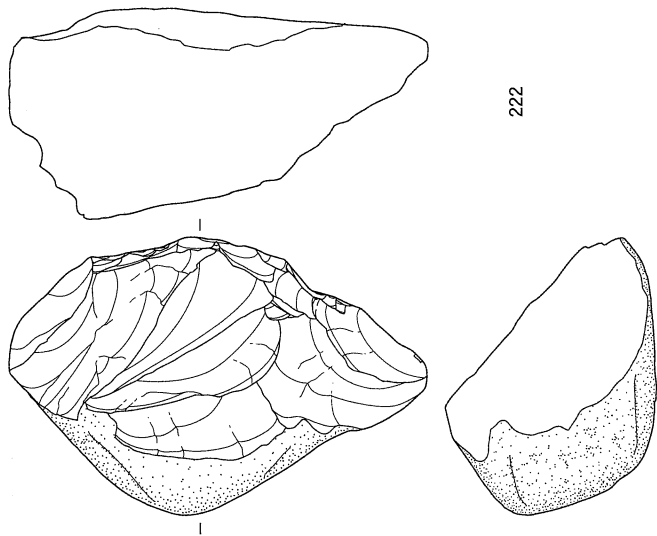


219

220

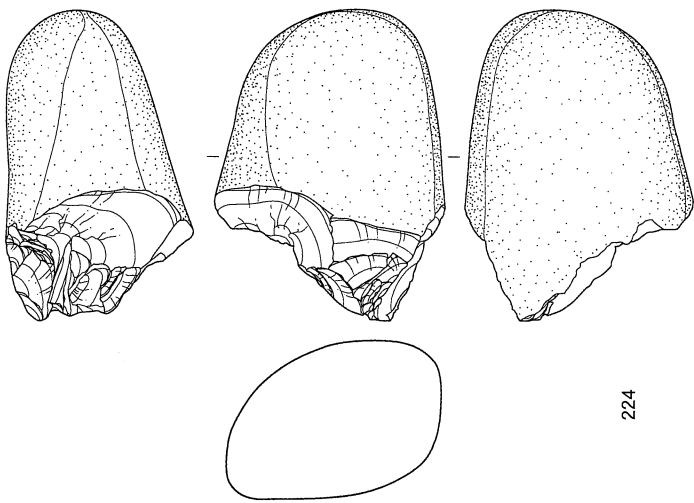


221



222

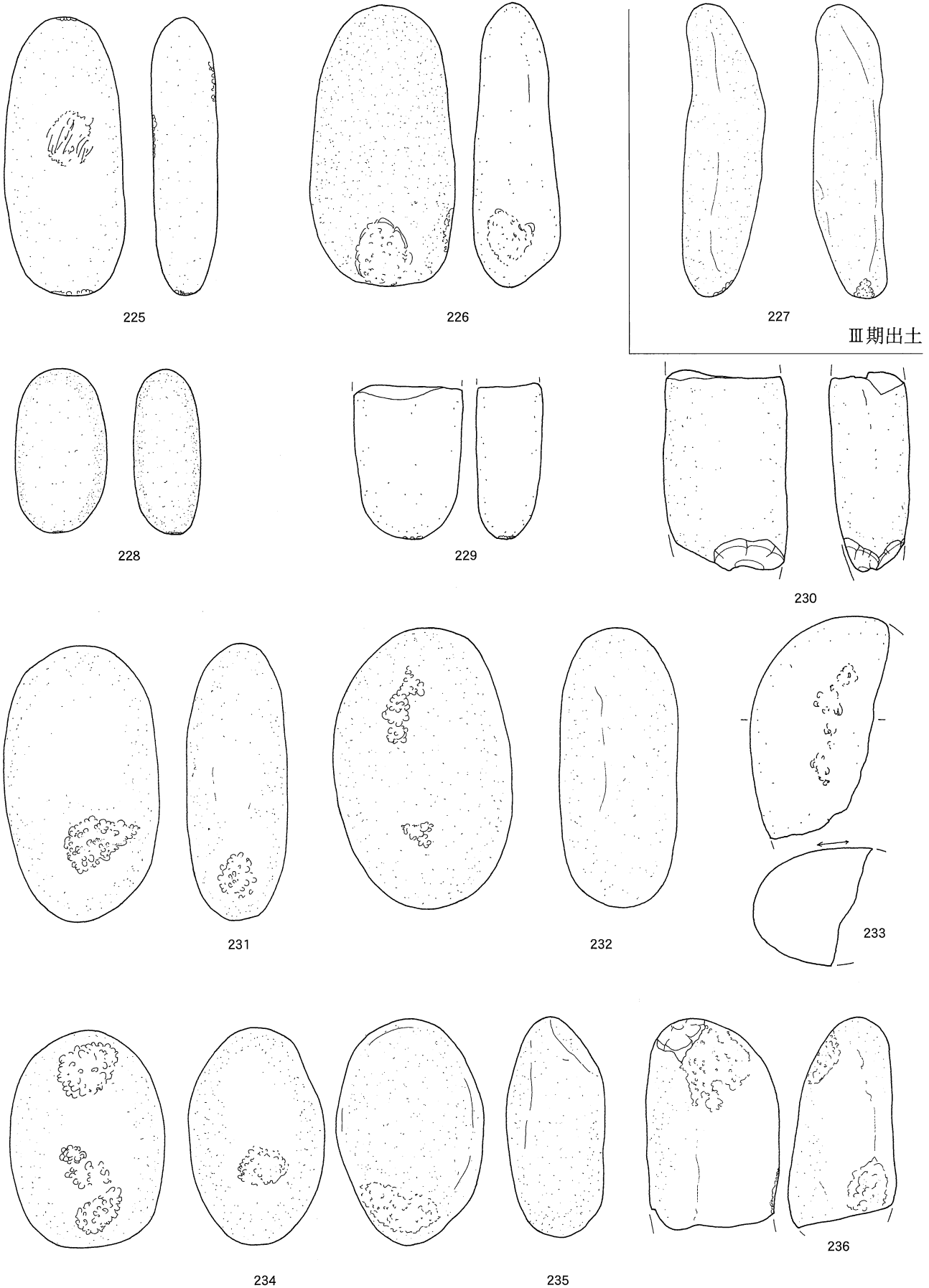
223



224

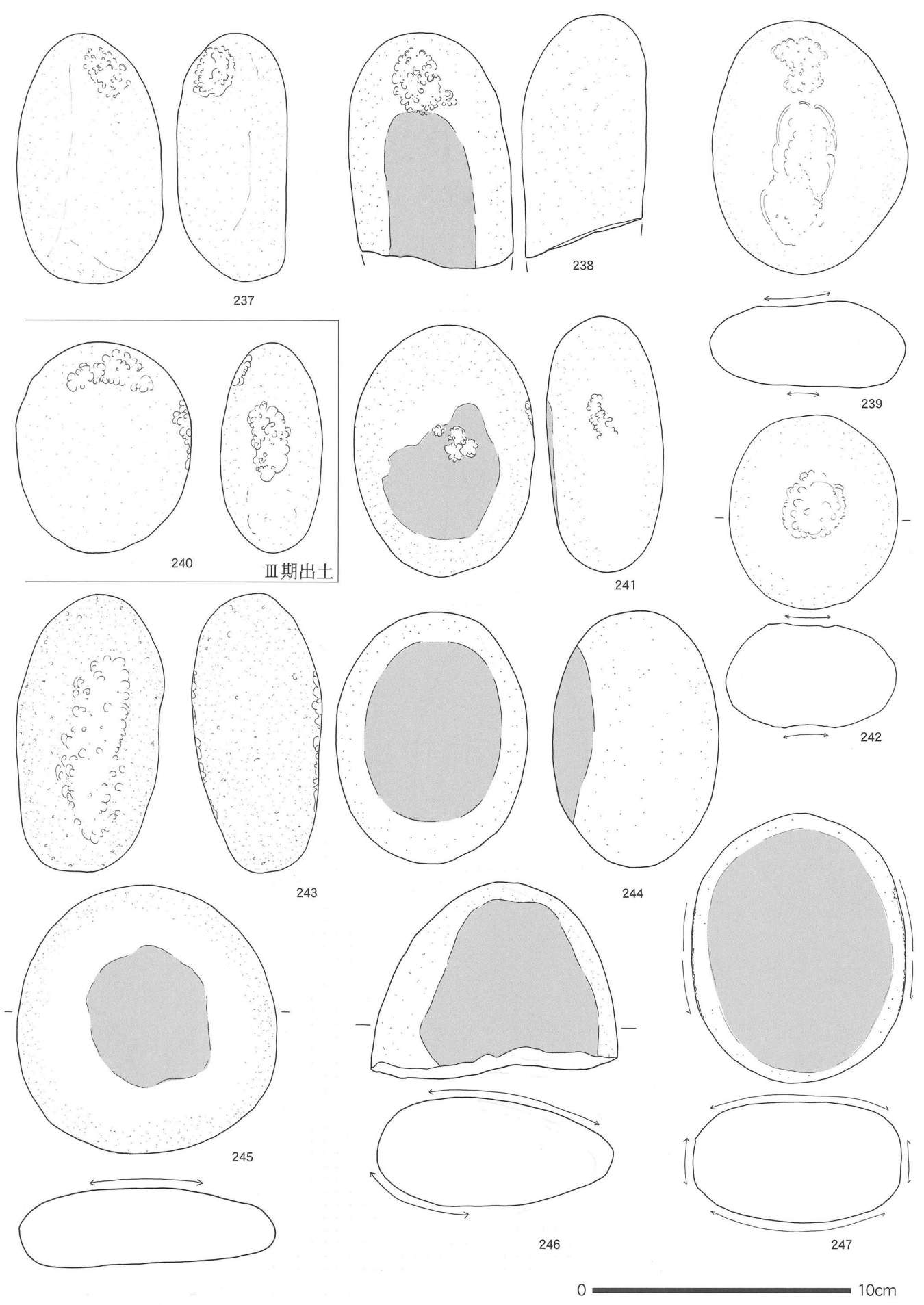
0 10cm

第44図 縄文時代早期石器実測図 (17)



0 ————— 10cm

第45図 縄文時代早期石器実測図 (18)



第46図 縄文時代早期石器実測図 (19)

第7表 縄文時代早期土器観察表(1)

番号	出土場所	文様	調整	色調		胎土の特徴	分類
				外面	内面		
28	SP6	連続刺突文、貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、内面は口唇部付近に横方向のヘラミガキ、下位は縦方向のヘラミガキ、口唇部付近に貝殻腹縁による1段の刺突文あり	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/3	1mm以下の褐色・灰白色の鉱物粒を含む	II1
29	SP3	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面は口唇部付近は横方向、その下位は縦方向、のヘラミガキ(穿孔有り)	浅黄橙 10YR8/4	にぶい黄橙 10YR7/3、浅黄 2.5YR7/4	1.5mm以下の灰白色、1mm以下の黒色、茶褐色、白色、半透明の鉱物粒を含む	II2
30	SP5	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面は横方向のヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4、灰黄褐 10YR6/2	にぶい黄橙 10YR6/4、灰黄褐 10YR6/2	2mm以下の白色透明、灰褐色、3mm以下の黒色光沢、2mm以下の白色、茶褐色、金雲母等の鉱物粒を含む	II2
31	SP1	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、内面は横方向のヘラミガキ、指頭痕	灰黄橙 10YR5/2	浅黄 2.5Y7/3	2mm以下の半透明な乳白色、1mm以下の黒色の鉱物粒を含む	II2
32	SP2	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、底部付近は横方向のヘラミガキ、内面は摩耗のため不明	にぶい黄橙 10YR7/4	灰黄 2.5Y7/2	2mm以下の光沢のある黒色、茶褐色、灰色、褐色、1mm以下の半透明、乳白色の鉱物粒を含む	II2
33	SP2	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面は横方向のミガキ	明黄褐10YR7/6 にぶい黄橙 10YR6/4	橙7.5YR6/6 にぶい黄橙 10YR6/4	5mm以下の軽石、2mm以下の灰白色の鉱物粒を含む	II2
34	SP6	貝殻条痕文	外面は横方向の貝殻条痕文、内面はミガキ又は丁寧なナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/4	1.5mm以下の光沢のある黒色、半透明、0.5mm以下の灰白色、褐色の鉱物粒を含む	II2
35	SP6	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、内面は斜方向のミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4	浅黄 2.5YR7/3	2mm以下の半透明、浅黄、黒色の鉱物粒を含む	II2
36	SP6	貝殻条痕文	外面は斜方向の丁寧なナデかミガキ、底部付近は縦方向のミガキ、底部外面はミガキ、内面は斜方向のヘラミガキ	明赤褐 2.5TR5/8 橙7.5YR7/6	明赤褐5YR5/6 にぶい黄褐 10YR5/3	5mm以下の軽石粒、茶褐色の土状粒、1mm以下の灰白色粒、白色の鉱物粒を含む	II2
37	SP5	山形押型文	外面は横方向の山形押型文、内面は横方向の山形押型文、下位は工具による横方向のナデ	にぶい赤褐 5YR4/3	にぶい赤褐 5YR4/4	2mm以下の白色岩片、1.5mm以下の白色、白色半透明あるいは光沢のある黒色の鉱物粒を含む	I
38	C7d	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、内面は横方向又は斜方向のミガキ、口唇部は風化気味(ミガキか)	浅黄橙 10YR8/4	にぶい黄橙 10YR7/4	2mm以下の灰白色、灰褐色、1mm以下の半透明、透明光沢有る鉱物粒を含む	II1
39	D7c	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、その下位は縦方向のミガキ、底面ミガキ、口唇部は横方向のヘラミガキ、縦方向のヘラミガキ	橙5YR6/6 にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄褐 10YR5/4	2mm以下の茶褐色、白色、1mm以下の黒色光沢、灰色の鉱物粒と2mm以下の茶褐色の土質状粒と軽石を含む	II2
40	D8c	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、口唇部付近は横方向のミガキ、下位は縦方向のミガキか又は丁寧なナデ	にぶい橙5YR7/6 にぶい黄橙 10YR6/3	橙7.5YR6/8 にぶい黄橙 10YR6/3	1mm以下の灰白色、褐色、透明、透明光沢の鉱物粒を多く含む	II2
41	D8c	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面はヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4 灰黄褐10YR5/2	にぶい橙 7.5YR6/4	2mm以下の半透明、1mm以下の光沢のある黒色、茶褐色、半透明等の鉱物粒を含む	II2
42	J12c	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面は横方向のミガキ	にぶい黄 2.5Y6/3	明灰黄 2.5Y5/2	1.5mm以下の灰白色、褐色、透明、透明光沢の鉱物粒を多く含む	II2
43	F10d	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面は口唇部付近はヘラミガキ、下位は縦方向のヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/3 明黄褐10YR7/4	5mm以下の軽石粒、茶褐色の土状粒、1mm以下の白色、赤褐色、黒色の鉱物粒を含む	II2
44	J13d	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面は横方向のミガキ	褐灰10YR1/5 浅黄橙10YR8/4	にぶい黄橙 10YR7/4	4mm以下の茶褐色、半透明、2mm以下の黒色、白色、透明等の鉱物粒を含む	II2
45	C7c	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面は口唇部付近は横方向のヘラミガキ、下位は縦方向のミガキ	灰黄褐 10YR6/2	橙7.5YR6/6 灰黄褐10YR6/2	5mm以下の灰褐色、1mm以下の黒色光沢、白色透明、2mm以下の金色の黒雲母片、1mm以下の黒色光沢、白色透明の鉱物粒を含む	II2
46	SP4	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面は横方向の丁寧なナデ	明褐7.5YR5/4 明赤褐5YR5/6	橙5YR6/5 にぶい黄橙 10YR6/4	4mm以下の軽石、2mm以下の茶褐色土質状粒、1mm以下の白色粒を含む	II2
47	I15a	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面はヘラミガキ	灰白2.5Y8/2	浅黄橙10YR8/4	1mm以下の黒色、灰白色、茶褐色の鉱物粒を含む	II2
48	D7c	貝殻条痕文	外面は横又は斜方向の貝殻条痕文、口唇部はヘラミガキ、内面は横方向のヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR6/4 にぶい黄2.5YR6/3	にぶい黄褐 10YR5/4	3mm以下の褐色、1mm以下の黒色、半透明等の鉱物粒と2mm以下の軽石粒を含む	II2
49	C7c	貝殻条痕文	外面は斜め方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面は口唇部付近が横方向の丁寧なナデ、胴部付近は縦方向のヘラミガキ	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5R6/3	3.5mmの黒色粒、1mm以下の黄褐色、白色粒を含む	II2
50	SP4	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面は横方向のヘラミガキ	橙7.5YR6/4	にぶい黄褐 10YR5/3	2mm以下の黒色、1mm以下の灰白色、赤褐色、半透明の鉱物粒と1.5mm以下の軽石粒を含む	II2
51	I15a	貝殻条痕文	外面は横方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面はミガキか又は丁寧なナデ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	1mm以下の褐色、灰白色、半透明光沢ある鉱物粒を含む	II2
52	D7c	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面は縦方向のミガキ、穿孔有り、指頭痕有り	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	1.5mm以下の半透明、1mm以下の黒色、茶褐色、灰白色の鉱物粒を含む	II2

第8表 縄文時代早期土器観察表 (2)

番号	出土場所	文様	調整	色調		胎土の特徴	分類
				外面	内面		
53	J13d	貝殻条痕文	外面はやや斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面は横方向のミガキか又は丁寧なナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/3	2mm以下の茶褐色、1mm以下の黒色、半透明、灰白色等の鉱物粒を含む	II2
54	C7c	貝殻条痕文	外面は斜方向は貝殻条痕文後部分的にナデ、内面はミガキ	にぶい黄褐 10YR5/4	にぶい黄褐 10YR5/3	1mm以下の褐色、灰白色、半透明の鉱物粒を含む	II2
55	SP4	貝殻条痕文	外面は横方向の貝殻条痕文、内面は丁寧なナデか(摩擦のため判断不可)	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	2mm以下の軽石粒と黒褐色、1mm以下の灰白色、半透明の鉱物粒を含む	II2
56	I15a	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面は横方向のミガキ	浅黄2.5YR7/3	灰黄2.5YR7/2	1mm以下の褐色、茶褐色、灰白色の鉱物粒を含む	II2
57	F11c	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面は口唇部付近が横方向のヘラミガキ、その下位は縦方向のヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3 灰黄橙10YR4/2	1mm以下の茶褐色・光沢ある黒色の鉱物粒と2mm以下の褐色土質状粒と軽石粒を多量に含む	II2
58	J10b	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面はミガキあるいは丁寧なナデ	灰黄褐10YR6/2	にぶい黄橙 10YR6/2 灰黄褐10YR6/2	2mm以下の半透明、1.5mm以下の褐色の鉱物粒を含む	II2
59	F11c	貝殻条痕文、連続刺突文	外面は縦列の押引状貝殻腹縁刺突、下位は一列の貝殻腹縁刺突、貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面は横方向のヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい黄2.5YR6/4	2mm以下の透明光沢、半透明光沢、1mm以下の灰白色、褐色の鉱物粒を含む	II1
60	I14a	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面は横方向のヘラミガキ、下位はヘラミガキか丁寧なナデ	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	1mm以下の灰白色、半透明、透明光沢、白色光沢粒を含む	II2
61	SP5	貝殻条痕文、連続刺突文	外面はナデ、口唇部はミガキ、内面はミガキ、口縁部に貝殻腹縁による縦1段の連続刺突文	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR7/4	3mm以下のにぶい黄色粒2点、1mm以下の軽石粒を含む	II1
62	SP2	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、内面ミガキ	浅黄2.5Y7/3	浅黄2.5Y7/4	1mm以下の黒色、赤褐色、少量に黒色光沢の鉱物粒を含む	II2
63	B1-37	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻腹縁刺突、口唇部は摩擦のため不明、内面は縦方向のミガキか(光沢あり)	橙5YR6/6	にぶい黄褐 10YR4/3	2mm以下の軽石粒、茶褐色の岩片、1mm以下の白色鉱物粒を含む	II2
64	F10d	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部はミガキ、内面はミガキもしくは丁寧なナデ	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4	1.5mm以下の褐色、白色の鉱物粒を僅かに含む	II2
65	F10a	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は丁寧なミガキか?、横方向のヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4 灰黄褐10YR4/2	明赤褐色 5YR5/6	2mm以下の灰白色、1mm以下の黒褐色粒を含む	II2
66	B5-47	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面は横方向のヘラミガキか又は丁寧なナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	浅黄2.5Y7/3	2mm以下の褐色、灰白色、1.5mm以下の透明光沢色の鉱物粒を含む	II2
67	D7c	貝殻条痕文	外面は横方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面は横方向のミガキ、又は丁寧なナデ	浅黄2.5Y7/4	浅黄2.5Y6/2	2mm以下の透明光沢、1.5mm以下の灰白色、黒褐色、茶褐色の鉱物粒を多く含む	II2
68	D7d	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面は横方向のミガキ	灰黄褐10YR5/2	浅黄2.5YR7/3	1mm以下の灰白色、茶褐色、半透明の鉱物粒を含む	II2
69	G13c	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面は丁寧なナデか	にぶい黄橙 10YR7/4	浅黄橙10YR8/4	1.5mm以下の灰白色、褐色、黒色、1mm以下の透明光沢、半透明の鉱物粒を含む	II2
70	F10d	無紋か	外面は斜方向の丁寧なナデ、口唇部はナデか、内面は横方向の丁寧なナデ	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	2mm以下の軽石粒、茶褐色の土質状粒、1mm以下の灰白色の鉱物粒を含む	II2
71	J13d	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、内面は横方向のヘラミガキ	橙5YR6/6	橙5YR6/6 明黄褐10YR6/6	1.5mm以下の灰白色、乳白色あるいは光沢ある黒色の鉱物粒を含む	II2
72	C7c	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻腹縁文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面はミガキ	浅黄2.5Y7/3	浅黄2.5Y7/3 暗灰黄2.5YR4/2	1mm以下の褐色、灰白色、黒色、半透明光沢の鉱物粒を含む	II2
73	D8b	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、所々に指頭痕有り、口唇部付近は横方向のヘラミガキ、その下は縦方向のヘラミガキ	にぶい赤褐 5YR4/3	にぶい赤褐 2.5YR4/4	4mm以下の赤褐色の岩片、3mm以下の赤褐色、黒褐色、灰白色、1mm以下の光沢ある透明、半透明の鉱物粒を含む	II2
74	J10b	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部付近は横方向のヘラミガキ、その下位は横及び斜め方向のミガキ	にぶい黄橙 10YR6/4 橙7.5YR6/6	にぶい橙 10YR6/4	2mm以下の赤褐色岩片、1mm以下の乳白色、灰白色の鉱物粒を含む	II2
75	D8b	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のミガキ、内面はミガキか又は丁寧なナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	橙7.5YR7/6	3mm以下の軽石、褐色土質粒子を含む	II2
76	I14a	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面は横方向のミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10Y7/4 橙7.5YR7/6	1.5mm以下の褐色、灰白色、半透明の鉱物粒を含む	II2
77	C7d	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のミガキ、内面は横又は斜方向のミガキ	にぶい黄褐 10YR5/4	にぶい黄橙 10YR6/4	1mm以下の褐色、乳白色の鉱物粒を含む	II2
78	SP2	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部は横方向のヘラミガキ、内面は横方向のミガキもしくは丁寧なナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	橙7.5YR7/6	3mmほどの赤褐色岩片の1mm以下の灰白色、白色半透明の鉱物粒を含む	II2
79	B1-37	貝殻条痕文	外面は横方向の貝殻条痕文、内面は横方向のミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4	淡黄 2.5YR8/3	1mm以下の黒色光沢、白褐色、灰褐色の鉱物粒を含む	II2
80	F11c	貝殻条痕文	外面は口唇部付近は横方向、下位は斜方向の貝殻条痕文、内面は口唇部付近横方向、その下位は斜方向のヘラミガキ	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	2mm以下の軽石粒、茶褐色の土状粒、1mm以下の半透明、光沢ある黒色の鉱物粒を含む	II2

第9表 縄文時代早期土器観察表 (3)

番号	出土場所	文様	調整	色調		胎土の特徴	分類
				外面	内面		
81	J10b	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、口唇部と内面は横方向のヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR6/4 7.5YR6/6	にぶい黄橙 10YR7/4	3mm以下の茶褐色、2mm以下の乳白色、黒色の鉱物粒を多量に含む	II 2
82	D8b	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、その下位は縦方向のヘラミガキ、底外面はミガキ、内面は縦方向のミガキ	灰黄2.5Y6/2	にぶい黄橙 10YR7/3、灰黄褐 10YR5/2	2mm以下の茶褐色、灰色の鉱物粒と3mm以下の茶褐色の土質状粒を含む	II 2
83	I14a	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、内面は縦方向のヘラミガキ、下位はナデ	にぶい黄 2.5Y6/4、橙 5YR7/8	橙2.5YR7/6 灰黄褐10YR5/7	1.5mm以下の灰白色、褐色の鉱物粒を含む	II 2
84	C7d	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、内面は縦方向のヘラミガキ	橙2.5YR6/6・明赤 褐2.5YR5/6	にぶい赤褐 2.5YR4/4	2mm以下の茶褐色、1mm以下の半透明、光沢ある黒色乳白色の鉱物粒を含む	II 2
85	SP2	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、内面は横方向のヘラミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4	橙7.5YR7/6	2mm以下の半透明な乳白色、1mm以下の白色の鉱物粒を含む	II 2
86	F11c	貝殻条痕文	外面は斜方向の貝殻条痕文、内面は横方向のミガキか丁寧なナデ	浅黄橙2.5YR7/3	にぶい橙 10YR7/4、浅黄橙 2.5YR7/3	4mm以下の茶褐色、1mm以下の半透明、黒色、透明の鉱物粒を含む	II 2
87	J10b	無文	外面は丁寧なナデ、下位は縦方向のミガキ、指頭痕、内面は斜方向のミガキもしくは丁寧なナデ(光沢あり)	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/3	2.5mm以下の褐色、1mm以下の灰白色、雲母片等の鉱物粒を多く含む	II 2
88	D8b	無文	外面は斜方向のナデ、口唇部はヘラミガキ、内面はミ横方向のガキか丁寧なナデ(光沢あり)	灰黄褐10YR4/2	灰黄褐10YR6/2	1mm以下の明黄色、灰白色、半透明等の鉱物粒を多量に含む	II 2
89	I14a	無文	外面は丁寧なナデ、口唇部は丁寧なナデか、内面はミガキか丁寧なナデ(光沢あり)	橙7.5YR7/6にぶ い黄橙10YR7/4	にぶい橙 7.5YR5/3、にぶい 黄橙7.5YR6/4	3mm以下の乳白色、2mm以下の茶色の鉱物粒を含む	II 2
90	C7d	無文	外面は縦方向のミガキ、内面は縦方向のミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4	灰黄10YR5/2	2mm以下の灰白色、1mm以下の黒色、茶褐色、半透明の鉱物粒を含む	II 2
91	SP2	無文	外面はミガキ、内面ミガキ(風化している)	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	1.5mm以下の灰白色、褐色、1mm以下の透明、光沢ある黒色の鉱物粒を含む	II 2
92	B1-37	無文か	外面は縦方向のヘラミガキ、底外面はミガキ、内面は丁寧なナデか	浅黄2.5YR7/4	灰黄2.5YR6/2 浅黄2.5YR7/4	2mm以下の茶褐色の土質状粒、1mm以下の半透明、黒色、白色の鉱物粒を含む	—
93	F10d	無文か	外面は縦方向のミガキ、底外面はミガキ、内面は丁寧なナデか	にぶい黄橙 10YR7/4、にぶ い黄橙10YR6/3	灰黄2.5Y6/2	4mm大の赤褐色、灰白色、2mm以下の黒色光沢粒、1.5mm以下の灰白色、黒色、1mm以下の半透明光沢粒を含む	—
94	F10a	無文か	外面は丁寧なナデか、底外面はミガキ、内面は縦方向のミガキ	にぶい黄橙 10YR7/4	灰黄2.5YR6/2	2mm以下の軽石粒、1.5mm以下の褐色、灰白色粒を含む	—
95	B5-47	無文か	外面は横方向の丁寧なナデ、底面は丁寧なナデか?(摩滅のため不明)、内面なナデ	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄褐 10YR5/3	2mm以下の茶褐色、1mm以下の半透明、灰色、黒色の光沢ある鉱物粒を含む	—
96	D7c	無文か	外面は縦方向のミガキ、底外面は摩滅のため不明、内面は摩滅のため不明	浅黄2.5YR7/4	灰黄2.5Y6/2	1mm以下の光沢ある黒色、半透明、透明、茶褐色等の鉱物粒を含む	—
97	D7d	無文か	外面は丁寧なナデかミガキ、底外面はミガキ、内面は縦方向のミガキ	浅黄橙10YR8/4 10YR8/4にぶい黄橙 10YR7/2	浅黄橙10YR8/4 灰黄褐10YR5/2	2mm以下の光沢ある黒色、半透明、透明、茶褐色の鉱物粒を含む	—

第10表 石器観察表 (1)

図No.	Gr	層	石材	器種	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	備考	X座標	Y座標	標高
1	H16d	X	GR	局部磨製石斧	11.2	6.9	3.7	321.5	半載した楕円細長礫使用。刃部欠損。裏面は使用により稜が溶ける。	-89801.240	46450.247	91.183
2	H14c	VI	SH	ナイフ形石器	3.9	1.0	0.8	3.7	横長剥片使用。両側から剥離。	-89824.940	46466.931	91.602
3	J16a	VI	CH	ナイフ形石器	4.0	1.5	1.1	4.7	横長剥片使用。瀬戸内技法か。	-89844.642	46483.065	90.645
4	H13d	IV	HF	ナイフ形石器	3.8	1.9	1.1	5.0	横長剥片使用。	-89815.115	46466.531	92.002
5	J11d	V	CH	角錐状石器	2.7	1.0	0.6	1.5	横長剥片使用。2面に加工有り。	-89797.276	46455.095	92.218
6	D8c	VI	HF	角錐状石器	2.7	1.6	1.0	3.9	裏面に礫面を残す。礫面側より加工。風化が激しい。	-89761.442	46426.024	92.977
7	F11c	VII	HF	剥片	2.1	3.7	0.8	3.9	裏面に作業面調整あり。	-89794.591	46448.873	91.646
8	F10d	V	SH	剥片	3.8	1.6	0.7	3.8	端部に礫面を残す。縦長剥片。			
9	J11d	VI	SH	剥片	4.0	1.7	1.5	7.0	下部に礫面を残す。縦長剥片。			
10	H14d	VI	SH	剥片	3.4	2.6	1.1	5.8	一部礫面を残す。作業面調整あり。	-89829.480	46477.136	91.308
11	G13d	IV下	SH	剥片	4.8	2.6	10.5	9.5	縦長剥片。作業面を残す。			
12	SC13	—	HF	剥片	5.7	4.2	2.0	23.9	縦長剥片。自然面より剥離。			
13	D9d	IV・V	SH	縦長剥片	6.9	2.5	2.4	14.7	縦長剥片。自然面より剥離。			
14	SP2	VI	HF	縦長剥片	6.9	2.9	1.8	22.9	縦長剥片。自然面より剥離。	-89757.389	46426.385	93.342
15	J11d	VI	HF	剥片	5.5	5.5	1.8	52.6	幅広剥片。一部自然面を残す。			
16	D7c	VI	HF	剥片	1.4	3.4	0.8	3.7	礫面を残す。幅広剥片。			
17	D7c	VI	HF	剥片	3.3	5.2	1.2	19.1	礫面を残す。幅広剥片。	-89752.948	46428.316	93.464
18	D7c	VI	HF	剥片	4.4	4.3	1.9	43.5	礫面を残す。ランダムに剥片剥離。	-89753.658	46428.509	93.304
19	J15b	VI	CH	石核	2.4	3.4	3.0	23.6	礫面を残す。打面と作業面を入れ替えてつ、不定形剥片剥離。	-89837.172	46484.269	90.889
20	D7c	VI	HF	接合資料	5.1	6.1	2.7	66.3	16+17+18の接合資料。			
21	H14d	VI	CH	石核	3.3	3.5	3.7	40.1	礫面を残す。打面と作業面を入れ替えてつ、不定形剥片剥離。	-89828.522	46476.417	91.382
22	C6c	—	HF	細石刃	1.0	0.9	0.2	0.2	完形品。頭部調整有り。			
23	D6b	VI	HF	細石刃	1.4	0.9	0.3	0.3	尾部欠損。頭部調整有り。			
24	C6a	IV	HF	細石刃	2.2	0.9	0.2	0.5	尾部欠損。頭部調整有り。	-89744.932	46414.903	93.893
25	E9a	—	HF	細石刃	1.5	0.7	0.2	0.1	頭部欠損。			
26	C6d	—	HF	細石刃	1.8	0.8	0.2	0.3	頭部・尾部欠損。			
26	3753	—	HF	細石刃	2.8	5.9	2.1	0.6	頭部・尾部欠損。			
98	SP5	—	OS	敲石	9.7	7.4	6.5	652.1	円礫。正面上に敲打痕。			
99	SP5	—	OS	敲石	9.3	6.7	3.7	324.0	円礫。正面・右側面・左側面に敲打痕。			
100	SP5	7	OS	敲石	9.4	5.8	4.4	327.2	円礫。端部に敲打痕。			
101	SP5	1	SA	台石	10.7	17.5	3.2	1300.3	断面方形の板石・両面に磨面。			
102	SP5	2	OS	磨石	12.0	9.4	5.2	834.2	円礫。正面・裏面に磨面。			
103	SP5	9	OS	台石	29.4	40.3	8.0	3600.0	扁平な円礫・上面に磨面。一部欠損。			
104	SP2	11	OS	台石	19.1	33.8	7.7	7600.0	板状の礫。上面に磨面。			
105	SP2	2	OS	台石	21.9	30.3	17.9	3200.0	大型礫。広い範囲に敲打痕。			
106	SP2	5	OS	台石	22.4	33.0	11.0	4600.0	大型礫。上面に磨面。			
107	SI27	—	OS	磨石/敲石	12.4	6.8	3.9	375.5	楕円礫。下部・側面欠損。側面に敲打痕。			
108	2211	V	SA	砥石	16.1	7.6	2.9	400.4	楕円礫・下部欠損。上下面に敲打痕。	-89807.005	46462.641	92.157
109	J12b	IV	燧石	石鏃	1.4	1.2	0.4	0.4	左側部欠損。差な剥片を使用。裏面に素材面を残す。	-89806.555	46451.618	91.783
110	F10c	IV・V	CH	石鏃	1.7	1.5	0.4	0.6	基部形成はなく、欠損したものかと思われる。			
111	D8a	V	SH	石鏃	2.9	1.6	0.4	1.5	完形品・側縁部が鋸歯状である。	-89755.606	46429.859	93.577
112	A-434f	V	燧石	石鏃	1.6	1.3	0.3	0.4	左側部欠損。左側は基部折りと同様に折りがみられる。			
113	J12c	V	CHR	石鏃	1.3	1.2	0.3	0.4	完形品。裏面一部、主要剥離面を残す。	-89802.688	46456.966	92.128
114	F10	IV	CHR	石鏃	1.5	1.3	0.4	0.6	完形品。裏面一部、主要剥離面を残す。			
115	J11b	V	CH	石鏃	1.7	1.2	0.3	0.4	左側部欠損。若干、わん曲している。			
116	J12c	IV・V	燧石	石鏃	1.7	1.3	0.3	0.4	左側部欠損。厚手である。			
117	J12b	V	CH	石鏃	1.5	1.2	0.3	0.7	完形品。小形品である。	-89809.912	46453.125	91.623
118	D7b	V	CH	石鏃	1.4	1.2	0.4	0.3	完形品。小形品である。	-89757.209	46424.722	93.464
119	J11d	V	燧石	石鏃	1.8	1.2	0.3	0.5	完形品。折りは浅く、側縁部は鋸歯状である。	-89798.010	46456.986	92.327
120	F11	IV	燧石	石鏃	1.8	1.7	0.4	0.8	完形品。側縁は膨らみ、頭部・脚部先端は丸く調整してある。			
121	F10C	V	CH	石鏃	2.1	1.6	0.3	0.6	側縁は直線的で折りも浅く、弱い。			
122	G12	IV	CHR	石鏃	1.9	1.6	0.4	0.8	完形品。側縁は比較的直線である。折りは浅い。			
123	J11a	V	燧石	石鏃	1.7	1.3	0.4	0.5	完形品・厚みがある。側縁は直線に近いがくびれがある。	-89790.697	46454.634	92.448
124	F12c	V	CHR	石鏃	1.5	1.4	0.3	0.5	頭部・脚部先端欠損。折りが片寄り。	-89802.532	46449.861	91.805
125	J11a	IV	CHR	石鏃	1.9	1.6	0.4	0.8	完形品。裏面一部、主要剥離面を残す。折りが若干深い。	-89790.966	46450.048	92.261
126	SI20	—	燧石	石鏃	2.0	1.6	0.4	0.6	左側部欠損。欠損。			
127	H14a	V	CHR	石鏃	1.9	1.2	0.4	0.6	左側部欠損。折りが片寄り、浅い。	-89822.638	46471.239	91.674
128	H12b	IV	燧石	石鏃	1.7	1.2	0.4	0.4	頭部欠損。側縁は若干、鋸歯状である。	-89808.814	46462.950	92.113
129	H14	—	CHR	石鏃	1.7	1.4	0.4	0.4	完形品。側縁は直線的で折りが若干、深い。			
130	H13b	IV	CH	石鏃	1.4	1.3	0.3	0.4	完形品。側縁は膨らみ、折りが深い。	-89819.535	46471.479	91.917
131	D7d	—	CH	石鏃	1.7	1.0	0.3	0.4	完形品。側縁は直線的で折りが深い。	-89755.271	46426.305	93.454
132	F10b	V	CH	石鏃	1.7	1.3	0.3	0.8	完形品。側縁は鋸歯状である。赤チャートの灰色部分の可能性あり。	-89785.720	46447.793	92.123
133	J11d	V	CH	石鏃	1.9	1.3	0.3	0.3	完形品。側縁は直線的であり、折りが深い。	-89796.406	46455.981	92.264
134	B1-22	III	CHR	石鏃	1.9	1.5	0.3	0.5	完形品。側縁調整は雑であり、折りは直線的で深い。			
135	H13	IV	CHR	石鏃	1.9	1.2	0.3	0.5	右側部先端欠損。側縁はくびれ、折りが浅い。			
136	F11	IV	CHR	石鏃	2.2	1.7	0.4	0.7	完形品。中型。折り深い。			
137	J12b	IV	燧石	石鏃	3.0	2.6	0.4	1.7	完形品。明瞭な鋸歯状側縁。折り深い。	-89807.535	46452.041	91.862
138	D7d	—	QZ	石鏃	2.7	1.3	0.3	1.1	完形品。粘地型石鏃。	-89757.642	46426.433	92.500
139	J11b	V	HF	石鏃	2.0	1.0	3.5	0.5	完形品と思われるが、風化が激しい。折りが浅い。			
140	J11b	V	CH	石鏃	1.4	1.1	0.3	0.4	頭部先端欠損。幅狭く、折りが浅い。	-89795.707	46450.556	92.010
141	G12	IV	CH	石鏃	2.3	1.1	0.4	0.6	完形品。幅狭く、折りが浅い。側縁は若干、膨らむ。脚部先端尖る。			
142	H15	IV	CH	石鏃	2.2	1.1	0.3	0.5	頭部側面・左側部先端欠損。折りが浅く、脚部先端は尖る。			
143	F10	IV	燧石	石鏃	2.2	1.9	0.5	1.2	頭部先端・右側部先端欠損。折りが片寄りみられる。			
144	D7c	IV・V	HF	石鏃	2.8	1.6	0.4	0.5	左側部欠損。折りが浅い。	-89753.671	46427.571	93.330
145	G12	IV	SN	石鏃	3.0	2.0	0.6	2.5	完形品。風化が激しい。			
146	H14d	IV・V	SN	石鏃	3.0	2.1	0.5	2.0	完形品。側縁は膨らみ、折りがやや深い。	-89821.301	46462.837	91.402
147	F10	IV	SN	石鏃	2.6	1.9	0.5	1.2	完形品。側縁は直線的、折りがやや深い。			
148	E8	IV	CH	石鏃未製品	2.2	1.9	0.6	2.5	両面に主要剥離面を残す。成形途中。			
149	J10b	V	CHR	スクレイパー	3.4	2.1	0.5	3.9	両側に二次加工を連続的に施される。	-89785.519	46450.617	92.297
150	H13	IV	CH	スクレイパー	2.2	2.8	0.7	4.4	両面に連続的に二次加工を施される。			
151	H15a	V	CHR	石核	3.1	2.6	2.1	12.8	ピンポン玉ぐらいの礫から、分厚い不定形の剥片剥離。石鏃の素材剥片を供給か。	-89832.312	46471.469	91.171
152	D7	IV	CHR	二次加工剥片	4.1	3.5	1.5	22.5	正面右側・左側に二次加工がみられる。石核の可能性あり。			
153	J12b	V	燧石	石核	2.9	4.1	1.7	13.7	小剥片を自然面から直接剥離。裏面は自然面。	-89806.476	46452.976	91.864
154	C6c	IV	HF	二次加工剥片	4.4	4.2	1.8	26.9	底面・右側面に二次加工を施される。	-89743.724	46415.158	93.930
155	SP5	—	HF	二次加工剥片	7.9	4.2	2.5	97.1	正面に自然面を残す。上面につぶれ？がみられる。			
156	H13a	V	HF	二次加工剥片	10.9	5.7	2.6	123.1	縦長剥片。上面に自然面を残す。右側は裏面側に二次加工有り。	-89813.935	46463.101	91.662
157	D7d	V	HF	二次加工剥片	6.5	6.0	2.6	113.1	剥片末端に二次加工有り。	-89756.157	46425.264	93.379
158	J11a	V	HF	二次加工剥片	8.6	8.3	2.5	227.3	周縁に二次加工有り。礫器か。裏面に自然面を残す。	-89794.331	46450.596	91.998
159	F10b	V	SA	二次加工剥片	8.2	10.3	2.7	248.9	底面に二次加工有り。裏面の自然面に敲打痕有り。	-89789.073	46442.478	91.788
160	J11d	IV	HF	スクレイパー	8.6	6.0	1.8	113.6	周縁に二次加工有り。礫器か。裏面に自然面を残す。	-89797.427	46457.475	92.366
161	F11c	V	HF	スクレイパー	9.4	5.6	2.9	215.6	周縁に二次加工有り。礫器か。裏面に自然面を残す。	-89794.515	46449.888	92.024
162	J10b	V	HF	スクレイパー	6.1	6.9	1.6	93.1	周縁に連続的な二次加工有り。両面に自然面有り。	-89789.657	46451.308	92.158

GR(緑色珪質岩) HF(ホルンフェルス)

第11表 石器観察表 (2)

図No.	Gr	層	石材	器種	長さ(m)	幅(m)	高さ(m)	重量(g)	備考	X座標	Y座標	標高
163	S12	-	HF	スクレイパー	10.0	5.3	2.2	120.6	大きく欠損。礫器か。			
164	J15d	-	HF	スクレイパー	6.8	7.6	2.5	164.2	上面欠損。底面につぶれがみられる。裏面に自然面を残す。礫器か。	-89835.929	46459.659	91.125
165	H11a	V	HF	スクレイパー	6.4	5.2	2.0	78.4	周縁に連続的な二次加工有り。底面に擦痕がみられる。			
166	H14a	IV	HF	スクレイパー	6.6	8.0	1.8	141.6	周縁に連続的な二次加工有り。左側に礫面を残す。	-89822.293	46462.229	91.328
167	F11c	IV・V	HF	局部磨製石斧	2.1	2.5	1.0	5.2	基部を大きく、刃部先端を欠損。両面から研磨し、断面楕円形。			
168	A-4	I	HF	局部磨製石斧	8.4	3.3	1.7	67.2	楕円形の自然面を使用。刃部は両側より研磨し、先端を平らする。			
169	H14	V	HF	局部磨製石斧	6.9	4.0	2.3	81.9	基部欠損。両側面より敲き調整。刃部は研磨され、曲面を呈する。			
170	D8a	IV	HF	石斧	5.4	4.5	2.2	56.0	石斧基部。両面に自然面を残す。	-89760.492	46424.155	93.300
171	B5-16	V	HF	石斧	7.1	5.3	2.3	83.1	両側に連続的な二次加工を施される。			
172	D7c	-	HF	局部磨製石斧	10.0	6.2	2.9	214.0	基部欠損。裏面に自然面を残す。刃部に研磨がみられる。	-89753.613	46428.095	93.242
173	J12b	IV	HF	石斧	10.0	4.0	2.1	98.1	完形品。楕円形の礫を使用し、両側より調整を加えられている。	-89807.146	46452.357	91.791
174	H14a-H13b	IV/V・V	HF	石斧	9.4	4.5	1.5	94.7	完形品。背面に礫面を残す。			
175	D7d	-	HF	石斧	9.6	5.7	3.2	183.8	刃部欠損か。裏面に自然面を残す。	-89756.421	46426.807	195.748
176	F11d	V	HF	石斧	10.3	4.6	1.4	80.2	完形品。薄い礫を使用する。	-89795.463	46449.494	91.948
177	B1-90	IV	HF	石斧	9.6	7.0	3.3	271.6	基部欠損。分厚い礫を母岩として使用。			
178	E9a	IV・V	HF	石斧	6.5	5.5	2.8	123.6	基部欠損。刃部は曲面を呈する。			
179	D7d	-	HF	石斧	10.7	7.6	3.1	337.9	完形品か。扁平・楕円の礫を使用する。右側に潰れ有り。	-89755.349	46428.759	93.315
180	J11a	V	HF	石斧	9.4	5.9	2.6	9.4	完形品。円礫を使用する。刃部は潰れか。	-89794.064	46451.635	92.079
181	F10d	IV	HF	石斧	10.8	6.1	2.8	221.6	完形品。扁平な礫を使用。正面は研磨、刃部は潰れがみられる。	-89787.868	46445.591	91.991
182	B4a	IV	HF	石斧	9.2	7.0	4.0	341.5	礫器か。正面に敲打痕が2箇所確認できる。また、自然面を残す。	-89723.309	46404.184	94.521
183	G12	IV	HF	礫器	6.4	6.4	2.8	126.3	裏面に自然面を多く残す。			
184	A4-63	IV	HF	礫器	9.3	6.6	3.3	269.2	両側に礫面を残す。底面には潰れがみられる。			
185	D7c	IV・V	HF	礫器	11.9	10.5	4.0	767.1	両面に自然面を多く残す。左側面を中心に剥離する。	-89754.930	46427.666	93.214
186	D7a	-	HF	礫器	8.3	7.6	3.0	210.6	底面を欠損。正面全体に多くの剥離がみられる。			
187	D8c	IV	HF	礫器	8.1	7.2	3.2	209.3	側面を中心に剥離を行っている。	-89761.926	46426.852	93.325
188	J12c	IV・V	HF	礫器	7.9	5.3	2.6	117.2	正面を中心に剥離している。裏面に礫面を残す。			
189	F10d	-	OS	礫器	8.7	11.0	4.9	539.4	礫面を利用し、刃部を作り出す。	-89785.339	46447.919	92.272
190	J13d	IV・V	HF	礫器	9.0	6.8	3.7	306.6	楕円礫を使用し上下端を剥離している。正面は敲打痕がみられる。			
191	C7c	IV・V	HF	礫器	8.5	5.3	3.5	161.4	左側面を欠損。裏面に自然面を残す。右側上面は潰れか。			
192	SP4	-	HF	礫器	7.6	9.2	4.0	303.1	正面に自然面を残す。底面は潰れがみられ、正面左には擦痕有る。			
193	I15a	VI	HF	礫器	10.3	7.8	3.2	277.2	両面に自然面を残す。底端は刃部を作り出している。	-89830.337	46474.403	91.167
194	D9d	IV・V	SA	礫器	10.0	10.1	3.5	517.1	扁平な円礫を使用。両面より、調整を行い刃部を作り出している。			
195	F11c	V	HF	礫器	9.4	6.7	4.4	313.5	分厚い礫を使用し、裏面に自然面を残しながら剥離を行っている。	-89784.373	46448.719	92.291
196	SP5	I	HF	礫器	9.1	8.6	3.6	239.4	礫面を両面に残しながら、裏面より二次加工を施す。			
197	J11a	V	HF	礫器	11.5	9.1	4.1	515.0	正面・側面に自然面を残す。底面は調整により、刃部を形成している。	-89792.331	46451.794	92.195
198	J13a	V	HF	石核	7.6	8.0	4.0	266.6	正面に自然面を一部残すが、全体に剥離が施されている。	-89811.308	46451.651	91.997
199	C6b	V	HF	石核	9.1	7.3	4.8	284.1	両面に礫面を残す。	-89745.945	46414.697	93.788
200	C5	IV	HF	石核	9.2	7.2	4.0	350.7	正面に自然面・裏面に主要剥離面を残す。			
201	D7d	IV	HF	石核	8.8	8.1	3.9	286.9	全体に大きい剥離を施す。	-89756.843	46425.629	93.477
202	H14a	IV・V	HF	石核	6.6	7.2	2.8	128.5	裏面に自然面を多く残す。大型の剥離を施す。	-89822.462	46463.660	91.373
203	G12	IV	HF	石核	8.9	5.6	4.4	259.3	両面に自然面を施す。			
204	D8a	V	HF	石核	9.0	5.7	4.5	240.5	円礫を打ち欠いた形状を呈する。			
205	G11	IV	HF	石核	6.8	8.2	4.3	278.8	上面を欠損する。裏面は自然面を残す。			
206	F10d	IV・V	HF	石核	6.4	8.3	4.7	242.0	裏面側面に自然面を残す。全体を剥離がみられる。			
207	D7d	-	HF	石核	9.00	9.0	4.8	416.6	円礫を打ち欠いた形状を呈する。両面は自然面により形成される。	-89756.153	46426.087	93.255
208	SP5	-	HF	石核	8.7	8.2	3.6	273.2	裏面に一部、自然面を残す。右側に潰れがみられる。			
209	C5d	V	HF	石核	8.9	13.0	7.1	1193.6	裏面に自然面を残し、多くに剥離を施す。残核は多面体。	-89739.237	46415.006	93.990
210	SP3	9	HF	石核	10.0	6.9	4.0	270.6	裏面に自然面を残し、打面作出後打面を固定する。			
211	D7	IV	HF	石核	9.3	8.9	5.0	451.6	裏面・底面に自然面を残し、打面作出後打面を固定する。			
212	S12	-	HF	石核	8.6	7.8	4.0	346.8	打面と作業面を入れ替えながら、不定形の剥片をとっている。			
213	F10b	IV・V	HF	石核	8.5	8.3	5.0	363.4	裏面・底面に自然面を残し、打面作出後打面を固定し剥離を施す。			
214	F10c	IV	HF	石核	6.8	8.1	5.1	323.9	両面に自然面を残す。裏面の周縁は潰れか。			
215	J12d	V	HF	石核	8.8	8.4	5.1	412.0	打面と作業面を入れ替えながら、不定形の剥片をとっている。	-89809.240	46455.771	91.757
216	D8	IV	HF	石核	10.2	7.3	2.8	267.1	薄い礫の自然面を一部残し、打面と作業面を入れ替えつつ、不定形剥片剥離。			
217	SP2	7	HF	石核	12.0	8.5	5.3	661.4	円礫を使用し、剥離面角に潰れ有り。両側には敲打痕が見られる。			
218	J10c	IV・V	HF	石核	7.5	7.6	4.7	274.1	厚みのある礫を裏面に自然面を残しつつ、不定形剥片をとっている。			
219	F11c	IV	HF	石核	7.4	6.8	4.6	278.0	厚みのある円礫の正面から裏面に自然面。裏面からの調整がみられる。	-89790.088	46445.914	91.892
220	J10b	IV・V	HF	石核	8.7	6.3	3.0	235.2	薄めの礫使用。自然面多く残す。打面と作業面を入れ替え、不定形剥片剥離。	-89789.335	46453.533	92.431
221	D8b	IV	HF	石核	7.4	6.4	3.4	237.0	薄めの礫を使用し自然面を多く残す。裏面からのみの調整。	-89765.891	46423.848	92.944
222	I14a	V	HF	石核	11.1	7.4	5.6	399.5	自然面を多く残す。右上面より複数の不定形剥片をとる。	-89822.443	46470.990	91.720
223	C7d	IV・V	HF	石核	11.1	9.0	4.1	589.7	裏面に自然面を多く残す。自然面より剥離を行う。			
224	SP2	-	HF	石核	8.3	6.1	5.0	290.2	楕円細長の礫を使用する。不定形剥片剥離を行う。			
225	B1-37	V	SA	敲石	10.4	4.5	2.4	181.5	棒状礫。中央・下・裏面中央に敲打痕。			
226	F10d	V	SA	敲石	10.4	5.4	3.3	252.5	棒状礫。正面下・右側下に敲打痕。			
227	F10a	VI	HF	敲石	10.9	3.0	2.7	98.6	棒状礫。端部に敲打痕。	-89842.763	46482.756	90.653
228	B5-47	V	OS	敲石	6.1	3.4	2.6	77.1	小型の円礫。端部に敲打痕。			
229	D7c	V	SA	敲石か	5.7	4.1	2.5	76.4	棒状礫。端部に敲打痕。	-89754.939	46426.188	93.510
230	D7d	IV・V	SA	敲石	7.5	4.5	3.0	134.5	上下端部欠損。不明			
231	G13c	IV	SA	磨石/敲石	10.2	5.8	3.7	321.1	円礫。正面下と側面下に敲打痕。	-89811.987	46459.671	90.789
232	F10d	IV	SA	敲石	10.4	6.7	4.5	442.9	円礫。正面に2力所敲打痕。	-89788.096	46445.882	91.985
233	F11	IV	SA	敲石/磨石	8.3	5.1	4.3	224.4	円礫。右側欠損。正面に敲打痕。			
234	S10-2	-	SA	敲石	8.1	5.7	5.0	299.4	円礫。正面・裏面に敲打痕。			
235	I16	IV・V	SA	敲石	8.4	5.5	3.7	180.1	円礫。正面下に敲打痕。			
236	H13d	IV・V	SA	敲石	7.8	4.9	4.0	204.9	下端欠損。正面上・右側面下に敲打痕。			
237	G12	IV	OS	敲石	9.7	5.8	4.4	303.2	正面上・裏面に敲打痕。			
238	F10c	V	SA	敲石/磨石	9.2	6.5	4.7	430.5	下部欠損。正面上に敲打痕。	-89831.077	46479.766	91.460
239	D7d	-	SA	凹石	9.7	7.5	3.3	338.5	円礫。正面に2箇所敲打痕。	-89755.712	46428.997	93.356
240	I14b	VI	SA	敲石	8.2	6.8	4.0	281.1	円礫。正面上・右側面に敲打痕。赤化したのか、変色している。	-89829.634	46474.794	91.257
241	B4d	IV	SA	磨石/敲石	9.7	7.1	4.5	409.1	円礫。正面中央・右側中に敲打痕。	-89726.317	46405.607	212.124
242	D7d	IV・V	OS	凹石	7.4	6.4	4.1	275.5	円礫。正面中に敲打痕。			
243	D7c	IV・V	OS	敲石	10.8	5.7	5.0	371.7	楕円礫。正面・裏面に広い範囲に敲打痕。	-89754.882	46428.133	93.068
244	H13b	IV・V	OS	磨石	9.8	7.5	6.2	648.9	円礫。磨面1箇所。			
245	I13b	IV・V	SA	磨石	10.4	10.1	3.1	468.0	扁平な円礫。磨面1箇所。			
246	G12c	V	SA	磨石	7.7	9.3	4.2	384.7	下端欠損。磨面2箇所。	-89804.841	46456.148	91.999
247	D7d	IV・V	OS	磨石/敲石	10.3	8.1	4.6	582.0	円礫。上下端以外が磨面。	-89756.426	46425.951	93.077

第V章 自然科学分析

中ノ迫第3遺跡では、縄文時代早期の集石遺構32基と炉穴21基が検出され、そのほぼすべてから炭化物が出土した。検出層がともに縄文時代早期の包含層であること、出土土器が複数型式でないことからほぼ同時期に作られたと推測されるが、放射性炭素年代測定を実施することで確かなデータを

ることができる。また、炉穴出土の炭化物の種実同定を行うことで当時の植生を解明することが期待できる。以上のような理由から自然科学分析を株式会社古環境研究所に業務委託し、遺跡を残した人々の生活の一端を明らかにすることに努めた。

第1節 中ノ迫第3遺跡における放射性炭素年代測定

1. 試料と方法

試料名	地点・遺構	種類	前処理・調整	測定法
No.1	SP1	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.2	SP3	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.3	SP5	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.4	SP4	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.5	SI33	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.6	SI11	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.7	SI8	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS
No.8	種実No.3574 (SP2)	炭化種実	酸-アルカリ-酸洗浄, 石墨調整	AMS

AMS：加速器質量分析法 (Accelerator Mass Spectrometry)

(1) ^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (AD1950年) から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は、国際的慣例によりLibbyの5,568年を用いた。

(2) デルタ $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。

(3) 補正 ^{14}C 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正值を加えた上で算出した年代。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を-25(‰)に標準化することによって得られる年代である。

(4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を較正することにより算出した年代 (西暦)。calはcalibrationした年代値であることを示す。較正には、年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と ^{14}C 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。

暦年代の交点とは、補正 ^{14}C 年代値と較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1シグマ σ (68%確率) と2 σ (95%確率) は、補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の1 σ ・2 σ 値が表記される場合もある。

2. 測定結果

試料名	測定No. (Beta-)	¹⁴ C年代 (年BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 ¹⁴ C年代 (年BP)	暦年代 (西暦) (1 σ :68%確率, 2 σ :95%確率)
No.1	209389	9020 \pm 40	-26.7	8990 \pm 40	交点: cal BC 8240 1 σ : cal BC 8260~8220 2 σ : cal BC 8270~8190
No.2	209390	8980 \pm 40	-26.1	8960 \pm 40	交点: cal BC 8220 1 σ : cal BC 8240~8200 2 σ : cal BC 8260~8170, 8120~7990
No.3	209391	9720 \pm 40	-26.4	9700 \pm 40	交点: cal BC 9210 1 σ : cal BC 9230~9180 2 σ : cal BC 9240~9140, 8970~8940
No.4	209820	9090 \pm 40	-26.5	9070 \pm 40	交点: cal BC 8270 1 σ : cal BC 8280~8260 2 σ : cal BC 8300~8240
No.5	209392	8880 \pm 40	-25.5	8870 \pm 40	交点: cal BC 8160, 8130, 7980 1 σ : cal BC 8190~7960 2 σ : cal BC 8220~7910, 7900~7830
No.6	209393	9200 \pm 40	-28.6	9140 \pm 40	交点: cal BC 8260 1 σ : cal BC 8310~8280 2 σ : cal BC 8440~8270
No.7	209394	9030 \pm 40	-26.6	9000 \pm 40	交点: cal BC 8240 1 σ : cal BC 8260~8220 2 σ : cal BC 8270~8200
No.8	210493	8820 \pm 40	-24.7	8820 \pm 40	交点: cal BC 7950 1 σ : cal BC 8160~8130, 7980~7800 2 σ : cal BC 8200~7740

3. 所見

加速器質量分析 (AMS) 法による放射性炭素年代測定の結果、No.1 の炭化物では8990 \pm 40年BP (1 σ の暦年代でBC8260~8220年)、No.2 の炭化物では8960 \pm 40年BP (同BC8240~8200年)、No.3 の炭化物では9700 \pm 40年BP (同BC9230~9180年)、No.4 の炭化物では9070 \pm 40年BP (同BC8280~8260年)、No.5 の炭化物では8870 \pm 40年BP (同BC8190~7960年)、No.6 の炭化物では9140 \pm 40年BP (同BC8310~8280年)、No.7 の炭化物では9000 \pm 40年BP (同BC8260~8220年)、No.8 の炭化種実では8820 \pm 50年BP (同BC8160~8130, 7980~7800年) の年代値が得られた。

(文献)

Stuiver et al. (1998), INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

中村俊夫 (1999) 放射性炭素法. 考古学のための年代測定学入門. 古今書院, p.1-36.

第2節 中ノ迫第3遺跡における炭化種実同定

1. はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。堆積物などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができる。

2. 試料

試料は、選別済みの6点の炭化物 (No.3574、No.3577、No.3671、No.3672、No.3782、No.3827) である。

3. 方法

肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

4. 結果

分析の結果、樹木2分類群が同定された。表1に学名、和名および粒数を示し、主要な分類群を写真に示す。以下に同定根拠となる形態的特徴を記す。

- ・コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* 子葉 ブナ科

炭化していて黒色で、やや長細い楕円形を呈し、表面には縦方向に条線が入る。果皮と殻斗が欠落し、子葉のみである。20.3mm×8.2mm。

- ・コナラ属 *Quercus* 子葉(半形・破片) ブナ科

黒褐色で半楕円形を呈する。果皮と殻斗が欠落し、欠損があるため属レベルの同定にとどめた。

18.8mm×10.5mm、17.4mm×9.6mm、16.4mm×9.5mm。

- ・種実の形態ではないものは不明炭化物とした。

5. 考察

種実同定の結果、No.3574はコナラ属コナラ節の子葉、No.3577、No.3671、No.3672はコナラ属の子葉と同定された。なお、No.3782は不明炭化物、No.3827はブナ科とみられる炭化材である。

コナラ属コナラ節は、日当たりの良い山野に生育する落葉高木で、冷温帯落葉広葉樹林の構成要素であるミズナラやナラガシワ、および温帯に広く生育し二次林の性格を持つコナラなどがある。コナラ属コナラ節の種実(ドングリ)はアクが強く、食用とするためには水さらしや加熱処理などが必要である。

文献

南木睦彦 (1993) 葉・果実・種子. 日本第四紀学会編, 第四紀試料分析法, 東京大学出版会, p.276-283.

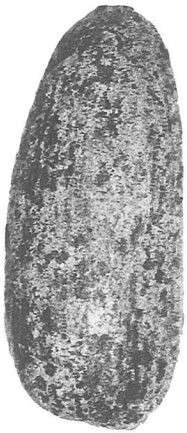
渡辺誠 (1975) 縄文時代の植物食. 雄山閣, 187p

第1表 中ノ迫第3遺跡における炭化種実同定結果

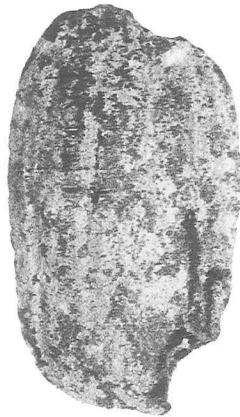
分類群		部位	No.					
学名	和名		3574	3577	3671	3672	3782	3827
Arbor	樹木							
<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>	コナラ属コナラ節	子葉	1					
<i>Quercus</i>	コナラ属	子葉(半形)			1	1		
		子葉(破片)		1				
Total	合計		1	1	1	1	0	0
	不明炭化物						1	

中ノ迫第3遺跡の種実

*材片



1 3574
コナラ属コナラ節子葉
5.0mm



2 3577
コナラ属子葉
5.0mm



3 3671
コナラ属子葉
5.0mm



4 3672
コナラ属子葉
5.0mm

第VI章 まとめ

本遺跡は、川南町の北西部から広がる尾鈴山系東麓より派生した舌状台地の突端部（標高90m前後）に位置している。周辺遺跡を見渡すと、調査区より北東には中ノ迫第2遺跡が、その先には中ノ迫第1遺跡、眼下の低地には前ノ田村上第1・第2遺跡等、旧石器時代から縄文時代早期・弥生時代後期の遺跡が密集していると思われる。

後期旧石器時代初頭から前半の中ノ迫第3遺跡

Xa層より局部磨製石斧が出土した（中ノ迫第3遺跡－旧石器時代I期）。これは、10段階編年（宮崎県旧石器文化談話会2005）の第1段階に相当する。都農町朝倉遺跡でも、同層に相当する層から局部磨製石斧が出土している。県内での出土例は未だ少なく、稀少な資料として注目される。

なお、この時期の他遺跡においては、広範囲に散在する礫群、スクレイパーや二次加工剥片、敲石や磨石、台石などの礫塊石器類の出土がみられることが一般的である。しかし、本遺跡においては局部磨製石斧1点を除いて関連資料は見つかっていない。

AT直下にあたるIX層最上部より礫群が検出された（中ノ迫第3遺跡－旧石器時代II期）。これは、10段階編年（宮崎県旧石器文化談話会2005）の第3段階に相当する。

後期旧石器時代後半から最終末の中ノ迫第3遺跡

Kr-Kbを含む褐色土（VI層）を中心に、ナイフ形石器・角錐状石器や当該時代と思われる剥片等が断片的ながら出土した。小規模な礫群も複数検出された（中ノ迫第3遺跡－旧石器時代III期）。これは、10段階編年（宮崎県旧石器文化談話会2005）の第5～6段階に相当する。

一方、本遺跡と同台地上に隣接する中ノ迫第2遺跡において一定規模の礫群や角錐状石器製作跡を含む石器集中が確認されている。地形からみると、中ノ迫第2遺跡の方がより広く安定的である。これと対比するならば、本遺跡は舌状台地突端部という立地条件から、小規模なブロックのみが展開する空間であったものと考えられる。

この傾向は細石刃石器群も同等であり（中ノ迫第3遺跡－旧石器時代IV期）、細石刃のみが少量出土したのみで、細石刃核はみられなかった。特定の石器集中等もみられなかった。1基のみ検出された陥し穴状遺構はこの時期に相当すると思われる。

縄文時代早期の中ノ迫第3遺跡

集石遺構は、大きくA区南半分・B区北東隅・南西隅の3箇所をなしていた。また、4群+1基の炉穴、土坑が検出された。遺構密度はたいへん高い。

また、これら遺構群にともなって、早期前半の貝殻条痕文土器・無文土器、石鏃・剥片・石核・局部磨製石斧・打製石斧等が数多く出土した。

貝殻条痕文土器は集石遺構検出層にともない多量に出土したが、押型文土器は伴わず小破片2点のみにとどまる。遺跡形成の中心は、早期前半の貝殻条痕文土器の時期と考えられる。また、炉穴（SP2）からほぼ一個体の深鉢が出土しており、炉穴の用途を考える上でも興味深い。自然科学分析の結果では、SP5が他の炉穴や集石遺構より築造時の年代がさかのぼる可能性も指摘できる。

さらに、局部磨製石斧・打製石斧はB区の集石遺構検出層より出土し、周囲に同じ石材の剥片を密にともなっていた。石斧製作が行われたであろう。

そして現代へ

縄文時代早期に大量の痕跡が残された中ノ迫第3遺跡も、発掘調査の中では、それ以後の積極的な人間活動は追いにいくなくなる。唯一、果樹園にとまなう攪乱坑が残されるばかりであった。そして近未来、東九州自動車道となるのである。

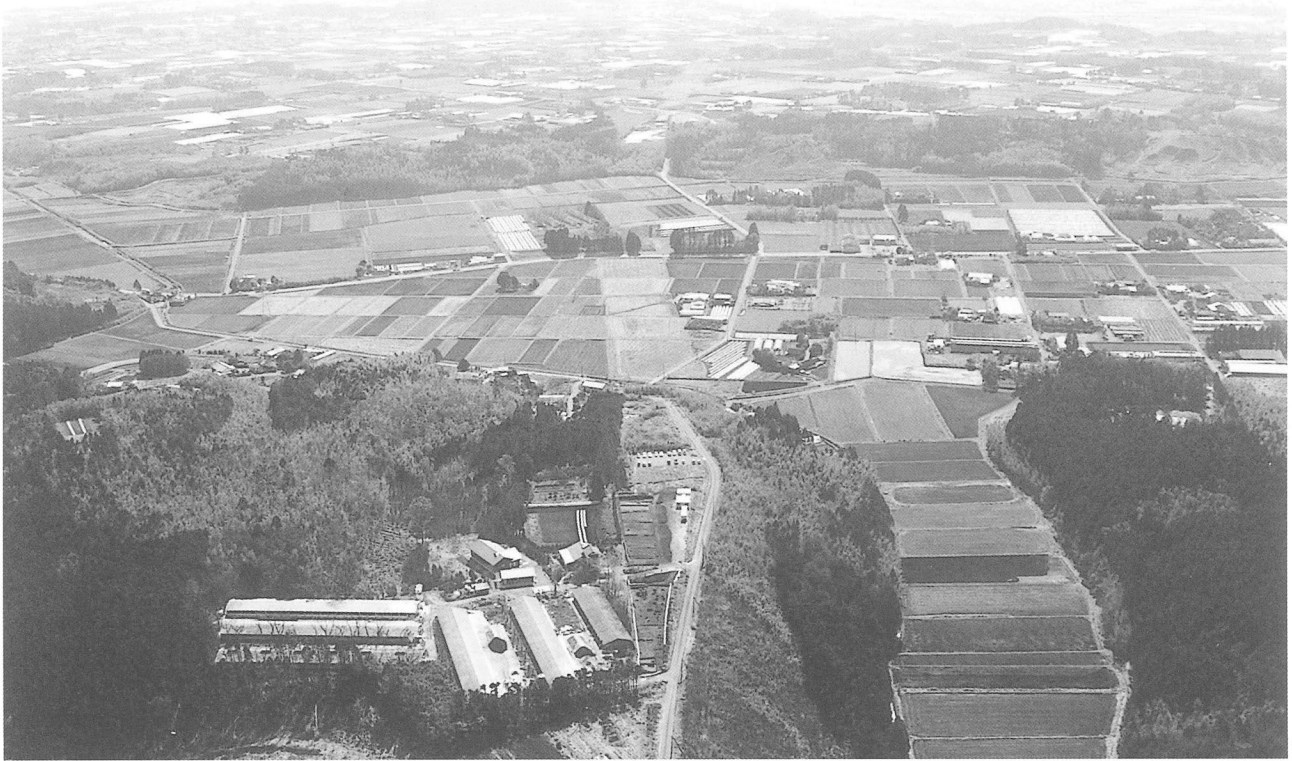
参考文献

宮崎県旧石器文化談話会2005「宮崎県下の旧石器時代遺跡概観」『旧石器考古学』66旧石器文化談話会

圖 版



遺跡俯瞰（垂直方向より）

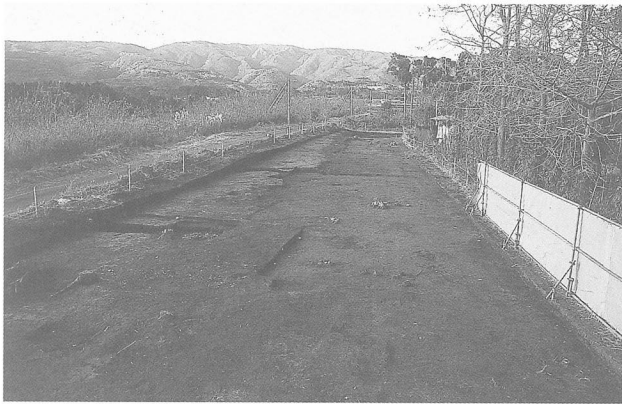


遺跡遠景 (1)
日向灘をのぞむ (中央・道路左側が中ノ迫第3遺跡)



遺跡遠景 (2)
舌状台地の縁辺に立地する中ノ迫第3遺跡 (遠くは尾鈴山系)

図版3



A区 K-Ah残存状況 (南より)



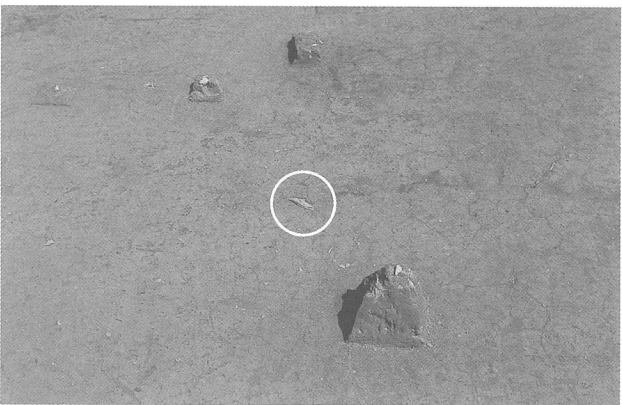
B区 K-Ah残存状況 (南より)



作業風景



基本土層



B区 旧石器時代I期局部磨製石斧出土状況



A区 旧石器時代III期 (VI層検出) S12検出状況



B区 旧石器時代II期 (IX層検出) S11検出状況



B区 旧石器時代Ⅲ期（Ⅵ層検出）SI7検出状況



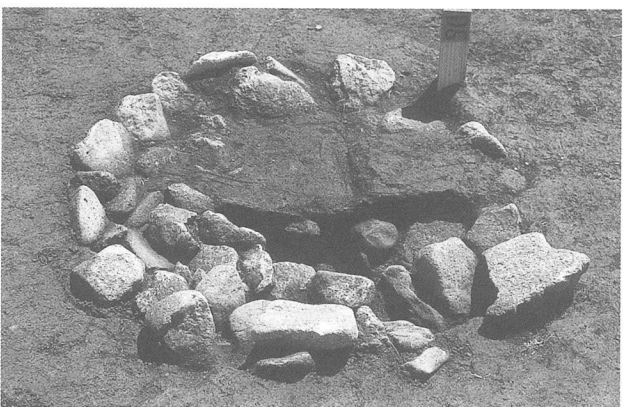
B区 旧石器時代Ⅳ期（Ⅴ層検出）SC3半截状況



B区 旧石器時代Ⅳ期（Ⅴ層検出）SC3土層堆積状況



A区 縄文時代早期（Ⅳ層検出）SI38検出状況



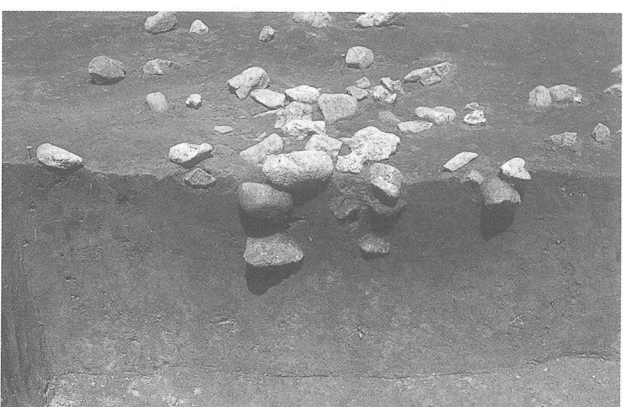
A区 縄文時代早期（Ⅴ層検出）SI33検出状況



A区 縄文時代早期（Ⅴ層検出）SI12検出状況



A区 縄文時代早期（Ⅴ層検出）SI11配石検出状況



A区 縄文時代早期（Ⅴ層検出）SI19半截状況

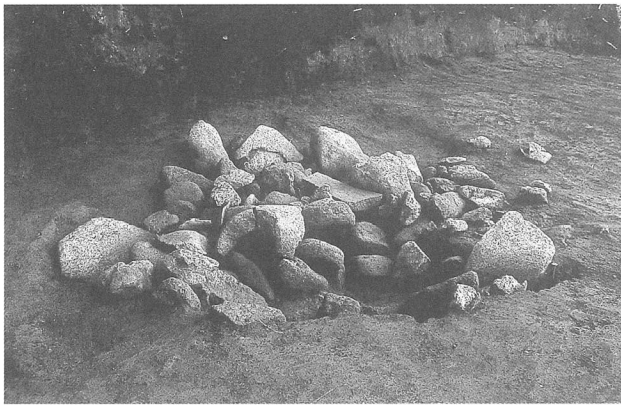
図版5



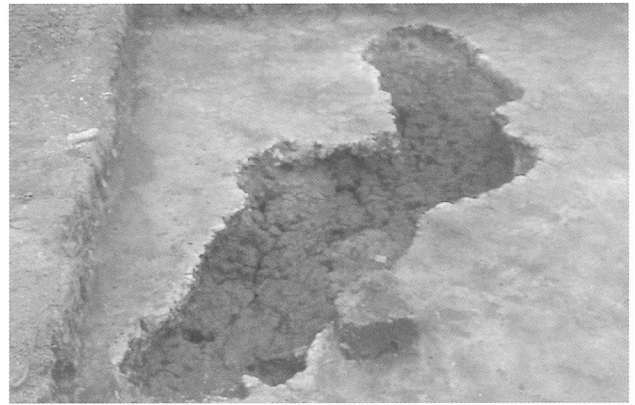
A区 縄文時代早期 (V層検出) SI19完掘状況



B区 縄文時代早期 (V層検出) SI29半截状況



B区 縄文時代早期 (V層検出) SI8半截状況



A区 縄文時代早期 (VIII層検出) SP1焼土面検出状況



B区 縄文時代早期 (VI層検出) SP2焼土面検出状況



B区 縄文時代早期 (VI層検出) SP3焼土面検出状況



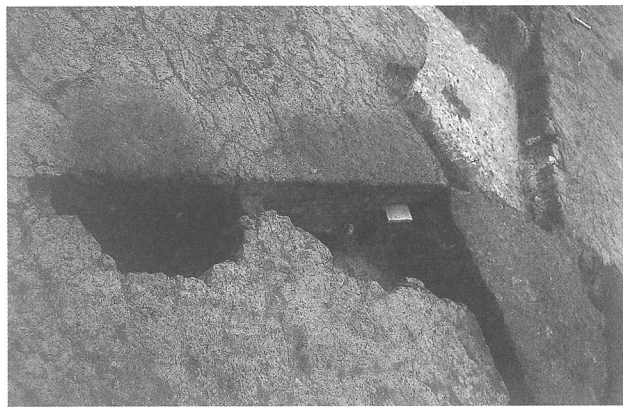
B区 縄文時代早期 (VI層検出) SP4検出面状況



B区 縄文時代早期 (VIII層検出) SP5検出面状況



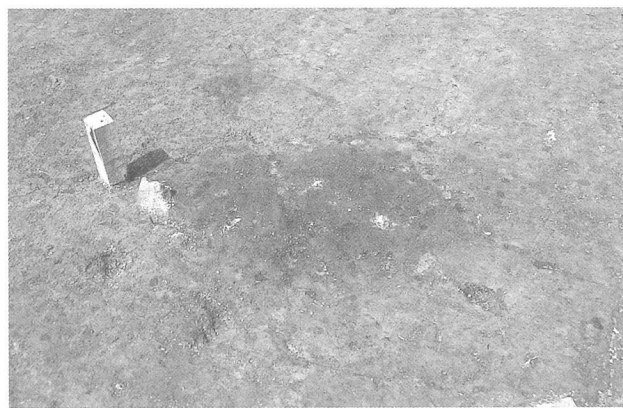
B区 縄文時代早期（VI層検出）SP5ブリッジ検出状況



B区 縄文時代早期（VI層検出）SP5ブリッジ半截状況



B区 縄文時代早期（VIII層検出）SP5焼土面状況



A区 縄文時代早期（V層検出）SC5検出状況



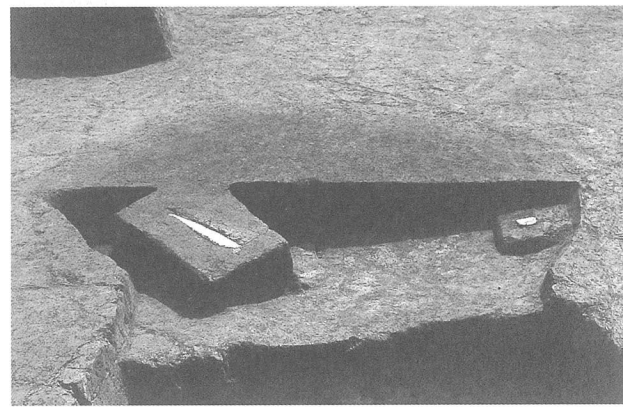
A区 縄文時代早期（V層検出）SC5半截状況



A区 縄文時代早期（V層検出）SC4半截状況



B区 縄文時代早期（V層検出）SC14半截状況



B区 縄文時代早期（V層検出）SC13半截状況